

326

363



始



第二回化學工業博覽會報告



第二回化學工業博覽會報告

大正
15. 11. 27
內交

第二回化學工業博覽會總裁大勳位邦彥王殿下





第二回外學工業博覽會勳章大禮堂駐劄王親王



副總裁清浦子爵



高松會長



審查總長平山男爵



牧田副會長



中松副會長



會場正門

第二回化學工業博覽會報告目次

第一編 事務報告

第一章 總說

第二章 本會の設立及組織

第一節 沿革

第二節 開催の趣旨

第三節 規則

第四節 出品規則

第五節 正副總裁、顧問、役員

第六節 處務分掌

第七節 雇員及傭人

第八節 徽章、制服及門鑑

第三章 會場及施設

第一節 會場の地所及建物

第二節 本館、新館、別館及參考館

第三節 正門、音樂堂

第四節 休憩所及噴水

第五節 特設館及館外出品

第六節	賣店	二九
第七節	入場券賣捌所	二九
第八節	物品預り所	三〇
第九節	救護所	三〇
第十節	廣告塔及誘導裝飾	三〇
第十一節	ポスター案内記及繪ハガキ	三一
第十二節	電燈及電力	三一
第十三節	電話及ポスト	三一
第十四節	請願巡查及消防隊派遣	三四
第十五節	掃除及撒水	三四
第四章	出品	三六
第一節	出品の勧誘	三六
第二節	運賃及乗船車賃の割引	三七
第三節	一般出品	三七
第四節	官廳學校出品	三九
第五節	出品の搬入及搬出	四〇
第五章	審査	四二
第一節	審査部の組織	四二
第二節	審査方針	四四
第三節	審査規程及細則	四五
第四節	賞狀及賞牌	四九

第五節	受賞者名簿	五〇
第六章	儀式及招待	七〇
第一節	總裁宮殿下賜餐	七〇
第二節	上棟式	七二
第三節	開會式	七四
第四節	褒賞授與式	八三
第五節	閉會式	九三
第六節	總裁宮同妃兩殿下御招宴	九五
第七章	行啓、台臨	九八
第一節	皇太子殿下行啓	九八
第二節	皇族台臨	一〇〇
第三節	皇后陛下御使御差遣	一〇一
第八章	觀覽	一〇二
第一節	入場料	一〇二
第二節	入場券	一〇二
第三節	各館觀覽順序	一〇三
第四節	入場人員	一〇三
第五節	名士の觀覽	一〇七
第六節	各學校及團體の觀覽	一〇七

第九章 出品人會

第一節 出品人會の事業

第二節 收支計算

第十章 記念品、慰勞金及感謝狀

第一節 記念品御下賜

第二節 慰勞

第三節 感謝狀

第十一章 收支計算

第一節 補助金及寄附金

第二節 收支決算報告

第二編 審査報告

- 一、 審査概況(部長提出)
- 二、 審査報告(審査官提出)

第三編 出品目録

第一章 一般出品目録

第二章 官廳學校出品目録

四

一〇九

一〇九

一一〇

一一一

一一二

一一三

一一三

一一三

一一五

一一三

一一三

一一七

一一七

一一七

二四九

二四九

三八四

第一編 事務報告

第九章 出品人會

第一節 出品人會の事業

第二節 收支計算

第十章 記念品慰勞金及感謝狀

第一節 記念品御下賜

第二節 慰勞

第三節 感謝狀

第十一章 收支計算

第一節 補助金及寄附金

第二節 收支決算報告

第二編 審査報告

一、 審査概況(部長提出)

二、 審査報告(審査官提出)

第三編 出品目錄

第一章 一般出品目錄

第二章 官廳學校出品目錄

四

一〇九

一〇九

一〇九

一一二

一一二

一一二

一一二

一一三

一一三

一一三

一一五

一一七

一一七

一二七

一二七

一四九

一四九

三八四

三八四

第一編 事務報告

第二回化學工業博覽會報告

第一編 事務報告

第一章 總說

第一回化學工業博覽會は大正六年の秋、上野公園不忍池畔に於て開催せられたるが開會後間もなく颶風の慘害を蒙りしに拘らず當時は所謂戰時の好況時代なりしを以て豫期以上の成績を挙げたり、而して我化學工業協會は其會期中に設立されたるものなるが、爾來本邦の商工經濟界は戰後の恐慌を受け、續て會場に充つべき産業館の火災に罹るあり、更に又關東大震火災の慘禍劇甚を極め、遂に化學工業博覽會の再開を見ざるに實に十星霜の長きに互れり。

而して歐米列國を見るに戰後の創痍を醫せんとして朝野専心其復舊を講究し輿論は期せずして産業發展の基本たる化學工業の保護助長を以て焦眉の急務となし、其發達を圖るに全力を傾倒し平時に於ける一大化學戰を現出するに至れり、翻て本邦斯業の現状を見るに其進歩遅々として遺憾に堪へざるものあり是れ即ち化學工業協會が諸種の困難を排して本會の開設を計畫したる所以にして、國產化學製品を展列して出品者相互の研究に資し以て其發達を圖ると共に製品の擴布と實物教育によりて一般公衆の會得を求め、科學思想の洽普と發明思想の増進とを促がすのみならず進んでは輸入の輕減、國產の増大を獎勵して軍需品の獨立と國民日常生活の安定とに寄與し以て邦家の急に策應せんとせしに外ならず。

本會は其開設に當り畏くも久邇宮邦彦王殿下を總裁に奉戴する光榮に浴し、且つ朝野有識の士舉て多大の援助を賜ひ、殊に官廳民間事業家の優秀なる出品は豫定を超過すること實に六割餘に及ぶの盛況を示し博覽會の華と呼べる、特設館の如きは大規模の申込殺到して會場敷地の不足を訴へ遂に賣店の大部分を

二
不忍辨天前より正門に至る池畔に並列せしむる計畫を立つるに至れり。博覽會開催を發表してより僅かに五箇月、開會に先だつこと四箇月以前に早くも出品申込の豫定に達せるもの未だ其前例あるを知らず、斯くて出品物を精選する自由を得たる本會は内容の充實を豫斷し得ると共に早くも其盛況を期待して歳暮より新春に互り準備事務は順調に進み行きて、花に先だつ三月十九日豫定の如く盛大なる開會式を擧ぐるの運びに達したり。

本會の會場は上野公園不忍池畔の北隅にして敷地總面積七千九百五十八坪陳列館其他建物總面積參千九百四十六坪にして出品人一千八百餘名、出品點數三萬五千餘點之を大規模の博覽會に比すれば其及ばざること遠きが如きも池畔に聳へ立つ一廓は巍然として護國の化學城たり、見よ「文化の結晶、知識の寶庫」と特筆せる城門型の正門と周圍を繞る廻々萬里の長城とを、音樂堂の優美なる建築と朝鮮館の大伽藍とは調和頗る宜ろしきを得、特設館の種々異なる様式は化學城内に陳列せる所謂文化の結晶と相俟ちて規模龐大ならずと雖も能く現代の知識を集約して寶庫内に展開す、陸軍の化學戰バノラマ、海軍の新銳兵器、窒素研究所の合成人造燃料及び空中窒素固定の實演、更に又陸海軍の飛行機數臺に加ふるに戰車の大小三臺眞に化學戰の大威力を思はしむ、朝日新聞が國寶に準ずと誇る訪歐飛行機「東風」は其壯舉が國民の航空思想を刺戟したるに止まらず人智が東西の空界を征服したる實物の出品にして何れも觀衆の賞讃を博し、本會の本領を發揮して工業發達の源泉は化學の應用に在るを痛感せしめざるはなかりき。

時恰かも春陽の好季節、強風の日二三ありしと雖も降雨尠なく會期六旬の間、雨天僅かに四日を算するのみ、東臺に櫻雲霽、池畔に化學の精髓、共に華麗衆目を悦ばしむ、朝野の名流を初め遠近各方面の來觀相踵ぎ一般の人氣頗る好評噴々たるものあり、本會宣傳部は出品人會と相呼應して各種の催しを加へ殊に中等學校、小學校等に一大宣傳を試むるや會場の雜沓愈よ甚だしく最高記録一日約三萬人に及ぶの盛況を極めたり、斯る本會の好評は畏くも天聽に達し

皇太子殿下の行啓竝に各宮殿下の台臨を辱ふし 皇后陛下には特に大森皇宮太夫を差遣遊ばされ何れも精細に御巡覽の光榮に浴したり。

而して出品物審査に至りては其品質に於て第一回當時に比し遙かに優良の成績を擧げ技術の進歩、製造方法の改善等各其特色を發揮せざるはなく、學術的研究と技能の練達大に人意を強ふするものあり、更に一段の努力を以て 總裁宮殿下の令旨「歐米に先づる覺悟」なからざるべからず。

要するに本會は上に 總裁宮殿下の餘光を辱ふし、下に各方面の大なる贊助を受け其準備時代より閉會に至るまで總て順調に進捗して會務の處理、收支の状態悉く良好なりしのみならず國家多事殊に帝都復興の途上に在りて能く家庭と化學工業との關係とに就て一般の注意を喚起し、本邦斯業の發達上寄與する所尠なからざりしを信ず、茲に本會の業績を記録するに當り官廳學校協會學會其他の團體並に新聞通信記者各位の深厚なる御同情と多數の學者事業家各位の多大なる御援助竝に本會囑託以下守衛看守に至るまで能く協力一致して其任務に熱心勤勉なりし勞を多とし茲に深甚なる感謝の誠意を表す。

大正十五年六月

第二回化學工業博覽會々長 高松 豊吉

第一章 本會の設立及組織

第一節 沿革

本會が初めて開催の議を決したるは第一回化學工業博覽會開催中にして當時開かれたる化學工業大會に於ける議案第二に其端を發せり、實に大正六年十一月十五日なりき即ち

議案第二 適當の時機に於て第二回化學工業博覽會を開催すること

提案者たる大日本製糖株式會社々長藤山雷太氏其理由を説明して曰く、化學工業博覽會は斯業の現状を測定し其發達を促す上に相當の效果あるを疑はず然れども今は只だ本邦化學工業の一階級を示すに止まり今後極力之を發達せしめざるべからず依て他に保護獎勵の方法を講ずると同時に適當の時期に第二回化學工業博覽會を開催する必要ありと認む、と云ふに在り滿場一致之れを可決し其時期及場所に就ては化學工業協會に之れを一任したり。

協會に於ては理事會之れを審議し翌大正七年六月八日評議員會に之れが開催を附議したるに其場所及時期は更に理事會に一任したるにより大阪、京都、名古屋方面に對し交渉を開き數次の協議を遂げたるも決定するに至らず遂に再び開催地を東京に定め同年十月廿八日清浦子爵司會の下に準備委員會を開き趣意書及規則書を議了し大正十年春上野公園に再開するに決定せり然るに大正八年夏開催地たる不忍池畔產業館火災に罹り全焼したる爲め自然延期となり、其後產業館の新築成り平和記念東京博覽會の開設あり即ち大正十二年二月十五日の準備會に於ては大正十三年春之れを開くに決定し二月より八月までの準備事務に従事し趣意書の起草規則書の修正役員の詮衡其他一切の準備を終り九月中旬發表の豫定なりしに九月一日に未曾有の大震火災あり產業館大破せし爲め又もや大頓挫を來たして無期延期となりしも大正十三年九月五日の理事會は三たび此議を起し爾來調査を新たにして研究の結果十四年五月十二日の理事會は遂に大正十五年春愈々之れを開くに決定したり即ち五月廿九日、六月十七日の會合に萬般の用意成り六月下旬、總裁

宮殿下を戴きて同月開催の趣意を發表し七月廿九日都下主要新聞通信記者を帝國ホテルに招待して新聞紙に依り其組織規模等を一般に公表したるものなり。

第二節 開催の趣旨

第二回化學工業博覽會開設趣意書

我化學工業協會は來る大正十五年春陽三月を期し

久邇宮邦彦王殿下を總裁に推戴する光榮を得東京市上野公園不忍池畔に第二回化學工業博覽會を開催せんと欲す。

願は歐洲戰亂勃發の際本邦の化學工業尙幼稚にして獨逸を以て化學製品唯一の供給地となしたるか故に忽ち其缺乏を告げ所謂「醫藥染料の飢饉」を來たり爆發原料の如きも亦憂慮すへき状態に陥りたり朝野爲めに狼狽し産業の維持と軍需品の獨立とは一に化學工業に基因することを痛感し官民相協力して俄かに之か企劃改善に熱中したり即ち有志相謀り大正六年秋東京に於て始めて化學工業博覽會を開き本邦に於ける化學工業の状態を展示し諸般工業の發達は其源を化學の應用に發し一國産業の隆興之に據て期圖すへき所以を説明するを得たり斯くて我國民の企業心は著しく刺激せられ各種事業の計劃と共に化學工業も亦都鄙到る所に勃興し其製品は之を海外に輸出するの盛況を呈したり。

然るに平和克復後外國製品の厭倒的輸入に依り本邦化學工業は激烈なる打撃を蒙り事業の休廢相亞き動もすれば戦前の舊態に歸せんとす加之大震火災の慘禍劇甚を極め復興材料の輸入莫大にして國家經濟上益々憂慮すへき現象を呈するに至れり。

抑も化學工業は一國産業の基本なるのみならず國防并に國民の日常生活に重大なる關係を有するを以て斯業の盛衰は實に國運消長の岐る、所なりとす宜なる哉戦後歐米列國は何れも全力を傾倒して之が發達助長に努め其進歩極めて著しく大に見るべきものあるを斯くの如くにして今や化學工業戦は世界到る所に行はれつゝありと雖顧て本邦斯業の狀態を眺むるに彼等に及はざる所多きは遺憾に堪へず。

凡そ平時と戦時とを問はず國家の獨立を鞏固ならしむる爲め大に化學工業の振興を圖らんと欲せば須らく斯業に關し國民全體の覺醒と其理解とに俟ち舉國一致之に當らざる可からず即ち化學工業博覽會を開催し優良なる本邦化學製品を展列し出品者相互の研究に資すると同時に其製品の擴布を圖り且實物教育に依りて一般公衆の會得を求め以て科學知識の普及と發明思想の増進とを促かし能く軍需品の充實と其獨立とを完成し更に又退ては外國品尊重の弊を矯めて以て輸入の輕減を圖り進んては國產の増大を獎勵し以て大に國運伸暢の動機を作ること誠に今日の急務なりとす。

第二回化學工業博覽會を開催する所以は如上の理由に外ならずして實に我化學工業協會本來の使命に鑑みて止むを得ざるに出づるなり庶幾くは大方の諸賢奮て援助を垂れ所期の目的を達成せしめられんとを
大正十四年六月

社團化學工業協會會長

工學博士 高 松 豊 吉

第三節 規 則

第二章 總 則

- 第一條 本會は本邦化學工業の現状を展示して斯業の改良進歩を促かし以て産業貿易の發展に資することを目的とす
- 第二條 本會は第二回化學工業博覽會と稱し化學工業協會之を主催す
- 第三條 本會は東京市下谷區上野公園不忍池畔に開設す
- 第四條 本會の會期は大正十五年三月十九日より同年五月十七日まで六十日間とす
- 第五條 本會に總裁一名副總裁一名を推戴す
- 第六條 總裁は會務を裁攬す

第七條 副總裁は總裁を補佐し總裁事故あるときは之に代る

會 長	一 名	理 事	若 干 名
副 會 長	若 干 名	審 查 官	若 干 名
審 查 總 長	一 名	評 議 員	若 干 名
事 務 總 長	一 名	委 員	若 干 名
審 查 部 長	若 干 名	主 事	一 名
事 務 次 長	一 名	事 務 員	若 干 名

前項の外顧問及名譽賛助員を置く

- 第九條 會長は會務を總理し本會を代表す
- 第十條 副會長は會長を補佐し會長事故あるときは之を代理す
- 第十一條 審査總長は出品審査に關する一切の事務を監理す
- 第十二條 事務總長は本會の事務を統轄す
- 第十三條 審査部長は審査に關する事務を分掌す
- 第十四條 事務次長は事務總長を補佐し事務總長事故あるときは之に代る
- 第十五條 理事は會務を分掌す
- 第十六條 審査官は審査に關する事務に従事す
- 第十七條 審査に關する職員は主務省へ其派遣を申請するものとする
- 第十八條 評議員は重要な會務を評定す
- 第十九條 委員は會務に參與し必要あるときは擔任事務を掌る
- 第二十條 主事は會長の指揮を受け事務に従事す
- 第二十一條 事務員は主務者の指揮を受け事務に従事す

第二十二條 事務員を除く外役員は名譽職とす

第二章 出品

第二十三條 出品は左の各號の一に該當するものなることを要す

一 化學工業に關する製品、半製品及原料

二 化學工業に關する機械、器具及模型

第三 前二號の外化學的知識涵養に資するに足るもの

第二十四條 左の各號の一に該當するものは出品することを得す

一 秩序、風俗及衛生に害ありと認むるもの

二 發火其他危險の虞ありと認むるもの

出品物陳列後に於て前項各號に該當するに至りたるときは本會は其陳列の變更を命し又は出品の承諾を取消することあるへし

第三章 審査

第二十五條 出品は總て之を審査す但し左に掲ぐるものは此限にあらず

一 官廳、學校の出品

二 賣藥

三 外國製品にして出品人の製作に係らざるもの

四 出品部類目錄第四十一類に屬するもの

五 出品人に於て審査を望まざるもの

第二十六條 褒賞は左の六種とす

一 名譽大賞牌

二 名譽賞牌

四 銀牌

五 銅牌

三 金牌
六 褒狀

受賞に就ては異議を申立つることを得す

第二十七條 褒賞を受けたる出品物の產出加工製作又は事業に付其技工設計考案又は經營に協力したる者に對し協賛賞狀を授與することあるへし

第二十八條 審査の爲め出品物を毀損し又は消耗することあるも其損害の賠償を請求することを得す

第四章 觀覽

第二十九條 本會の開場は毎日午前八時より午後五時迄とす但し時宜により開場時間を伸縮することあるへし

第三十條 入場料は大人金五拾錢十五歳未満は金貳拾五錢六歳未満は無料とす

五十人以上の團體及教員引卒の生徒に對しては入場料を割引す

附則

第三十一條 本會の處務細則、出品規則、審査規程、入場者規定其他必要なる規則は別に之を定む

出品部類目錄

第一部

- 第一類 工業藥品及化學用藥品
- 第二類 電氣化學製品及用品
- 第三類 金屬及金屬製品
- 第四類 窯業品
- 第五類 漆液及漆器
- 第六類 ゴム及ゴム製品
- 第七類 皮革及皮革製品
- 第八類 壓縮瓦斯

- 第九類 石炭及加工燃料
- 第十類 乾餾生成物
- 第十一類 染料
- 第十二類 肥料
- 第十三類 爆發物及マッチ(模型又は包裝)
- 第十四類 化學兵器
- 第十五類 礦油及其製品
- 第十六類 油脂及蠟
- 第十七類 顔料及塗料
- 第十八類 擬革、リノリウム及油布
- 第十九類 石鹼及蠟燭
- 第二十類 香料化粧品
- 第二十一類 樟腦、薄荷類
- 第二十二類 醫藥
- 第二十三類 染織物
- 第二十四類 人造絹絲
- 第二十五類 セルロイド及其類似品
- 第二十六類 紙及紙製品
- 第二十七類 砂糖及澱粉
- 第二十八類 酒類及醸造品
- 第二十九類 飲食物及嗜好品

第二部

- 第三十類 寫眞及寫眞用品
- 第三十一類 印刷及印刷用品
- 第三十二類 雜種化學製品

第三部

- 第三十三類 教育及醫療用器具機械
- 第三十四類 分析及實驗用器具機械
- 第三十五類 化學工業用器具機械
- 第三十六類 計器類
- 第三十七類 發光、發熱及燃燒裝置
- 第三十八類 冷却及冷藏裝置
- 第三十九類 安全裝置、防熱、防火、防水、防腐、防濕材料及裝置
- 第四十類 荷造包裝
- 第四十一類 理化學に關する圖書、雜誌、統計報告及設計等

第四節 出品規則

第一章 總則

第一條 出品人は博覽會々費として金拾五圓を支拂ふものとす但し化學工業協會々員に限り金拾圓とす

第二條 出品人は陳列場所使用料として左の金額を支拂ふものとす

一 館内陳列場所使用料

イ 動力を使用する場所

一等 一坪に付 金六拾圓
二等 同 金五拾圓

ロ 動力を使用せざる場所

一 等 一小間(約半坪)に付

金 四拾圓

二 等 同

金 參拾圓

ハ 陳列場所一等等と二等等とを併合して使用する場合は其料金を一等等により計算す

二 館外場所使用料は一坪に付金貳拾圓以上金四拾圓以下とす

三 特殊の場所に付ては出品人と協議の上之を定む

本會の設備に係る陳列棚又は陳列臺を使用する者は前項の外左の使用料を支拂ふものとす

一 陳列棚(硝子戸付)使用料

一小間(間口四尺五寸奥行二尺五寸)

金 參拾五圓

但一小間の二分の一以内は金貳拾圓

二 陳列臺使用料

一小間(間口四尺五寸奥行二尺五寸)

金 貳拾五圓

但一小間の二分の一以内は金拾五圓

所定の陳列棚又は陳列臺を取除き出品人に於て特別の陳列装置をなす場合は協議の上其揚所料を定む

第三條 前條の料金は出品人其の出品を廢し又は減少したる場合と雖之を返還せず

第四條 特設館及特種の陳列裝飾をなさんとする者は豫め設計書を提出して本會の承諾を受くへし

第五條 出品人の申込みたる所要陳列場所の増減或は出品の拒絶及び陳列の位置配列の決定に對しては

異議を述ふることを得ず

第六條 出品の承諾に依る權利を他人に讓渡し又は陳列場所を他人に貸渡すことを得ず

第七條 出品人は會期中陳列所を閉鎖し又は陳列品を搬出することを得ず但し陳列換等の爲本會の許可

を得たる場合は此の限に在らず

第八條 出品の荷造、運送、陳列及裝飾等に關する費用は總て出品人の負擔とす

第九條 出品物の搬出入、裝飾、陳列及説明は出品人に於て之を爲すへきものとす但し出品人の請求に

依り其の負擔を以て本會に於て之を爲すことあるへし

第十條 出品人の爲したる工事は出品人に於て之を原形に復すへし

第十一條 出品人は其の雇傭に係る看守人、説明者其の他の使用人の行爲又は出品人若は其の使用人の

爲したる設備又は工事の爲本會又は第三者に對して生したる損害に付一切其の責に任すへきものとす

第十二條 本會は出品其の他の設備に付相當の注意を爲すと雖も火災、盜難、亡失、毀損其の他の損害

に對し一切其責に任せず

第十三條 出品人は規則其の他諸規程に基く義務を怠る時は本會は適宜の處分を爲し之か爲生したる費

用は出品人より之を徴收すへし

第二章 出品

第十四條 出品人は新規若は改良せる優良品を陳列して其進歩發達及應用狀態を展示するに努め成るへ

く舊來の普通品は種類及員數を減少して陳列場所を有利に使用すへし

第十五條 出品の申込期限は大正十四年十二月末日迄とす但し申込豫定以上に達したるときは期限内と

雖出品を拒絶することあるへし

第十六條 出品せんとするものは第一號書式の申込書及第二號書式の出品目録二通に第一條の會費(郵便爲替又は本會振替口座拂込)を添へ本會に差出すことを要す

出品を拒絶したるときは既納の會費は之を返還す

會場に於て出品物を運轉する爲動力を要するもの若は出品物巨重にして陳列の爲特別の裝置又は基礎

工事を要するものは申込書に其の旨を記載すへし

販賣を爲さざる出品物には出品目録に非賣品たることを明記すへし

第十七條 前條の申込に對しては大正十五年二月十五日迄に諾否を申込人に通知す

第十八條 出品承諾の通知を受けたるときは出品人は第三號書式の解説書并に第二條の料金(郵便爲替

送金手形、又は本會振替口座拂込)を添へ其の通知を受けたる日より十日以内に本會に差出すへし
第十九條 出品人は大正十五年三月十日迄に出品物を搬入し同年三月十七日迄に陳列を終了すべきもの
とす

第二十條 出品物搬入の際は第四號書式の票箋を附することを要す
販賣を爲さる出品物には非賣品たることを明記すへし

第二十一條 閉會後出品物を搬出せんとするときは本會に申出搬出證を受くへし

第二十二條 出品物の搬出期間は閉會後七日以内とす期間中に搬出せざるときは本會に於て適宜之處
分すへし

第三章 出品物賣約

第二十三條 出品物は賣約を爲すこと得

第二十四條 出品物の賣約を本會に委託せむとするものは出品申込の際其の旨を附記し其の搬入の際第
五號書式の委託證を差出すへし

前項の場合に於て本會は賣約金額の百分の十を收納すへし

第二十五條 出品物の賣買契約は出品目録所載の賣價に依るへし

第二十六條 出品物の賣價を變更せんとするときは本會に申出承諾を経へし

第二十七條 賣約の場合に於て代金拾圓以上の物品にありては其の二分の一以上の手附、拾圓未満のも
のにありては代金金額の拂渡を受くへし

第二十八條 委託出品の賣上代金其の他の清算は閉會後二ヶ月以内に之を完了すへし

前項拂渡に要する送賃は出品人の負擔とす
(書式略す)

第五節 正副總裁、顧問、役員

總裁 久邇宮邦彦王殿下

副總裁 子爵 清浦奎吾

顧問 子爵 澁澤榮一

同 男爵 武井守正

同 男爵 田健次郎

役員 (いろは順)

會長 工學博士 高松豐吉

副會長 工學博士 牧田環

理事 飯田藤二郎

同 戸村六壽

同 小野良三

同 鴨居武

同 工學博士 吉武榮之進

同 田中榮八郎

同 相馬半治

同 植村澄三郎

同 松永安左衛門

同 藤田謙一

同 小林音八

同 阪田八十郎

同 正田桂太郎

顧問 子爵 金子堅太郎

同 男爵 平山成信

同 男爵 阪谷芳郎

同 内田嘉吉

副會長 藥學博士 中松盛雄

理事 池口慶三

同 星野錫

同 渡邊勝三郎

同 龜高德平

同 理學博士 棚橋寅五郎

同 工學博士 田中次郎

同 辻村楠造

同 松岡壽

同 藤原銀次郎

同 藤山雷太

同 青木菊雄

同 鹽原又策

同 鈴木梅太郎

同 農學博士 杉原榮三郎

事務總長(兼) 中松盛雄
主事 鈴木謙二

事務次長(兼) 小林音八

名譽賛助員

男爵 岩崎小彌太
池田成彬
今北策之助
原邦造
濱口儀兵衛
堀啓次郎
別府總太郎
得能佳吉
太田政弘
小川正孝
岡正雄
渡邊勝三郎
神戶舉一
龜井光政
吉田豐彦
丹波敬三
田中隆三
根津嘉一郎

井坂孝
池田宏
岩原謙三
服部金太郎
濱岡光哲
星永一
富永鴻
時永浦三
小野英二郎
大川平三郎
大海原重藏
上富野富之助
金子直吉
川淵洽馬
團琢磨
頼母木桂吉
津村秀松
中村是公

子爵 稻畑勝太郎
伊東喜八郎
石塚英藏
原富太郎
長谷川久一
本郷房太郎
豐田勝藏
長延連
大倉喜七郎
大河內正敏
小幡豐治
鹿島房次郎
加藤敬三郎
川西清兵衛
田阪千助
武內作平
次田大三郎
內藤久寛

子爵 市來乙彦
井上匡四郎
橋本圭三郎
鳩山一三郎
濱田恒之助
堀切善次郎
土岐嘉平
大倉喜八郎
大橋新太郎
大塚惟精
大角峯生
梶原仲治
門野重九郎
米山梅吉
田原良純
高橋守雄
津野一輔
中島久萬吉

男爵

中野勇次郎
中井勵作
中川健藏
宇佐美勝夫
久原房之助
安田善次郎
山成喬六
山岡順太郎
横松鎮次郎
松浦鎮次郎
藤岡兵一
香坂昌康
鴻池善右衛門
淺野總一郎
有賀長文
阿部壽準
佐々木勇之助
齋藤宗宜
木村久壽彌太
紀俊秀
御木本幸吉
三浦實生

男爵

長井長義
長岡外史
直木倫太郎
牛塚虎太郎
串田萬藏
安廣伴一郎
山岡國利
馬越恭平
松原權四郎
藤田平太郎
降旗元太郎
後藤祐明
江口定條
荒木寅三郎
淺利三郎
指田義雄
齋藤守圀
柵瀬軍之佐
柵島像一
結城豐太郎
三井元之助
三松武夫

男爵

中澤岩太
中川望
永井準一郎
梅谷光貞
黑瀬弘志
安田耕之助
山脇春樹
山野文二
眞野義一
松村義一
古河虎之助
兒玉謙次
後藤文夫
遠藤柳作
麻生太吉
縣生忍
佐藤昌介
佐竹義文
崎川才四郎
菊池恭三
湯川寛吉
宮島清次郎
水野直

男爵

成瀬正恭
長野幹
武藤山治
上田萬平
桑山鉄男
山本悌二郎
山縣治郎
松方幸次郎
昌谷彰
福澤桃介
古在由直
小山松壽昌
田吉忠一
有吉周三
青木周三
櫻井錠二
齋藤行三
佐上信一
喜多又藏
三井八郎右衛門
三邊長治
志村源太郎

男爵
評議

志立鉄次郎
白上佑吉
森廣藏
住友吉左衛門
末松偕一郎
員
池田秀雄
石川忠篤
石川昌次郎
石川一平
飯田治彦
岩井勝次郎
入江海平
橋本正彰
波多野貞夫
西田博太郎
西崎弘太郎
土肥修策
近重眞澄
大口喜六
大橋顧四郎
岡本櫻

白仁武
柴田善三郎
元田敏夫
鈴木三郎助
鈴木岩次郎
生田清三郎
池田敬八
岩田安男
石田安治
伊藤琢磨
岩崎俊彌
磯野良吉
早崎龜壽
花木三二郎
西川虎吉
保々誠次郎
鳥谷部末治
大幸勇吉
小畑源之助
緒方勝一
大倉恒吉

男爵

四條隆英
平塚廣義
關一
鈴木岩次郎
池田岩三郎
池田菊苗
池田十三郎
井田清三
市川俊雄
石川弘藏
六角紫水
六角敏行
伴野欣平
西野付直
本多光太郎
土生信一
小田川全之
大島義修
大島義清
尾崎伊兵衛

白根竹介
森村開作
清野長太郎
鈴木信太郎

伊東二郎
伊東周
井上榮
伊藤東真
伊藤佐助
伊藤千太郎
原田鎮治
波多野保二
馬場由五郎
新田長次郎
堀田
戸野周二
大倉和親
岡田忠彦
長部文治郎
渡邊嘉一

若林與右衛門
加瀨忠次郎
加茂正雄
片岡長治
川添眞蔚
吉村素義
横田郷助
俵國一
多木桑次郎
高橋是賢
田澤又右衛門
竹内友治郎
竹内可吉
田沼義三郎
樽井清右衛門
曾根茂吉
鶴見左吉雄
中西四郎
中井三之助
中山太一
中出久藏
内田壯

渡邊素夫
片山正夫
河井眞三
笠井眞三
河西善兵衛
米井信夫
吉村哲三
田中奎次郎
瀧川儀作
大道良太
田中芳雄
高橋三郎
高津清
高杉晋
棚橋源太郎
蘭下綾太郎
津下綾太郎
中澤良夫
中井四郎
長瀬祐三郎
長井久太夫
内村達次郎

渡邊綱五郎
川口徳三
川崎克
嘉納治郎右衛門
加藤晴比古
横河民輔
田崎留太
田邊五兵衛
高島菊次郎
辰馬吉左衛門
武田長兵衛
武部欽一
武部虎雄
種田二郎
武田二郎
蘭部一丸
辻本滿九郎
鶴卷鶴一
内藤彦一
中村房次郎
長與又郎
村井貞之助
宇佐美桂一郎

録田彌壽治
加藤與五郎
片山三郎
嘉納治兵衛
上村長兵衛
吉川安平
高田直乾
竹澤太一
田原豐
辰馬悅藏
高岡齊
高田平
田澤義輔
田中林助
副島千八
津村重舍
根岸政一
内藤英造
長崎英造
中松眞郷
村上隆吉
上野金太郎

評議員委員

厚木勝基 秋保安治 佐伯安矩 北島安五郎 湯淺藤市郎 箕田長三郎 三宅川百太郎 三木武吉 宮本甚七 莊司市太郎 白石元治郎 鹽野義三郎 鹽野長治郎 平野豪 樋口彦右衛門 守谷吾平 森下重吉 關口八重吉 鈴木忠治 鈴木孝雄 石川一郎

有島健助 澤全雄 岸清一 岸敬二郎 三井清一郎 三谷一三郎 三村鐘三郎 三井米三郎 御厨規三 下村孝太郎 清水連郎 宿利英治郎 鹽野吉兵衛 平尾贊平 平佐惟一 森岡平右衛門 森井利喜 瀨谷準造 住田多造 岩田勇

栗屋謙 佐野善作 木村平右衛門 由良淺次郎 溝口直亮 三好久太郎 三輪善兵衛 宮内國太郎 光永眞三 志賀直温 島村足穂 島津源藏 篠田鑛造 平熊友明 平田貫一 諸井恒平 森平兵衛 關谷龍吉 鈴木錠藏 西田博太郎

天野千代丸 佐分利貞男 錦光山宗兵衛 湯淺武孫 水田政吉 宮原敏 三宅米吉 三上虎太郎 篠崎英之助 志賀泰山 島田久兵衛 斯波忠三郎 日高榮三郎 廣瀬直幹 平野耕輔 桃谷政治郎 森谷延雄 鈴木達治 鈴木市之助 大島義清

梅田音五郎 植田豐橘 野口明遵 野中勝明 窪田四郎 安滿欽一 山田三次郎 山口喜三郎 山口喜三郎 矢部規矩治 山本留次 松村精一 松風嘉定 松村眞一郎 慶松勝左衛門 藤澤友吉 藤井榮三郎 古屋隆慶 小林久平 小寺房治郎 江口治

植村琢 宇田友四郎 野間譽雄 野々村佐一郎 久保田四郎 百濟文輔 山下巍八郎 矢中龍次郎 山村銳吉 山崎龜吉 山田益彦 松井元治郎 松原行一 松井茂 松尾經喜 藤江章夫 藤山常一 古田宗二郎 深澤清吉 近藤清治 近藤兵三郎 穴水要七

上野長雄 内坂素夫 野村嘉六 野々村政也 熊澤治郎 九鬼紋七 山田準次郎 山科禮藏 山岸慶之助 矢野道也 藪方正熊 松越幸次郎 馬井元太郎 松尾國松 藤本清兵衛 藤崎三郎助 藤野懿造 藤田順 小西新右衛門 小島庄吉 淺村三郎

宇賀四郎 野口寅之助 野田鶴雄 楠瀬熊治 黒田英雄 矢野恕 山内英太郎 山田馬次郎 山内政良 安場末喜 山邑太左衛門 松方五郎 松本均 松江春次 松井善助 藤田彦三郎 福井松雄 二神駿吉 藤井靖美 小林富次郎 小泉米藏 淺野泰治郎

第八節 徽章服制及門鑑

本會副總裁以下役員、事務員、審査部員、新聞記者並に出品人等佩用の徽章は七寶製斜方形にして中央に化工の文字を組合せ地色によりて役員と出品人とを區別したり。

佩用者	地色	中央圓形部	「化」字	「工」字
役員	金	青	白	紫
出品人	金	白	赤	紫

本會の守衛看守及小使人夫の服制左の如し。

着用者	地質	色	形状	帽
守衛	羅紗	黒	フロックコート形にて前部に金色鈕四個宛に二列に腰部に二個を附す	黒羅紗海軍型にて金モトルを巻き班長は太く守衛は細くす
看守	メリンス	紫	天平式改良型	
小使人夫	木綿	紺	半徑背に會章標に會名を付す	

本會出入商人、出品人の使用人、賣店主並其使用人に對し門鑑を交付せり其形状は橢圓形にて材質証を用ひ寸法は縦二寸二分、幅一寸四分、厚二分五厘なり。
臨時門鑑は指定の期限内に用ゆるものにて紫の横線に依りて一目直に其期間を知るに便ならしめたり。



第三章 會場及施設

第一節 會場の地所及建物

本會敷地は上野不忍池畔に於ける日本産業協會所有の産業館と共に借用したる敷地及び本會が今回特に東京市より借用の敷地とを合せて會場用地となし外圍を以て區劃したるものなるが別に辨天堂前より會場正門に至る不忍池畔の公園遊歩道は私設博覽會に前例なかりしも特別に使用を認可され賣店用地となしたるものにて此等の坪數及區別左の如し。

一、會場敷地總面積

七千九百五拾八坪

内

日本産業協會より借用敷地

四千四百參拾五坪

東京市より借用敷地

參千八拾壹坪

同 (不忍池畔 店用地)

四百四拾貳坪

二、會場建物總面積

參千九百四拾六坪

内

陳列本館

壹千四百四拾六坪

別館(動力館)

四百四拾八坪

新館(接續館)

壹百八拾九坪

參考館(階上迎賓館)

壹百八坪五合

事務所(階上審査部)

壹百參坪五合

音樂堂

四拾七坪

特設館

四百四拾七坪

館外出品陳列場

貳百四拾六坪五合

賣店

八百六坪五合

詰所其他

壹百四坪

外に正門塔内に出札場を設け尙廣告塔(九坪)及び掲示板等あり又朝日新聞社記念繪ハガキ賣店(二坪)同活動寫眞場(參拾四坪)等あり。

第二節 本館、新館、別館及參考館

本館は鐵筋コンクリート造にして之れを東西南北四館に分ち別圖の如く部類別に陳列したり、本館の中庭中央部には南北兩館を連接して新館を増築し主として地方の出品を陳列せり。
別館は一名動力館と稱し運轉を必要とする出品物を陳列し其一部を官廳の參考品出品陳列に充つ。
參考館は陸海軍の出品のみにて其階上を貴賓室とし又階上一部は優待券所持の來觀者休憩用に充てたり

第三節 正門、音樂堂

本會副會長中松盛雄氏の考案に基き津田建築事務所に於て意匠化したる正門は城砦の櫓に型どりたるものにて高さ五十尺の圓形なり下部は直徑九尺にして内部に出札場を設く正門より接續する池畔の扉は萬里の長城に模し二間の間隔を置きて長三角の彩旗を掲ぐ正門の頂上には二間の旗竿を建て、國旗を掲揚し國旗の下部より遠く本館の塔に至る數條の萬國旗と池畔賣店の門に至るまでは又數條の萬國旗を掲ぐ、而して正門の右は本會名を大書し左には「文化の結晶、智識の寶庫」と特筆され其上に回轉式サーチライトを置き夜間は四方を照せり尙此門の上部に設けし窓よりラヂオの大喇叭を突き出し東京放送局の受信は勿論、屢々種々の音樂を放送せり正門の斬新なる意匠と之れに連なる長城の雅趣深き色彩は頗る莊重の觀を呈し何人も讚辭を惜しまざりき。
音樂堂(餘興場)は東京高等工藝學校教授森谷延雄氏の圖案に基きたるものにて建築の様式全然舊套を離

脱し然かも優雅の色彩は華美に流れず殊に背景のクリーム色ボカシは氣品頗る高く其圖案建築方法等の書類を要求し來るもの多數ありしは如何に衆目を惹きしかを窺ひ知るに足る。

第四節 休憩所及噴水

本館中庭に無料休憩所を設け共同椅子百餘脚を置き團體入場者及一般觀覽人の便に供したり尙湯沸し茶碗其他を用意し番人を附し自由に湯茶を供したるが室内には古流家元立原清香氏の斡旋にて鈴風流家元森月影氏、松東流家元江夏理榮氏、明治古流家元森素秋氏等何れも其高弟と共に插花數十杯を寄贈せられ何れも其蘊蓄を傾けて時々插花を取換へ會期中絶えず休憩所を飾られ非常に來觀者を喜ばしめたるは本會の感謝措く能はざる所なり。

尙又休憩所前面の中庭には特に池を設け其中央には電動機によりて絶えず美しき噴水を掲げ池の周圍には花園を造りて紅白とりんの草花を植ゑ茲に數個の共同椅子を置きたれば來觀者は噴水と草花を眺めつゝ疲勞を休むるもの多かりき。

休憩所は會期中特に活動寫眞館に改造し東京映畫會に託して教育用のもの並に滑稽もの、映畫を絶えず撮影して休憩の序に映畫を觀覽せしむること、なしたれば陳列觀覽の途中此處に入り來るもの亦尠なからざりき。

第五節 特設館及館外出品

本會開設に當り特設館の申込は非常に多く遂に其申込を拒絶せるもの數件あり然かも配置圖に示す如く何れも大規模のもの軒を連ねて構内狹隘を告げ賣店の大部分を池畔に移すに至りしものなるが其構造は各自競争的に意匠を凝し請負業者と従事員は腕競べにて建造を急ぎしものにて其結構壯麗なること此種博覽會に前例を見ざりし所なり即ち左の如し。

淺野物産株式會社 一五坪

明治製菓株式會社

一八坪

ベルベット館	二〇坪	日本ヒュームコンクリート會社	一五坪
京都館	五〇坪	マノール油脂館	一二坪
大日本麥酒株式會社	三〇坪	朝鮮館	八七坪
中山大陽堂	七二坪(二階)	カールビンス磨館	一二坪
日本毛織株式會社	一八坪	ライオン齒磨館	一二坪
森永製品會社	一九坪	大關館	一二坪
日本麥酒鑛泉會社	三〇坪	東京瓦斯株式會社	二〇坪
インダンスレン染料館	五坪		

館外出品は其の容積の巨大なるため又は陳列の特種なるため或は實驗を施行するに付き普通出品と伍し難き等より本館又は別館等に排列せずして館外に陳列したるものにして即ち左の如し。

- 一、重戦車 一臺 十三坪 陸軍自動車學校
- 一、「サンシャモン」輕戰車 一臺 約七十坪 横須賀海軍軍需部
- 一、裝甲自動車 一臺 約七十坪 遞信省航空局
- 一、海軍三葉飛行機 一臺 約七十坪 東京府立化學工業學校
- 一、「ハンザ」水上偵察機 三臺 約七十坪 東京朝日新聞社
- 一、佛國ニューポール式軍用飛行機 三坪 東京朝日新聞社
- 一、人造絹糸製造實演 五〇坪 東京朝日新聞社
- 一、訪歐飛行機「東風」 二四坪 伊藤飛行場
- 一、同上記念品陳列 五坪 水野窯業所
- 一、飛行機用プロペラー回轉實演 四坪 山口半兵衛
- 一、樂燒實演 一坪半 齋藤省三
- 一、ガソリン唧筒

- 一、曲木家具類 三坪 澁谷幸道
- 一、萩島風呂速沸裝置實演 二坪 萩島省二
- 一、噴水用揚水唧筒 一坪 齋藤省三

第六節 賣店

會場内に於て各種賣店の開設を希望するものに對しては別項賣店規則によりて其申込を受付けたるが會場構内は特設館の多き爲め賣店敷地に充つべき場所は三個所として合計僅かに百二十坪に過ぎず別に中庭に存在すれども其大部分は朝日新聞社出品の訪歐飛行機及記念品陳列場及び本會施設の休憩所看守控室等に充てたれば是又賣店敷地は僅少なるを以て止むを得ず東京市役所公園課に懇願し特に構外なる不忍辨天堂前より正門に至る池畔即ち公園の遊歩道路を巾二間長さ百二十間を二列(中央に五間巾の道路)四百四十餘坪を借受け之れを全部賣店に充てたるも申込数は總坪數の三倍に達し到底收容の地なきに付き遂に申込人を集めて抽籤を施行して漸く其割當を爲せり尙本會出品入にして即賣を希望するもの、爲めに別に中庭に出品人賣店を設け(館内にて即賣は許さず)出品物と同一品を即賣せしめたり是等賣店の内飲食店に關しては特に嚴重の取締を爲し火氣に就ては賣店規則以外別に取締内規を以て一層注意を嚴にし警視廳と交渉して飲食品の爲めに特に衛生吏員の出張を乞ひ事務所樓上にて分析試驗を爲し不良品は發見次第注意及び處罰を加へ火氣取扱の賣店に付ては警察署消防署と打合せ賣店の構造を改め其取扱人を定め尙非常口を増設しガソリンの貯藏所を置き其量を制限する等特殊の取締を爲せり。

第七節 入場券賣捌所

入場券賣捌は本會直營にして正門の下部を利用して各三個の賣捌口を設け裏門には門外に賣捌所を設けたり、日曜祭日其他雜沓の時は移動ボックス三臺を正門外に配置し各二個の窓口より賣捌を爲せり、平常の出札係は八名なるが移動ボックスを使用する時は十四名に増加せり。

第八節 物品預り所

觀覽人の便宜の爲めに正門内右側に建坪六坪の物品預り所を設け、物品一個金五錢と定めたり又自轉車は全部裏門外の空地にて預り一臺金十錢と定めたるが屢々自轉車にて往復する者の爲めに回数券を發行し割引を爲さしめたり。

第九節 救護所

日本赤十字社東京支部にては本會の依頼により會期中土曜日曜及祭日には同社救護班一組（醫員一名看護婦二人夫一名）を會場正門内右側に設たる救護所に派遣し本會従業員、觀覽人其他會場内外に起りし疾病負傷等の救護に備へたり其他の平日には赤十字社より看護婦一名を常置して應急手當に任せしめ事ある時は豫め特約せる附近の醫師に來診を請ふこと、なせり而して會期六十日間に取扱ひたる患者は一般に輕症にして總數百九十八名なりき。

第十節 廣告塔及誘導裝飾

上野公園電車停留場前俗に袴腰と稱する場所に建設したる本會の廣告塔は建坪九坪高さ五十尺の堂々たる城砦の櫓形にして中央に會名其下方に會期を書し左右に「智慧の市」と特筆す頂上には高さ二間の旗竿に國旗を掲げ尙サーチライトを置く頂上の左右に五尺の腕木を差出し之れに電燈を吊下げ夜間は塔内に特殊の照明裝置をなし以て書名其他の文字を外より讀むことを得せしむ斯くも世上俗惡の形式を超越したる獨特の様式は美術建築界に一服の清涼劑を投じたるものにて年々歳々種々の意匠に見飽きたる同所附近の住民も上野公園を背景として能く釣合を得たる斯くも莊重に古雅優美の建造を見たることなしと賞讃せざるものなかりき。

尙ほ會場は不忍池の北畔にて山下よりは池畔賣店を以て殆んど接續すれども未だ充分ならずとなし山下

廣告塔の横、上野元黒門町地先より右池畔賣店までの道路に約十間の間隔を置いて裝飾柱を樹てたり又、上野山下の各町は聯合して夫々自費を投じ其店頭に本會祝賀の裝飾を施し大に景氣を添へられたるは本會の深く感謝する所なり。

第十一節 ポスター、案内記及繪ハガキ

本會は開會前ポスターに依りて大に宣傳を爲さんとし菊全版及び四六版四截二種のポスターを印刷し之を鐵道省、朝鮮總督府鐵道局、臺灣總督府交通局並に南滿洲鐵道株式會社所管の各主要驛其他全國私設鐵道各驛、各汽船會社本支店、船客待合所、汽船内に配付し尙ほ東京市郡の旅館、料理店、酒店等に之れを掲げたるが府廳、市役所、區役所、銀行、會社並に近縣各郡市役所、町村役場等に於ても右に關し厚意を表され會期中之を掲げられたるは深く本會の感謝する所なり又本會出品人にして電車通り其他大通りに面する者は其店頭の一部に本會のポスターを掲示されたるは其厚意謝するに餘りあり。

本會開設の趣意及出品の狀況を摘録する案内書の發行は頗る一般の便宜なるを以て本會は開會當日に於て「化學の輝」と題する會場明細圖入り百五十頁の案内書を發行し開會式參列者に全部之を配付し尙行啓、台臨に際して之を獻上し優待券所持の來觀者には悉く寄贈したり。

尙又別に記念はがき二組を調製し前記「化學の輝」と等しく來賓に寄贈したり。

第十二節 電燈及電力

一、電氣施設の要旨

博覽會々場に於ける電氣施設を大別して、(一)博覽會直接施設、(二)出品者施設、の二種とす。本會建造物に對しては會自身に於て施設すべきは勿論なれ共、出品物に對する照明は出品者に於て之れを適當に施設するを便とす。然れ共、各出品者の施設費は成る可く低廉に且つ公平ならしむるため出品者施設の幹

線工事費は本會に於て一部負擔し之を施設したり。

電力は本會に於て東京市電氣局より供給を受け一般出品者に對しては成る可く簡易に且つ低廉に電氣使用の利便を得せしめむことを計り、別に電氣供給規程を設けて之を使用せしめ、尙工事費に於ても豫め一定基準を定め、開會實際に於ける工事の溢滞と工事費の暴騰を防ぐに努めたり。

二、電氣工事

外線工事は全部東京市電氣局に於て施行せり。

内線工事にありては全部之を東京市電氣局電氣工事委託店に入札又は指名に依り委託施工せしめたり。之れ過去の經驗に依り博覽會に於ける電氣工事は最も深甚なる注意を要すると共に工事者自身に於て責任を持つに非ざれば到底工事の完全を期すること困難なるを考慮したるがためなり。

三、博覽會電氣設備

東西本

既設設備を利用し警備燈として二〇〇「ワット」瓦斯充填電球十四燈を裝置す。

北館

警備燈十二燈、二〇〇「ワット」瓦斯充填電球を使用し尙館内事務室には別に五〇燭光一燈を施設せり。

動力館

警備燈十燈、二〇〇「ワット」瓦斯充填電球使用、館内係員詰所に五〇燭光一燈を施設せり。

増設館

警備燈八燈とし、内二〇〇「ワット」四燈、一〇〇「ワット」四燈にして何れも瓦斯充填電球を使用せり。

迎賓館

本館は階上を來賓迎接に使用するものなるを以て電氣設備に於ても特に意を用ひ中央「ホール」には特製「ブラケット」四個を取付け五〇燭光晝光色電球を裝置せり。周圍各室には鎖吊特製器具を取付け室内美觀を損せざる様施設し電球は何れも六〇「ワット」を使用す。

階下陳列場は各官廳の陳列場に先て一〇〇燭光三燈を以て警備燈としたり。

館外

夜間開場をなさざることに決定せられたるを以て館外に於ける電氣設備は必要缺くべからざるもの、みに止めたり。正門照明用としては五〇〇「ワット」投光器四基を門前に設置し、尙外壁上には特殊器具に依る外燈五十八燈(全部三十二燭光)を取付け夜間に於ける遠望をよからしめたり。尙場内要所を選び二〇〇燭光十二燈、一〇〇燭光十八燈の外燈を設置し場内の夜警に備へたり。

正門切符賣場、餘興場、物品預所等は只雨天の場合に備ふるための最小限度の設備に止めたり。守衛詰所は各室に點燈し夜間執務に支障なからしむることを期せり。

上野山下塔及場外誘導柱

上野山下塔には其内部より會名を表はすと共に外部より投光器(五〇〇「ワット」四基)を以て塔全部を照明せり。尙塔より池の端賣店に到る沿道誘導柱十四基には何れも特殊器具に依る外燈一燈宛(五〇燭光)を裝置す。

四、配電及工作物保守

電氣施設の保安上、専任係員三名を置き、日々開館と同時に送電し、閉館一時間後館内を停電し、投光器は午後十時を以て消燈せしめ電力消費の輕減を計りたり。

五、工作物の検査及監督

電氣工作物に對しては工事指定人に責任を以て施工せしめたるも尙萬全を期するため係員をして終始工事の監督をなさしめ、又材料の選擇に遺憾なからしむる等最善を盡すと共に、市電氣局検査員及特に電氣協會事業部に試験を依頼し、嚴重なる試験を施行し、尙東京遞信局及警視廳係員の出張を得検査合格のものに對してのみ送電を行ひたり。

附記

本會指定工事者は左記六名にして何れも東京市電氣局電氣工事委託店なり。

日本電飾株式會社
カワキ工業會
三浦電氣工業所

東松電業社
東京興電社
勝池電氣商會

三四

第十三節 電話及ポスト

本會事務所に於ける繁劇なる用務を處理する爲めに東京遞信局に特別至急架設を申請し開會以前より四基を設置せり、尙ほ事務所と守衛詰所と連絡し、守衛詰所より正門及裏門の守衛休憩所に連絡し、理事室より貴賓館に連絡する等構内電話四條を架設し別に前記遞信局架設の本線より理事室及事業部新聞記者室の卓上に連絡せる接續電話二個を置きたり。
又出品人及來觀者の用に應ずる爲め從來中庭に一個の自動電話ありしも到底多數の通信に應ずる能はざるにより構内適當の個所に二個を増設したり。
通信に關しては獨り電話のみにて其用を便じ難く遂に下谷郵便局に申請して正門外にポストを設置し門内物品預所に於て切手賣捌の特別取扱を爲せり。

第十四節 請願巡查及消防隊派遣

會期中は勿論、會期の前後に於ける出品の搬出入等に於ける火災、盜難其他の警備に付本會は請願巡查の派遣を乞ひ晝間三名、夜間三名を以て三月一日より五月三十一日に至る三ヶ月間會場の取締に任せしめたり。

又憲兵分隊に於ては特に厚意を以て會場の警備に充られ巡回の都度會場内外に互り注意を拂はれたるが殊に夜間構外に於ける警衛上非常の安心を與へられたるは其厚意誠に感謝に堪へざる所なり。

第十五節 掃除及撒水

會場内外の清掃に付ては本會の最も注意したる所にして構内主なる通路には小砂利を敷き常備人夫二十名守衛指揮の下に常に砂利の散亂を整頓し又各所に屑箱を置き日々數回之れを纏めしめ一定の場所に集め下谷區役所衛生課の厚意によりて遠く佐久間河岸に運搬し去りたるが撒水は旭硝子株式會社の寄贈に係る曹達灰の副産物鹽化石灰を大水槽にて溶解し會場内外に撒水せしめたり此鹽化石灰は鹽分の作用により一定量の撒水後は數日間風強き日も砂塵を颯げず雜沓の日も塵芥の飛散することなく頗る偉效を奏したるが尙ほ松坂屋合宿所に於ては特に撒水手働ポンプを本會の用に充てられたれば朝夕の會場内外は掃除と撒水と相俟ちて實に心地よく清められ、雨天の日には排水と砂利敷きに努めたる爲め場内泥濘を極むる如きこと絶對になかりき本會は右旭硝子株式會社及松坂屋の厚意を多謝する所なり。

從來博覽會に便所の設備尠かりし批難に鑑み本會は内外適當の個所に之れを置きたり即ち構内中庭一個所、前庭六個所、構外三個所にして掃除人夫六名を常置し内二名は絶へず掃除に當り四名は汲取り運搬に従事し其清潔を保持するに努めたり。

第四章 出品

三六

第一節 出品の勧誘

本會に於ては其開設の趣旨に鑑み本邦代表的化學製品は全部之れを網羅せんとし殊に特設館の設備に依て遺憾なく工程應用等の實際を示さんと圖り大正十四年六月早くも重なる製造業者及び朝鮮、臺灣兩總督府、關東廳、樺太廳に出品の準備を依頼したり而して一般の出品勧誘は會長名を以て開設趣意書、規則書、申込用紙等を添へ八月十二日より日々平均三千通を八日間に互りて全國化學工業家并に關係者に發送したり尙ほ大都市の出品は直接に開設の趣旨を説明する必要ある爲め十月二十一日主事鈴木謙二氏東京を出發して神戸、京都、大阪に於ける重なる製造業者の會合を準備し、二十三日高松會長、鴨居工學博士は神戸商業會議所に開かれたる出品人會に出席して詳細の説明を爲し、二十五日には京都の都ホテルに重なる官民を招待し清浦副總裁、内田顧問、高松會長、中松副會長之に臨み清浦副總裁より詳細の説明あり、別室にて會長は出品事務に關し協議を遂げ、翌二十六日大阪實業會館に於ける會合には同じく副總裁以下出席して説明する所あり別室大廣間には當業者を集合し是又副總裁、會長より出品に關し詳細の説明を爲し且つ質問に答ふる所あり。

同月二十七日には名古屋商業會議所に於て出品人會を開き高松會長、小林理事等之に臨み同様説明を爲し、且つ小林理事、鈴木主事は直接重なる製造業者を歴訪したり

神戸に於て高松會長と分かれし鴨居理事は福岡に至り縣廳、市役所、商業會議所其他を訪問し又重なる工業家を訪問し、次で山口、廣島、岡山の各縣を歴訪して香川縣に入り大に勧誘に努むる所あり

十一月二日中松副會長は再び東京を發し静岡、濱松、三重等を経て大阪に入り阪田理事、鈴木主事と會し出品其他の用務にて各方面を奔走し中松副會長は夫れより和歌山を廻りて岐阜に出で、阪田理事は神戸に至り、鈴木主事は奈良、滋賀、岐阜等の勧誘に従事せり。

又高松會長、小林理事は神奈川縣の請に應じ横濱に開かれたる出品人會に臨み縣市當局と共に神奈川出品協會の組織をなせり。

十一月に入り小林理事は東京出發、新潟、秋田、山形、福島に互りて出品勧誘を試み小野理事は山梨、長野より石川縣に出で更に富山地方の出品を促したり。

是より先き東京に於ては府市並に商業會議所、東京實業組合聯合會主催を以て特に本會の爲めに出品人會を會議所内に開き會するもの二百餘名、平塚府知事より本會開設に賛成の演説あり高松會長は來會者の質問に對し懇切なる答辯を與へ本會開設の趣旨を明かにせり。

以上の如く副總裁以下幹部活動の結果各地に夫々出品協會の成立を見、其申込み多數に上ると共に直接本會へ申込みをなすものも亦頗る多く遂に出品豫定數を越ゆること實に六割の多きに達するの盛況を極めたり。

第二節 運賃及乗船車賃の割引

出品物、出品人及關係役員等に對する運賃若くは乗車船賃の割引は博覽會の盛否に關係する所少なからざるを以て本會は鐵道省其他鐵道會社、汽船會社に請ふて夫々賃金割引の承諾を得、其の運賃割引に付ては「出品荷票」を製し之に割引の線路、歩合、區間等を詳記し又乗車船賃に付ては「割引證」を製し裏面に割引の線路、方法、歩合、期間等を詳記し以て各要求者に相當の枚數を交付したり。

第三節 一般出品

一般出品は朝鮮、臺灣、關東州、北海道の各殖民地並に東京、京都、大阪の三府、神奈川外三十二縣、(樺太、南洋の二廳並に長崎、滋賀、岩手、鳥取、島根、徳島、愛媛、大分、宮崎、鹿兒島、沖繩の十一縣は出品なし)にして其出品人員千八百十九名、出品點數三萬四千二百三十九點あり今之を部類別及地方別に表記すれば左の如し。

一般出品人員及點數統計

部類	第一											部類												
	第一類	第二類	第三類	第四類	第五類	第六類	第七類	第八類	第九類	第十類	第十一類		第十二類	第十三類										
出品人員	三五	一一	五八	一五八	八七	四〇	二七	一九	一七	一八	一七	一八	四九											
出品點數	五四七	六一八	三〇五六	二、八〇九	五三七	一、四二四	二七七	一六七	一六三	二二一	一七四	四三六	一〇、三八三											
地方	朝鮮	臺灣	關東	北道	東道	京都	大阪	神奈	兵庫	新	埼玉	群馬	千葉	茨城	栃木	奈良	三	愛知	靜岡	山梨	岐阜	長		
地方人員	一五九	一一	二四	四	六三八	一四八	一一七	一一三	二二	八一	二九	一五	三五	一〇	一	一	二	二	二	二	二	二	二	
出品點數	七四六	一〇八	二二〇	五八	一、三三〇	一、〇〇九	三、八六五	二、三三八	六〇六	四七六	四七六	六五	三七	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

第四節 官廳學校出品

部類	第二											第三					部類							
	第一類	第二類	第三類	第四類	第五類	第六類	第七類	第八類	第九類	第十類	第十一類	第十二類	第十三類	第十四類	第十五類	第十六類		第十七類	第十八類	第十九類	第二十類	第二十一類	第二十二類	
出品人員	三一	二一	八七	二一	二一	一五	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	
出品點數	一〇六	一〇六	一、六六二	二〇八	六八六	一、一九八	三五五	四七四	三、八五四	二、二六七	一、九四五	三〇五	三三七	一九七	一五三	四一	二四	一、七二〇	三、四三二	一、八二七	一、八二七	一、八二七	一、八二七	
地方	宮城	青森	山形	秋田	福島	石川	富山	同	廣島	山口	山	和歌	香川	高知	福	佐	熊	官廳	官廳	官廳	官廳	官廳	官廳	官廳
地方人員	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
出品點數	六二	三九	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八

官廳出品は其の出品廳三十五廳にして出品點數二千九百三十一點あり。其の陳列の位置は參考館、別館の

一部及館内に收容し得ざる者を館外適當の位置に出品せり今之を各應別に表記すれば左の如し。

四〇

官廳出品點數統計

官廳	出品點數	官廳	出品點數	官廳	出品點數
造幣局	二四	海軍火藥廠	六八	製鐵所	二二一
專賣局	一三	海軍燃料廠	四六	特許局	三五
釀造試驗所	二	橫須賀海軍軍需部	一八	東京工業試驗所	八九五
陸軍衛生材料廠	四七〇	東北帝國大學理學部	四	大阪工業試驗所	二四
陸軍造兵廠	九四	同工學部	四六	臨時空素研究所	二
陸軍航空本部	一八	金屬材料研究所	五	燃料研究所	二四
陸軍科學研究所	一三四	富山藥學專門學校	二〇	通信省航空局	三
陸軍科學研究所	八	桐生高等工業學校	七	臺灣總督府專賣局	四三
陸軍糧秣本廠	二五	農林省山林局	一一	東京府立化學工業學校	四一
陸軍被服本廠	四四	林業試驗場	一四	神奈川縣水産試驗所	二
陸軍自動車學校	三	水産講習所	六七	三重縣工業試驗所	七
水路部	三七	商工省工務局	一六	計	二、九三一

第五節 出品の搬入及搬出

出品物の搬入に就ては規則第十九條に示す如く大正十五年三月十日迄に出品物を搬入し同年三月十七日迄に陳列を終了すべく規定せるも「ことも博覽會」のため準備の手遅れをなし漸く三月七日より搬入準備に着手せしも極力是れが勵行に力めたる爲め三月十七日には全部の搬入陳列を完了するを得たり殊に出品中最も手数を要すべき別館が準備期間を縮少されしにも拘らず開會前日迄に全部を終了したるは寧ろ意外とする所なり従來博覽會の惡習慣として出品者が開會に間に合はざることを常習として少しも怪まざるのみならず却つて之を以て誇とするが如き習慣を打破せしめ開會當日に全部の搬入陳列を了せしは前代未聞なりとの賞讃を博せり。

各府縣出品協會は府縣委員指揮の下に、直接申込者は其の個人たると團體たるとを問はず孰れも各館主任監督の下に搬入陳列を了せり、出品人又は其の代理人共に出頭せずして單に出品物を送附し來りしものは受付に於て之を各館主任に交附し各館主任は出品目録と現品を對照して之れを陳列せり
閉會後に於ける出品物の搬出は規則第二十二條により閉會後七日以内と定めありしも右勵行を期するため五日以内に搬出を了せられ度旨各出品人に對し豫め通牒したるため五日以内に九割以上の搬出を了したるも尙少數の殘品ありしかば特に是れが勵行に力めしため規定の七日以内即ち五月二十四日迄に全部の終了を告げ且つ基礎工事を要したるものの復舊迄同日迄に完成し規則第二十二條に依る期間中に搬出を了せず本會に於て處分せるもの一點もなく又引渡に就ては現品引換に賣約品以外の出品物の領收證書を徴收し搬出證を交付し出門の際一々守衛の點檢を受けしめたり。

第五章 審査

第一節 審査部の組織

本會の出品は其の部類品彙多く各専門家の鑑識に依り公正なる審査を行ふに非れば適切なる品階を與へ難き次第に付本會は特別の詮議を以て審査總長同部長審査官を派遣せられ度旨商工大臣に出願せし所幸に願意を容れられ審査總長は二月一日、部長、審査官は三月廿七日以後數回に命令若くは囑託せられたる旨同省より通達せられたり其の官氏名左の如し。

- | | | | |
|------|-------------------|-----------|-----------|
| 審査總長 | 從二位勳一等 男 樽 平山 成 信 | 工業試験所技師 | 小澤 武 |
| 審査部長 | 從三位勳三等 鴨 居 武 | 同 | 井上 春 成 |
| 同 | 工業試験所技師 小寺 房 治 郎 | 同 | 藤 木 經 明 |
| 同 | 東京帝國大學教授 加 茂 正 雄 | 同 | 增 野 實 |
| 審査官 | 商 工 技 師 大 山 清 一 郎 | 臨時窒素研究所技師 | 北 脇 市 太 郎 |
| 同 | 同 平 野 久 保 | 燃料研究所技師 | 伴 義 定 |
| 同 | 同 富 岡 惟 中 | 内閣印刷局技師 | 矢 野 道 也 |
| 同 | 同 廣 瀬 基 | 同 | 吉 田 永 助 |
| 同 | 同 辻 本 滿 丸 | 同 | 小 林 作 平 |
| 同 | 同 山 村 銳 吉 | 同 | 上 野 長 雄 |
| 同 | 同 野 口 寅 之 助 | 同 | 勝 田 一 |
| 同 | 同 熊 澤 治 郎 吉 | 同 | 三 俣 秀 實 |
| 同 | 同 平 野 茂 | 同 | 小 林 正 藏 |

- | | | | |
|--------------|---------|---------------|-----------|
| 工業試験所技師 | 篠崎 英之助 | 東京帝國大學教授 | 鈴木 梅太郎 |
| 同 | 中山 岩藏 | 東京帝國大學助教授 | 友田 宜孝 |
| 臨時窒素研究所技師 | 柴田 勝太郎 | 同 | 宗 宮 尙 行 |
| 陶磁器試験所技師 | 植田 豊橘 | 同 | 永 井 雄 三 郎 |
| 燃料研究所技師 | 賀田 立二 | 同 | 佐々木 林治郎 |
| 醸造試験所技師 | 江田 鎌治郎 | 東京高等工業學校教授 | 關 口 八 重 吉 |
| 同 | 木下 淺吉 | 同 | 齋 藤 俊 吉 |
| 同 | 黒野 勘六 | 同 | 近 藤 清 治 |
| 農事試験場技師 | 鹽入 松三郎 | 同 | 芝 田 理 八 |
| 早稻田大學教授 | 松井 元太郎 | 同 | 内 田 壯 |
| 同 | 沖 巖 | 東京高等工藝學校教授 | 鎌 田 彌 壽 治 |
| 右大正十五年四月七日被命 | 西崎 弘太郎 | 正五位勳四等 | 正 田 桂 太 郎 |
| 衛生試験所技師 | 植村 東彦 | 正四位勳三等 | 池 田 慶 三 |
| 陸軍砲兵大佐 | 慶松 勝左衛門 | 從四位勳四等 | 野 間 譽 雄 |
| 東京帝國大學教授 | 朝比奈 泰彦 | 從四位勳四等 | 根 岸 政 一 |
| 同 | 内丸 最一郎 | 正六位勳六等 | 山 内 英 太 郎 |
| 同 | 田中 芳雄 | 右大正十五年四月七日被命 | 西 松 唯 一 |
| 同 | 大島 義清 | 東京帝國大學教授 | 水 野 範 之 助 |
| 同 | 後藤 正治 | 右大正十五年四月十二日被命 | 外 山 修 之 |
| 同 | 丹波 重光 | 商 工 技 師 | |
| 同 | 龜山 直人 | 工業試験所技師 | |
| 同 | 厚木 勝基 | 右大正十五年四月十六日被命 | |

審査囑託

三越吳服店	澤木竹次郎
白木屋吳服店	糠谷七郎
高嶋屋吳服店	柴本鐘吉
松阪屋吳服店	岡村廣太郎
松屋 吳服店	小松 貢
特許局審査官	高島宗三
田中商事株式會社社長	田中奎次郎
實業家(紙)	横川博惠
東京漆商同業組合長	山崎尙三郎
日本高級塗料株式會社取締役	手塚千代吉
塗料	仲直太郎
實業家(酒)	田中藤兵衛
同(醬油)	金成滿
糖業聯合會	田崎留太
帝大工學部 助教	相馬賢藏
内外ゴム合資會社技師長	鈴木範三
工業試験所囑託	水田榮雄
工業試験所助手	隈部一雄
工業試験所助手	飯田秀壽
工業試験所助手	桑野錦一郎

四四

工業試験所助手	澤口悟一
帝大工學部講師	桑田勉
同 助手	荒川勇
陸軍被服本廠	望月之德
工業試験所助手	淺岡 御
農事試験所助手	兒玉靜記
臨時窒素研究所雇	松川龍興
工業試験所助手	阿久根英夫
同 助手	小林修明
同 助手	川合誠治
同 助手	小柳半二
帝大醫學部助教	比良野 橋
東京高等工業學校助教	中原虎男
商工省技手	松本 薫
帝大應用化學助手	本多 昇
工業試験所助手	村相兵義
帝大工學部助手	梅澤 宏
醸造試験所助手	小穴富司雄
同 技手	山田正一
帝大工學部應用化學教室助手	河井 清
工業試験所囑託	森 穎一

臨時窒素研究所囑 渡邊 定良
陳列裝飾審査員 東京高等工藝學校長 松岡 壽

東京高等工藝學校教授 森 谷 延 雄
大澤 三之助

第二節 審査方針

四月十一日高松會長、平山審査總長、鴨居、小寺、加茂審査部長以下は上野公園精養軒に於て審査官一同と協議會を開く席上高松會長より將來の進行に關し所見を述べられ次で平山審査總長は審査の方針に就きて演述し尙審査官と種々協議する所あり其の方針の要領左の如し。

審査總長訓示要項

- 一、審査は本會の重きを措く所なるを以て最も公平にして周到なるを要すると同時に敏速を旨とする事
- 二、審査に關する事項は絶対に之を祕密に附し決して漏洩すべからざる事
- 三、褒賞は濫與に陥らざる様擬選し高等の擬賞に於ては殊に注意すべし事
- 四、出品中生産盛大にして内外販額の多きもの殊に外國輸出の多額なるものに對して優賞を擬するは勿論假令小規模の生産なりとも品質優秀なるもの及國家に有益なる特殊の製品に對しては相當の優賞を擬する事
- 五、審査の際は成るべく出品人より直接其説明を聴取する事
- 六、各出品の評點及擬賞は必ずしも寛嚴なきを保し難きを以て審査部長は互に協議して成るべく全部の平衡を得せしむべき事
- 七、審査概況報告は簡明にして要領を得る様記載すべき事
- 七、審査報告は當業者の参考に供せらるゝ指針たるべきものなるを以て將來の裨益を圖り懇切に作成すべき事

第二條 主任審査官は各分掌内の審査官と協議し評點に關する項目を定め審査部長の承認を受くへし

第三條 審査の評點は左の標準に據る

名譽大賞牌	九六點以上	一〇〇點迄
名譽賞牌	九一點以上	九五點迄
金牌	八六點以上	九〇點迄
銀牌	七六點以上	八五點迄
銅牌	六六點以上	七五點迄
褒狀	五一點以上	六五點迄

第四條 各自評點の場合には審査官各一様の評點紙に記入して以て調印す

合議評點の場合一葉の評點紙に記入して右審査官之に連印す

第五條 同一者の出品にして合議の上同種類中の最優等品のみに對し評點するときは評點紙の備考欄へ

其旨を記入し併せて評點せざるもの、番號及品名を別紙に記載し各審査官之に連印すへし

第六條 審査は大正十五年四月十三日に着手し四月二十八日に終了するものとす

第七條 再審査の場合には審査部長會議に於て其分掌審査官を變更することあるへし

第八條 審査の爲め審査囑託及審査補助を要するときは審査部長より其旨を審査總長に申出つへし

第九條 審査囑託及審査補助は主任審査官の指示に従ふものとす但審査囑託の評點は審査官の參考に供

するものとす

第十條 主任審査官は審査に着手せんとするときは着手三日前に其出品人に對しては甲號書式に依り、

出品課（出品陳列館主任）に對しては乙號書式に依り審査事務主任を経て其旨を通知すへし

第十一條 審査を終了したるときは直ちに出品課（出品陳列館主任）に對し丙號書式に依り審査事務主

任を経て其旨を通知し出品課（出品陳列館主任）の復報書を徴すへし

第十二條 審査は成るべく陳列の現場に於て之を爲すへし

陳列場以外に於て審査の必要あるときは主任審査官は豫め審査事務主任を経て其品名、審査の時日及場所を出品課（出品陳列館主任）に通知すへし

第十三條 審査の爲め出品物の試験又は分析を要するときは並に出品若くは審査用として提出せしめたる

物品の全部又は一部を消耗毀損せんとするときは主任審査官は豫め審査部長の承認を経て其旨を審査

事務主任へ通知すへし

第十四條 解説書は審査官自ら之を閲覽し他に示すへからず

第十五條 審査の爲め實地臨檢を要するときは主任審査官は豫め審査部長の承認を経て其場所及審査官

の氏名を審査事務主任へ通知すへし

第十六條 實地臨檢の爲め費用を要するときは豫め審査部長より其旨を審査事務主任へ通知すへし

第十七條 審査を終了したるときは主任審査官は其出品の付札へ審査済の印を押捺すへし

第十八條 出品の部類を誤りたるもの又は部類の不明なるものは審査部長協議の上適當の部類に依りて

審査すへし

第十九條 各分掌内の審査は四月二十六日を以て終了するものとす

第二十條 主任審査官は審査終了と同時に其分掌に關する擬賞案及審査概況報告書を審査部長に提出す

へし

第二十一條 擬賞は全部五月二日迄に終了するものとす

第二十二條 報告員は五月三十一日迄に審査報告書を審査部長に提出し審査部長は六月三十日迄に之を

取纏めて審査總長に提出すへし（書式略す）

第四節 賞狀及賞牌

賞狀は堅一尺五寸六分、横二尺にして刷色は左の如く區別す。

名譽大賞牌

周圍

紫

地色

淡紫色

二六	硬化油及グリセリン	東京	合同油脂株式會社
二八	リノリウム	東京	東洋リノリウム株式會社
一九	花王石鹼	東京	株式會社長瀬商會
一九	ミツワ石鹼	東京	株式會社善兵衛
二〇	ライオン齒磨	東京	株式會社小林商店
二〇	御園白粉	東京	伊東胡蝶園伊東榮
二〇	レイト白粉	東京	株式會社平尾贊平商店
二〇	クラフ白粉	東京	中山太陽堂中山太一
二一	薄荷腦及油	神奈川	小林桂助
二二	醫藥用藥品	大阪	大日本製藥株式會社
二二	醫藥用藥品	東京	三共株式會社
二三	帽子各種	東京	東京帽子株式會社
二三	絹織物各種	東京	八王子織物同業組合
二三	輸出染綿布	東京	東京輸出綿布染色組合
二三	輸出染綿布	京都	河合名會社
二三	絹織物各種	大阪	合資會社稻畑染工場
二三	伊勢崎銘仙	群馬	桐生織物同業組合
二三	帽子各種	群馬	伊勢崎織物同業組合
二四	人造絹糸	兵庫	帝國製絹株式會社
二六	和紙	東京	日本紙業株式會社
二七	甘蔗糖	臺灣	帝國製糖株式會社
二七	甘蔗糖	臺灣	臺灣製糖株式會社
二七	甘蔗糖	臺灣	臺灣製糖株式會社
二七	甘蔗糖	臺灣	林本源製糖株式會社
二七	甘蔗糖	臺灣	新興製糖株式會社

二八	清酒 兩關	秋田	伊藤仁右衛門
二八	ニオンビール、三ツ矢サイダー	東京	日本麥酒釀造株式會社
二八	醬油 松の盛	愛知	株式會社中井酢店
二八	醬油 泉一	大阪	河盛又三郎
二九	清涼飲料	東京	大日本麥酒株式會社
二九	清涼飲料	東京	株式會社明治屋
三〇	寫眞器械各種	東京	合資會社小西六本店
三〇	鉛筆各種	神奈川	眞崎大和鉛筆株式會社
三二	貝釘	大阪	中村儀助
三二	ベニア板	愛知	合名會社淺野木工場
三二	ベニア板	大阪	合資會社新田ベニア製造所
三三	耐久模型並醫學及教育用器械	東京	山口株式會社柏木驗器製造所
三三	體溫計	東京	月島機械株式會社
三五	遠心分離機及真空唧筒	大阪	株式會社田中機械製作所
三五	二重効用蒸發罐及附屬裝置	神奈川	東京電氣株式會社
三七	電球各種	東京	電氣株式會社

金牌 (百三十三名)

一	重クロム酸加里、重曹達、クロム明礬	東京	日本製煉株式會社
二	電解曹達及晒粉	東京	大日本人造肥料株式會社
二	炭化石灰	長野	信濃電氣株式會社

二	鹽素酸曹達、金屬ナトリウム、過酸化曹達	東京	日本曹達株式會社
三	減摩合金ヤマトメタル	東京	ヤマトメタル商會
三	NSKボールベアリング	東京	NSK精工株式會社
三	自轉車及飛行機用車輪	東京	株式會社細井鐵工場
三	食料用罐類	愛知	株式會社岡本自轉車製作所
四	化學磁器	大阪	東洋製磁株式會社
四	硬質陶器	京都	松風工業株式會社
四	硬質陶器	朝鮮	日本硬質陶器株式會社
四	硬質陶器	愛知	松村硬質陶器合名會社
四	磁器	佐賀	香蘭合名會社深川左衛門
四	ボルトランドセメント	東京	大分セメント株式會社
四	硝子器	滿洲	大連窯業株式會社
四	押型硝子器	大阪	三好鹿藏
四	硝子壺	大阪	永硝子製造所
四	珪瑯鐵器	大阪	日本エナメル株式會社
四	珪瑯鐵器	三重	三重珪瑯株式會社
四	耐火煉瓦	岡山	三石耐火煉瓦株式會社
四	耐火煉瓦	東京	九州耐火煉瓦株式會社
四	耐火煉瓦	東京	三井鑛山株式會社
四	タイヤ	愛知	佐治タイヤ合資會社
四	タイヤ	愛知	不二見燒合資會社
四	ボルトランドセメント	東京	秩父セメント株式會社

五	漆器	東京	西村象彦
六	バラダベルト、ゴムベルト	大阪	合資會社新田帶革製造所
七	靴	東京	千代田機械製靴株式會社
七	靴	東京	東京スダンダ靴株式會社
七	靴	愛知	亞細亞製靴株式會社
一	黑色硫化染料	大阪	帝國染料製造株式會社
一	サリチル酸	東京	三共株式會社
二	合成アムモニア	兵庫	クロード式窒素
二	撒豆粕、棉實油粕、菜種油粕	福岡	日華製油株式會社
二	菜種油粕棉實油粕、荳油粕	大阪	攝津製油株式會社
二	石灰窒素、硫酸アムモニウム	福井	大同肥料株式會社
三	カーリット	東京	淺野セメント株式會社
五	礦油及礦油製品	東京	小倉石油株式會社
六	菜種油、綿實油、亞麻仁油、蓖麻子油、亞麻仁油、胡麻油、荳油	大阪	攝津製油株式會社
六	棉實油、大豆油、菜種油	大阪	吉原定次郎
七	亞鉛華、鉛丹	福岡	日華製油株式會社
七	石、硝酸バリウム、鹽化バリウム	兵庫	關西ベイント株式會社
九	レコード石鹼	東京	日本化學工業株式會社
九	石鹼	東京	合同油脂株式會社
九	ベルベット石鹼	大阪	春元石鹼製造所
九	ベルベット石鹼	東京	ベルベット石鹼株式會社

二五	セルロイド製品	大阪	小山セルロイド株式会社
二五	セルロイド製品	兵庫	浦山
二五	セルロイド製品	大阪	八木宇三郎
二五	アイボライト製造所製	東京	神奈川電気株式会社
二六	紙製容器	東京	凸版印刷株式会社
二六	蠶卵紙	埼玉	槻川製紙製造合資会社
二六	障子紙	埼玉	代表者 馬場嘉重郎
二六	薄葉紙	埼玉	小石川製紙工場
二六	フアイバー製容器	東京	小田原製紙同業組合
二八	清酒 雲龍	埼玉	鈴木木忠右衛門
二八	清酒 虎の巻	埼玉	藤崎 徳兵衛
二八	清酒 三河武士	愛知	丸石合資会社
二八	清酒 壽龜	埼玉	北西酒造合名会社
二八	清酒 福娘	埼玉	丸石合資会社
二八	清酒 小野の里	秋田	高木村孫四郎
二八	清酒 白老	秋田	高木 久多吉
二八	清酒 八咫鳥	愛知	澤田儀平治
二八	清酒 金千代	奈良	北岡惣太郎
二八	清酒 菱正宗	朝鮮	齋藤酒造合名会社
二八	清酒 金剛鶴	朝鮮	辻酒造株式会社
二八	清酒 金剛鶴	朝鮮	深見寅市
二八	清酒 東の譽	朝鮮	朝日醸造株式会社
二八	清酒 寒梅	神奈川	大矢武兵衛
二八	清酒 大勳	埼玉	鈴木木仙右衛門
二八		愛知	太田合資会社

二八	清酒 朝日	埼玉	秋 徳重吉
二八	清酒 新露	奈良	大和酒造株式会社
二八	清酒 新武蔵	秋田	合名会社 佐卯商店
二八	清酒 海龍	埼玉	中山房五郎
二八	清酒 ミツワ那那葡萄酒	埼玉	北岡 文次郎
二八	味淋 相生	東京	三輪善兵衛
二八	味淋 相生	大阪	攝津酒造株式会社
二八	醬油 分銅泉	愛知	古久根 勇藏
二八	醬油 魚甲マルキ	朝鮮	戸島 祐次郎
二八	味噌 ぼまれ白味噌	北海道	合資会社 和泉屋商店
二九	緑茶	朝鮮	野田醬油株式会社 朝鮮支店
二九	緑茶	埼玉	平沼 正三
二九	煎茶	埼玉	狭山製茶株式会社 社長 繁田 庸三郎
二九	煎茶	奈良	大和茶普及會代表者 山澤 兵一 郎
二九	煎茶	奈良	奈良製茶株式会社
二九	煎茶	東京	縣 権五郎
二九	煎茶	愛知	中央食品株式会社
二九	凍豆腐	奈良	岡田 萬治郎
二九	寒天	朝鮮	木浦殖産株式会社
二九	ハム	朝鮮	松尾 由松
二九	鮑罐詰	朝鮮	朝鮮水産輸出株式会社
二九	鳳梨罐詰	臺灣	三井物産株式会社 臺南支店
二九	菓子(御芽出糖)	愛知	東邦製菓株式会社

三〇	寫真用閃光粉	東京	合資会社ワイエツチ商会
三〇	寫真乾板各種	東京	東洋乾板株式会社
三一	印刷インキ各種	東京	株式会社山本榮次郎商店
三一	押出インキ各種	東京	小島印刷株式会社
三一	印刷インキ各種	神奈川	諸星千代吉
三一	磁酸鉛	東京	旭電化工業株式会社
三一	膠	大阪	合資会社新田帯革製造所
三一	水彩繪具	東京	長戸重太郎
三一	墨	奈良	大日本製墨株式会社
三一	除虫粉、蚊取線香	大阪	大日本除虫粉株式会社
三一	除虫粉、蚊取線香	和歌山	旭除虫菊株式会社
三一	鏡各種	大阪	株式会社本號
三一	織機用目硝子	東京	東京織物用品株式会社
三一	ギバ體温計	東京	山田 六松
三四	エムカテラ顯微鏡	東京	合資会社いむかしや
三五	オリパス顯微鏡	東京	株式会社高千穂製作所
三五	石川式攪拌槽機	東京	石川工場 石川平藏
三五	送風機	東京	合資会社關機製作所
三五	アロン製品各種	京都	株式会社島津製作所
三五	研磨砥石車各種	京都	日本研磨砥石合資会社
三五	研磨砥石車各種	廣島	吳製砥所高橋兼吉
三八	溫湿度調整装置	東京	高砂煖房工事株式会社
三九	アスベスト製品	東京	日本アスベスト
三九	HSK斷熱煉瓦	兵庫	保熱板製造株式会社

三九	セメント防水劑マノ	東京	矢中 龍次郎
四〇	荷造用強靱性防水紙	兵庫	神戸防水紙布製造所
四〇	製袋機	東京	東京製袋機株式会社
ホンプ	消火用カソリン唧筒及同附屬品	東京	山口 半兵衛
銅 牌 (二百十八名)			
一	化學純藥品	東京	合資会社小西宗七商店
一	生石灰	高知	入交 太藏
一	丹精、硫酸ニッケル、明礬、硫酸礬土	東京	小西 安兵衛商店
二	乾電池	東京	日本電業株式会社
三	金屬製可撓管	東京	合名会社伊澤螺旋管製造所
三	アルミニウム製食器	東京	橋本 太吉
三	ホキールホワイトメタル	東京	海老 商會
三	鐵網及蛇籠	東京	東洋鐵網株式会社
三	ダイヤモンド印	東京	東京特殊銅器製作所
三	サビナイ鋼製刃物類	東京	遠藤 藤太郎
四	化學磁器	東京	石川製陶所 石川 弘
四	陶磁器	東京	陶業 株式會社
四	磁器	東京	鍋島燒窯元出張所 野口次郎
四	植器	三重	長谷 嘉市
四	植器	熊本	岡部 源四郎
四	硬質陶器	三重	山本 増次郎
四	石綿セメント製品	東京	大阪石綿工業株式会社
四	タイガートボット	東京	東洋建材工業所
四	耐酸珪那	東京	池袋珪那工場 小島正輝

三三	國産絞	愛知	森井	兵衛
三三	國産絞	愛知	近藤	清藏
三三	國産絞	愛知	早川	達次
三三	博多女帯地	福岡	三方	達一
三三	博多女帯地	福岡	宗孝	太郎
三三	浴衣巻	福岡	大山	平次郎
三三	久留米縞	福岡	平井	彦次郎
三三	久留米縞	福岡	鹿野	徳太郎
三三	博多絞	福岡	武田	徳雄
三三	甘木絞	福岡	甘木	同業組合
三三	小倉縮	福岡	神田	安兵衛
三五	セルロイド製品	大阪	筒中	セルロイド工業所
三五	セルロイド製品	大阪	片山	彌代吉
三六	厚紙	福岡	井若	狭製紙株式會社
三六	京花紙	福岡	岡渡	邊長
三六	小見様紙	朝鮮	忠北	紙物同業組合
三六	美濃紙	埼玉	小川	紙業信用組合
三六	バラフィン紙	東京	日本	塗紙工業株式會社
三六	複寫紙	大阪	日本	複寫紙製造合資會社
三六	紙織物	東京	森永	室省三藏
三六	團扇	埼玉	合資會社	名阪商店
二八	清酒 喜代川	埼玉	玉合	資會社名阪商店
二八	清酒 若返り	秋田	田西	馬音内酒造株式會社
二八	清酒 七つ梅	埼玉	田中	藤左衛門
二八	清酒 湖の月	埼玉	玉奥	川梅三郎
二八	清酒 チェリイ正宗	朝鮮	山内	莊平

二九	ツルチユク シロツブ	朝鮮	朝鮮	ツルチユク製造所
二九	芥子粉	神奈川	小泉	芳五郎
二九	白玉ソース	大阪	野村	専次郎
二九	菓子(草薙菜)	愛知	佐久間	熊次郎
二九	凍豆腐	奈良	良井	岡重太郎
二九	ハム	朝鮮	平壤	畜産組合
二九	ジャム	大阪	東株	式會社明治屋
二九	ヘモゾール	東京	株式	會社明治屋
二九	守口味漬	愛知	知安	藤與吉
二九	山葵漬	奈良	大和	山葵加工組合
三〇	寫眞暗箱各種	東京	會社	根眞文
三一	印刷インキ各種	東京	川村	喜十郎
三二	マルサン殺蟲劑	東京	デリス	製劑株式會社
三二	膠	奈良	合名會社	中村膠製造所
三二	インキ各種	東京	鈴木	木治三郎
三二	水彩繪具	東京	立野	安太郎
三二	墨	奈良	大森	兵助
三二	靴クリーム	東京	新藤	孝平
三二	靴クリーム	東京	山西	湯侍治
三二	鉛筆	東京	中山	太陽堂中山太一
三二	福ふのり	東京	日本	製練株式會社
三三	注射器	東京	石渡	章元
三四	本多式熱天秤及示差	仙臺	成瀬	器械店成瀬鎌次郎
三四	膨脹計	東京	成瀬	器械店成瀬鎌次郎
三四	化學用器及カメラ	東京	合名會社	離合社

二八	清酒 福の友	秋田	株式會社	福の友酒造店
二八	清酒 雄物川	秋田	高久	儀助
二八	清酒 勝平	秋田	渡邊	幸四郎
二八	清酒 富久盃	愛知	金森	合名會社
二八	清酒 花陽	埼玉	玉矢	尾商
二八	清酒 瀧の音	秋田	奥山	利八
二八	清酒 喜久松	朝鮮	松岡	吉次
二八	清酒 朝の花	朝鮮	原田	竹次郎
二八	清酒 福泉	朝鮮	原田	竹次郎
二八	清酒 寒牡丹	朝鮮	原田	竹次郎
二八	清酒 金鼓	奈良	大倉	勝治
二八	清酒 鳴菊	埼玉	玉肥	土晴三郎
二八	清酒 鬼ころし	愛知	大黒	屋酒造株式會社
二八	清酒 金虎	愛知	水野	善兵衛
二八	清酒 狸々	奈良	北村	善兵衛
二八	清酒 成酒	朝鮮	馬村	宗四郎
二八	燒酎 萬歳	大阪	中上	酒造株式會社
二八	燒酎 赤葡萄酒	朝鮮	中上	酒造株式會社
二八	味淋 金城	朝鮮	ミツワ	浦項農場
二八	味淋 大和	愛知	知鈴	木八右衛門
二八	醬油 龜甲山太	朝鮮	山根	太吉
二八	醬油 丸宮印	朝鮮	宮川	五郎三郎
二八	醬油 鑄印	朝鮮	山本	頼之助
二八	醬油 泉	朝鮮	玉小	澤徳吉
二九	綠茶	埼玉	玉秋	山誠二
二九	綠茶	埼玉	玉秋	山誠二
二九	綠茶	埼玉	玉秋	山誠二

三四	理化學用硝子器具	東京	鈴木	木惣八
三五	石材ロール	東京	井上	政良
三五	スービロン製品各種	東京	大日本	人造肥料株式會社
三五	特許アソックス石炭	東京	佐藤	製作所佐藤英夫
三五	錠劑製造機	東京	上野	製藥所機械部上野篁
三五	丸六製粉機	東京	丸六	商會松本英八郎
三五	大各式完全濾過器	東京	大谷	信助
三五	啓正式除風器	東京	啓正式	特許品製作所
三五	ガイメントプレックス	兵庫	陣野	愛次郎
三五	ネオランダム研磨車	兵庫	陣野	愛次郎
三五	各種	兵庫	陣野	愛次郎
三五	研磨砥石車各種	廣島	廣島砥石	製造所戸井龜太郎
三七	A十六號瓦斯ストーブ	東京	東京	瓦斯株式會社
三八	シルヴァ冷凍機	東京	岩谷	冷蔵株式會社
三九	日の出印 便利瓦	東京	日本	建築紙工株式會社
三九	セメント防水劑ウオ	兵庫	日本	セメント防水劑製造所
三九	志賀式木材防火劑	東京	志賀式	防火防腐工業所
三九	佐倉金庫及鐵扉	東京	株式會社	佐倉金庫店
三九	切開自動車	東京	東京	自動車學校鈴木靖二
三九	田中式無注水重油	東京	日本	内燃機製作所
三九	内燃機 發動機	東京	日本	内燃機製作所
三九	ガソリン唧筒機	大阪	河野	利兵衛
三九	ロータ(四分ノ一)	東京	株式會社	バグナ
三九	ローボ(馬力ノ一)	東京	株式會社	バグナ
三九	タリ付	東京	株式會社	バグナ

一 鹽化亞鉛 狀 (二百十三名)
大阪下里製藥株式會社

三八 硝子張及木製冷蔵庫 東京 岩谷冷蔵株式会社
 三九(一) 佐久間式印ルーフ 東京 佐久間建村工業所
 三九(二) アサヒ便利瓦 東京 日本建村社
 三九(三) ビストル製消火器及自爆消火器 東京 中央理化工業株式会社
 三九 關東式消火器 東京 東京消化器業組合資會社
 東京 關東製作所淺岡芳市

三九 タイシン消化器 東京 東京消化器業組合太進商會
 三九(一) アスベストタスマルタ 東京 アスベストタスマル研究所
 三九 二重瓶消化器 東京 東京消化器業組合廣田寅三
 三九 鐵筋コンクリート管 神奈川 日本ヒュムコン
 内燃機 エムジ一發動機 埼玉 田口機械商店 田口平五郎

第二回化學工業博覽會陳列裝飾受賞人名表

府縣名 受賞人名
 東京都 日本電池株式会社
 東京都 旭電化工業株式会社
 東京都 相馬久吉
 東京都 丸見屋三輪善兵衛
 東京都 長瀬商會
 東京都 伊東胡蝶
 東京都 磯野化學研究所
 東京都 平尾養平
 東京都 吉村又三郎
 東京都 井筒屋金原巳三郎
 東京都 日本自動車株式会社
 東京都 淺野スレート販賣株式会社
 東京都 淺野セメント株式会社
 東京都 里村三治
 東京都 松下塗料株式会社
 東京都 日本ペイント製造株式会社

府縣名 受賞人名
 東京都 東洋リノリューム株式会社
 東京都 人造肥料職合會
 東京都 三田土ゴム製造株式会社
 東京都 内外ゴム合資會社
 東京都 東洋橋寸株式会社
 東京都 株式會社明治屋
 東京都 磐城セメント株式会社
 東京都 日本ソリデチット株式会社
 東京都 日本ブラナモンド株式会社
 東京都 東京電氣株式會社
 東京都 丸善藥店
 東京都 株式會社鳥津製作所
 東京都 合同油脂グリセリン株式會社
 東京都 株式會社鈴木木商店
 東京都 合資會社新田ベニヤ製造所
 東京都 菅生彦四郎

府縣名 受賞人名
 静岡県 帝國製帽株式會社
 東京都 丸善株式會社
 東京都 油機油製造所
 東京都 杉本隆治
 東京都 大正製酒株式會社
 東京都 永峰セルロイド工業株式會社
 東京都 カルピス製造株式會社
 東京都 日本百貨店協會
 東京都 エフ・ホフマン・ラ・ロッシュ株式會社
 東京都 第一製藥株式會社
 東京都 日本石油株式會社
 東京都 堀井啓堂
 東京都 活力商會
 東京都 久米貞春
 東京都 篠崎インキ製造株式會社
 東京都 東京瓦斯株式會社
 東京都 日本特殊銅合資會社
 神奈川 日本カーボン株式會社
 東京都 沖電氣株式會社
 東京都 旭硝子株式會社
 東京都 高木工業所
 東京都 岩谷冷蔵株式會社
 東京都 高山耕山化學陶器株式會社
 東京都 高砂煖房工事株式會社
 東京都 大日本麥酒株式會社
 東京都 日本麥酒鑛泉株式會社

府縣名 受賞人名
 東京都 森永製品第二販賣所
 東京都 日本毛織株式會社
 東京都 中山太陽堂中山太一
 神奈川 建築資材協會
 神奈川 神奈川出品協會
 東京都 京都出品協會

第六章 儀式及招待

第一節 總裁宮殿下賜餐

大正十四年十月九日 總裁 久邇宮殿下に於かせられては重なる役員九十餘名を東京府下澁谷の宮邸に召され賜ひ農林大臣早速整爾氏以下一同に謁を賜ひたる後御丁重なる午餐を賜はりたるがデザースコースに入り 殿下には御主人席に起たれ

不肖此たび總裁の職を瀆すこととなりました、就きましては宜しく諸君の御援助を御願致します、本日の會合に當りまして少しく冀望を述べたいと思ひます。

我帝國方今の急務と致しましては産業の基礎を科學に置きまして國産の發達を期すべきであると思ひます。明春博覽會の開催を機と致しまして當業者互に研鑽改良に資せらるゝのみならず、製品の擴布弘播を圖り且つは化學智識の普及と發明企業品の衝發に努められまして帝國の進運を裨補致されたい、之れは吾々の時局に善處するの道と心得ます。

今日會合の諸君は何れも化學工業上に重要な地位を有さるゝを以て願はくば共に相諮りまして目的達成の爲め御盡力あらんことを冀望致します。私は明春の博覽會の隆盛ならんことを祝せんが爲めに諸君と共に盃を舉げませう。

とて高々と御手を舉げさせ給ふ、居並ぶ一同恐懼措く能はず杯を舉げて感泣する者あり、殿下の御前に在りし高松會長は恐るゝ立ちて殿下の御許しを願ひ

私は唯今 總裁宮殿下の御許しを得まして甚だ潛越ながら一言奉答致します

本日朝野に於ける化學工業關係の重なる者並に第二回化學工業博覽會役員は 總裁宮殿下の厚き思召に依り御招待を蒙りまして御鄭重なる賜餐を辱ふし又唯今殿下より優渥なる御獎勵の御詞を賜りました事は一同の深く光榮と致し感激措く能はざる所で御座います爾今一層奮勵努力して殿下の思召に副ひ奉る

覺悟で御座います茲に一同を代表して謹みて御禮を言上仕ります。
續て農林大臣早速整爾氏は殿下の御健康を祝さん爲め杯を舉げ一同之れに和したるが 殿下の思召は此御賜餐に止まらず越えて十三日には博覽會役員四百餘名を帝國ホテルに召され給ふ、殿下には宮務監督本郷大將、山田事務官等を隨へられて午後三時帝國ホテルに成らせられ大廣間に於て一同に謁を賜ひ左の令旨を賜はる。

令 旨

化學の應用は工業發達の源泉國産興隆の基本たり今や第二回化學工業博覽會を開催し較量研鑽の機會を與へ販路弘擴の地を作り延て科學思想の洽普及を促進し以て國運の進展に貢獻する所有らむとす洵に機宜を得たるの舉措と謂ふ可し諸員戮力協心克く目的の達成を期せよ

大正十四年十月十三日

令旨を拜受したる高松會長は直に左の答辭を奉れり

答 辭

本日をして第二回化學工業博覽會關係職員に對し特に

總裁宮殿下優渥なる令旨を賜ふ豊吉等感激措く所を知らず本會開設の趣旨たる時代の要求に基き産業國防及國民生活の安定上化學工業の發達を企圖すると共に科學知識發明思想の普及を促進し以て國運進暢に貢獻せんとするに外ならず豊吉揣らず會長の任を瀆し恐懼に堪へず聖代の餘澤と 總裁宮殿下の懿徳とに因り計畫は順調に進捗することを得たり爾今鞠躬勵精以て令旨の厚きに副ひ奉らんことを期す

謹て奉答す

大正十四年十月十三日

第二回化學工業博覽會々々長

斯くて殿下には一旦御休憩の後食堂に入らせ給ひ一同之れに従ひ美事なる茶菓を賜はりたるが宴後特に一同に御紋章入り菓子折を下賜されたり、

從三位勳一等 高松 豐吉

第二節 上棟式

本會建築工事の進捗するを期とし二月二十五日(木曜日)午後を以て上棟式を舉行するを得たり。式場は新館屋上にして當日朝野貴紳の臨場せられたるもの無慮三百餘名あり、四時を報するや清浦副總裁、高松會長、内田顧問、中松事務總長各理事等着席次第で祭主神田神社神職木村瑞枝氏祭官一同を隨へて着席夫より式は莊嚴なる奏樂裡に行はれ清浦副總裁以下順次玉串を捧げ式畢りて餅撒を施行し午後五時半各自退下せり此日來賓には紅白餅の折を呈せり當日の案内狀及順序書左の如し

拜啓春暖相催候折柄益々御清穆ニ被爲涉候段奉慶賀候陳者來二月二十五日午後四時上野公園不忍池畔本會々場ニ於テ新築諸館上棟式ヲ舉行致候ニ付御責臨ノ

- 第二回化學工業博覽會 上棟式順序
- 第一 振鈴 午後四時
- 齋主祭官式場着席
- 來賓、事務所二階集合
- 第二 振鈴
- 來賓一同、式場着席
- 修祓
- 降神行事 一同起立

榮ヲ賜度此段御案内申上候 敬具

大正十五年二月十七日

第二回化學工業博覽會々長

高松 豐吉

殿

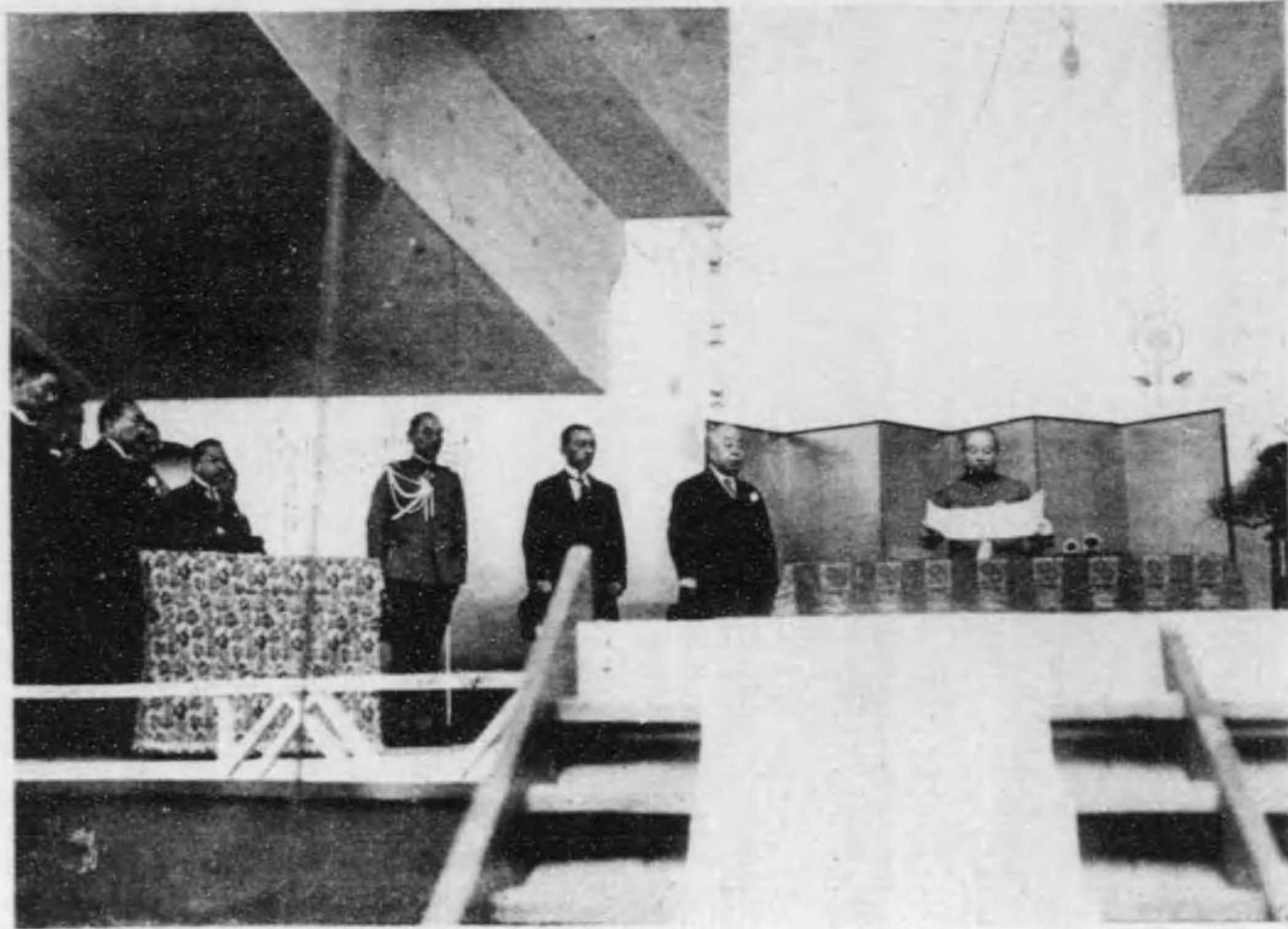
追而服裝御隨意ニ願上候尙乍御手数御來否折返し御回示相煩度候

- 次 神饌ヲ供ス 此間奏樂
- 次 齋主祝詞ヲ奏ス 一同起立
- 次 副總裁以下玉串ヲ獻ケ拜禮 此間奏樂
- 次 神饌ヲ撤ス 一同起立
- 次 昇神行事
- 次 各自退下
- 以上

大正十五年二月二十五日

第二回化學工業博覽會上棟式祭詞

家乃根高々爾、設備留多臨時乃祭庭爾、畏毛天津神國津神乃、御名手稱奉里、立麻陀須祈啓乃禮自利乃許爾、神田神社神職木村瑞枝、齋主刀爲豆慎美敬毛比宜久佐、化學工業協會波斯、今年乃春花咲久彌生乃頃乎以知、博覽會婆手開久可麻、事謀里定斯隨々、豫豆與斯我爲乃建物毛能須倍、事起爾斯々、家形我本津整保里、如此成禮婆、關係有留人達諸爾、如何泥吉日乎撰定米、上棟乃祭典治奉里、各我清伎心乃字羅藝乃狀乎、入紐乃同情以知、奇伎大神達乃御前爾表奉刀須、是今日乃禮事爾、人皆我思若知斯企圖爾、就伎、後掛那豆祥徵婆、一向爾仰乞彌俱外奈其、會母、此乃協會我催世博覽乃始皮、去爾大正六年爾、今回波、其乃舉爾奈在里那、大方乃現事波斯、日時乃遷里替爾伴奈理乃隨々、化學工業乃如伎、殊爾天地乃極無伎慈惠乃賜物爾依里、人智乃及布限里、不盡奴幸乎保留物爾在波、必受、活



開會式(總裁殿下命令ヲ賜フ)



開會式(參列者)

三月十九日(金曜日)本會開會式を舉行す式場は本館前庭餘興場を中心として之に充てたり。若槻内閣總理大臣(代理)、岡田文部大臣(代理)、片岡商工大臣、早速農林大臣(代理)、平塚東京府知事、中村東京市長其他貴紳の臨場無慮二千餘名あり

午前九時四十分第一振鈴を合圖とし一同著席九時五十分 總裁宮殿下御着、迎賓館に入らせられ午前十時第二振鈴を合圖に 總裁宮殿下には高松會長の御先導にて君が代表奏樂諸員敬禮中に英姿颯爽式場に成らせられたり是に於て高松會長は 總裁宮殿下の御前に進みて開會式舉行を言上し會場圖及出品目錄を捧呈す右終るや 總裁宮殿下には諸員最敬禮の裡に左の優渥なる命令を下し給ふ

命令

第三節 開會式

布用乃上爾依里、人世乃利益乃成武事等乃多斯爾在里思閉、今、其乃博覽會乃再度重爾良、全久進斯美世乃需奈留留、又、常爾撓奴協會我勤勞、十年經過斯知日月我間乃榮乃驗毛尊衣、今回乃會爾、畏久竹乃園生乃君乃總裁刀爲且、臨麻給慶事佐、素與偶然爾不有物刀斯稱閉津、即且、開可留博覽會乃譽、甚予許與奈斯刀謂布倍也、實爾、國乃産業我基刀成留倍化學工業乃上爾、年頃事執里來津是乃協會乃催斯奈、六十日爾互留其乃庭乎爲且、奇斯科學智識乎引延武方爾、瑞々斯發明思想乎進武上爾、廣久世爾宇倍奈波、多久人爾知兵由物刀令在給閉、棟舉乃今日乃詩詞爾、就且、人皆我忠實留思乎、籠斯須々賀々斯心乃眞柱、中執里持乍毛、忌知里嚴知里仕奉良久白須

を望む

次で會長の答辭あり夫より内閣總理大臣、商工大臣、農林大臣、文部大臣、東京府知事、東京市長、東京商業會議所會頭、東京實業組合聯合會長の祝辭、出品人總代の答辭を朗讀し了りて會長の閉式の挨拶あり時に午前十一時奏樂の裡に總裁宮殿下御退場あらせられ式を閉づ。之より殿下には會長の御先導にて各館を御巡覽あらせられ十一時半御還啓あらせられたり來賓一同は各隨意退散午前十一時半に至り一般の觀覽を許したり。

當日の答辭及祝辭は左の如し

答 辭

第二回化學工業博覽會の設備完成を告げ本日をして開會の式を擧ぐるに方り特に 總裁宮殿下の台臨を辱ふし優渥なる令旨を賜ふ寔に本會の光榮にして豊吉等感激措く能はざる所なり

本會は其第一回を大正六年九月當所に開催せし以來茲に八年有餘の星霜を経過し其間本邦化學工業の進歩大に見るべきものありと雖戰後列國に於ける斯業の進歩は更に著しきものあり今や國產獎勵の必要なる時機に際し産業の基礎たるべき化學工業の大成を促進するの急務なるは言を俟たず本會は即ち此趣旨に基き開催したるものにして幸に官民一般の贊助する所となり出品は豫期以上の成績を示し出品者は官廳を除き其數一千八百三十七名總出品三萬五千九百十點の多きに達し之を前回の成績に比すれば新規なる製品と品質の優秀なるもの多きを見るは明に斯業の進歩を證するに足る是れ時運の然らしむる所なりと雖實に總裁宮殿下の御指導其の宜しきに適したると出品人及關係者各位の熱誠とによるものと信ず爾今一層奮勵努力して本會設立の目的を貫徹せしめ以て

總裁宮下の御意示に副ひ奉らんことを期す

大正十五年三月十九日

第二回化學工業博覽會長

高

松

豊

吉

祝 辭

七六

顧ふに一國産業の發展すると否とは國力消長の岐るる所に屬す今や世界の列強孜孜として力を此に致すもの誠に故ありと謂ふべく殊に産業の振興が主として化學工業の發展に俟たざるべからざるや復言を須めざる所なり唯夫れ輓近我邦に於ける此の種工業の發展固より既に顯著なるものありと雖而かも之を歐米列國に比すれば尙甚及ばざるものあるは洵に遺憾に堪えず

今是の時に當て第二回化學工業博覽會の舉あり畏くも總裁宮殿下台臨の下に茲に開會式を舉げらる獨り化學工業をして重きを加へしむるものあるのみならず會場萬般の設備其の宜しきに適ひ陳列の出品亦最新の製作を網羅したるの觀あるは共に大に人意を強ふするに足るものあり本博覽會の斯業發達上に裨補する所極めて大なるべきは予の信じて疑はざる所なり

茲に開會の式あるに際し此の有意義の事業をして十分に其の成果を收めしめられむことを切望して以て祝辭となす

大正十五年三月十九日

內閣總理大臣 若 槻 禮 次 郎

祝 辭

茲に總裁宮殿下の台臨を辱ふし第二回化學工業博覽會開會の式典を舉行せらるるに方り聊か平素の所懐を開陳するの機會を得たるは余の欣幸とする所なり

凡そ化學工業は深遠なる學理を應用し變幻極なき幾多有用の資を供するを以て其の眼目と爲す而して本邦は由來土地狹小天然資源亦豊富ならず將來産業上の競争益々激甚ならむとするに當り我國情に最も克く適し將來大に發展を期するの望ある産業を求めむとすれば必ずや何人も化學工業を推すに躊躇せざるべし特に輓近合成化學の進歩に依り從來其の供給に限りある天產品に仰ぎたるもの今や人工的に容易に製出せ

らるるに至りしが如き愈々吾人の確信を強からしむるものあるを感せずむばあらず

惟ふに本邦化學工業は偶々歐洲大戰に際會し過去久しきに渉る本邦學術研究の効果を如實に顯現する絶好の機會を得て爾來十年其の發展の上に甚だ見るべきものあり然れども之を概觀するに直接消費に當てらるる全製品の如き著しき發展を遂げたるものあるも曹達の如き窒素化合物の如き將又各種工業藥品の如き半製品又は基礎材料に關するものに在りては未だ研究の餘地を藏するもの尠からず而も化學工業の完全なる開發振興は其の根底たるべき此等半製品並に基礎材料の完成に俟たざるべからざる所以に鑑み今後此の方面に於ける一段の研究努力を要望すること寔に切なるものあり今や化學工業協會主催の下に第二回化學工業博覽會の開催せられ本邦化學工業の進歩發展の事績を展示すると共に本邦斯業の歸趨を指摘して一般的啓發指導に資するところあらむとす、冀くは本邦化學工業界の發展を促し延いては本邦産業の振興に貢獻せられむことを一言以て祝辭とす

大正十五年三月十九日

商工大臣 片 岡 直 温

祝 辭

總裁宮殿下の台臨を仰ぎ第二回化學工業博覽會開會式の舉行せらるるに方り所懐の一端を陳ぶることを得るは余の欣幸とする所なり

惟ふに貿易の伸張、國民生活の向上は化學工業の發展に俟つ所極めて大にして之が進歩は一國文明の程度を語ると共に其の隆替は國運の消長に關すと謂ふも蓋し過言に非ざるなり方今世界の列國は力を化學工業の發展に致し以て國力の充實を企圖するを懈らざるは洵に宜なりと謂ふべし

翻て農林、水産、畜産等の諸産業と化學工業の關係を見るに極めて緊密なるものあり或は原料の供給者として或は製品の使用者として是等産業の振否は化學工業に倚る所甚大なり若し夫れ森林經營に依り水源の涵養を行ひ發電水力の増進を圖るは化學工業の健全なる發展を期する上に於て必要缺くべからざる所なり

七七

現時本邦化學工業の狀勢を見るに未だ先進諸國に及ばざるもの尠からざるは甚遺憾とする所なり化學工業協會は曩に歐洲大戰の直後化學工業博覽會を開きて多大の効果を收めたるも時代の趨勢は一層之が發達を促して已まざるを以て更に其の第二回を開催するに至る寔に時宜に適したるの舉と謂ふべし翼くは此の機に於て斯業の現勢を知らしむると共に國民一般の理解を促し産業及貿易の振興に資し以て國運の隆昌に寄與せられむことを一言を述べて祝辭とす

大正十五年三月十九日

農林大臣 早 速 整 爾

祝 辭

本日茲に化學工業協會主催第二回化學工業博覽會を開催せらるるに當り一言を陳べて祝意を表するは子の欣幸とする所なり惟ふに工業は機械工業と化學工業の併進發達によりて健全なる振興を齎らすものなりと雖も就中化學工業は産業の基本にして國民の日常生活に關係深く又國防上にも極めて重大なる任務を有するを以て今や世界の各國は斯業振作の爲めに銳意力を致せるの實情にあり特に天與の物資豊富ならざる我が國の如きは化學を基礎とせる工業並に藝術的の加工品に就きて一段の研鑽を遂ぐるは緊要のことに屬す然るに我が化學工業界は歐洲大戰終熄以來萎靡沈衰を特續し今日に至れるは獨り斯業の爲めのみならず我國産業界の爲寔に遺憾とする所なり之れが挽回の策は種々あるべしと雖も學理の究明と技術者の養成に力むるの外國民一般をして斯業に關する知識を會得せしめ其の覺醒に俟つの極めて必要なるは多言を要せざるべし化學工業協會が茲に鑑み廣く化學工業製品を一堂に蒐め當業者相互の研究に資すると共に一般公衆に理解を與ふる爲本會を開會せられたるは寔に時宜を得たるものと云ふべし

予は本會の開催が必ずや我が國現時の化學工業に一大刺戟を與ふべきを確信し本會關係諸氏の努力により充分所期の目的を達成せられんことを望む

大正十五年三月十九日

文部大臣 岡 田 良 平

祝 辭

第二回化學工業博覽會の設備成り親しく
總裁宮殿下の台臨を仰ぎ茲に開會の式典を舉行せらるるは寔に邦家の幸慶にして欣幸措く能はざる所なり

抑も産業の振興は現代國家の理想にして各國共に擧て努力せる所たり我國亦宇内の大勢に順應して列國の施設と拮抗して苟も遺算なきを期せざるべからざるなり而して産業の發達は科學に對する國民の自覺と其理解を前提とするものなるを以て本博覽會の開設は人をして殊に意義の重大なるを感せしむ今や諸般の設備完成し宏大なる規模と充實せる其内容とは之を第一回の計畫に對比する時は正に一段の進境を示すものと云ふべく現代科學の精粹は全く一堂の中に在りと云ふべきなり之れ實に當事者の熱誠と精勵とに因るものにして國民の知識を開發し聖代の隆昌を稗補する所蓋甚大なるものあらん一言以て祝辭とす

大正十五年三月十九日

東京府知事 平 塚 廣 義

祝 辭

茲に本日を卜して第二回化學工業博覽會發會式を舉行せらるるは子の慶賀に堪へざる所なり
惟ふに近時化學の研究日に進み其の應用工業亦從て勃興し國民生活の福祉を増進せる所特に顯著なるものあり然れども翻て之を歐米先進國の現況に比すれば尙將來の發達に期待すべきもの尠からず此の時に當り本博覽會を開催し化學工業に關する知識技術の進歩と普及に努めらるるは最も時宜に適せる美舉と云ふべし

斯業の振否は社會の昌榮に關與する所極めて大なり庶幾くは關係各位最善の努力を致し以て有終の美果を收められむことを一言蕪辭を述べて祝辭とす

大正十五年三月十九日

東京市長 中村是公

祝辭

春光輝く不忍池畔に第二回化學工業博覽會の新裝成り畏くも 總裁久邇宮殿下の台臨を仰ぎ本日茲に其の開會式を舉行せらるるに當り一言祝辭を呈するの機會を得たるは予の最も欣幸とする所なり

抑々經濟の發達竝に産業の振興は化學工業の進歩に俟つ所甚大なるものあるは多言を俟たず特に我國の如く國土狹少にして天然資源に乏しく而も商工業を以て立國の基礎とする邦家に在りては化學工業の保護獎勵を最も緊要と爲さざるべからず化學工業協會夙に茲に鑑る所ありて曩に第一回化學工業博覽會を開催し斯界に貢獻する所著大なるものありき今復第二回博覽會を開き輓近異常なる進歩を遂げたる本邦化學工業の精華を網羅し彼此比較研究に便ならしめ且つ斯業に關する一般知識を普及せんとするは寔に時宜に適應する所なり

希くは關係各位の盡力により本會の盛況を呈すると共に克く其の使命を遂行し以て斯業の繁榮と國運の興隆に寄與せられんことを聊か蕪辭を列ねて祝辭とす

大正十五年三月十九日

東京商業會議所會頭 指田義雄

祝辭

茲に本日を卜し 總裁宮殿下の台臨を仰ぎ第二回化學工業博覽會の開會式を舉行せらる

惟ふに本會第一回の擧が優秀の成績を擧げ吾が化學工業の發達及其の知識の普及に對し多大の貢獻を致せる普く認めらるる處にして生等の感謝措かざる處なりと雖も吾が斯業の現狀を顧るに歌米諸國に比し未だ遜色無き能はざること甚だ遺憾とする處なり此の秋に當り此の擧を重ねる往年の成績に徴し其の斯業の進展に資する處蓋し甚大なるものあるべきを信じ寔に慶賀に堪へず茲に聊か蕪辭を陳べて祝詞とす

大正十五年三月十九日

社団法人東京實業組合聯合會會長 星野錫

答辭

本日 總裁宮殿下の台臨を仰ぎ朝野貴紳の來臨を辱ふし茲に第二回化學工業博覽會開會式を舉行せらる出品人一同の光榮之に過ぎず吾人不敏と雖も能く 殿下の命令を奉じ來賓各位の高諭を體し拮据經營國產の増大を圖り以て本會開設の趣旨を貫徹せんことを期す

乃ち之れを答辭となす

大正十五年三月十九日

第二回化學工業博覽會出品人總代 馬越恭平

當日各地より電報を以て祝意を表せられたるもの左の如し

祝電

- 一、開會を祝し御成功を祈る
 - 一、開會を祝す
 - 一、第二回化學工業博覽會開會の盛式を祝す
 - 一、第二回化學工業博覽會發會式を祝す
 - 一、御盛典を祝す
- 臺灣總督府殖産局長
岐阜商業會議所會頭
福岡麻生太吉
廣島高等工業學校長
淺利香川縣知事

京都府知事
青木平安南道知事

一、御盛典を祝し御成功を祈る
一、貴會の開會を祝し御成功を祈る
當日の案内狀及式次第書は左の如し

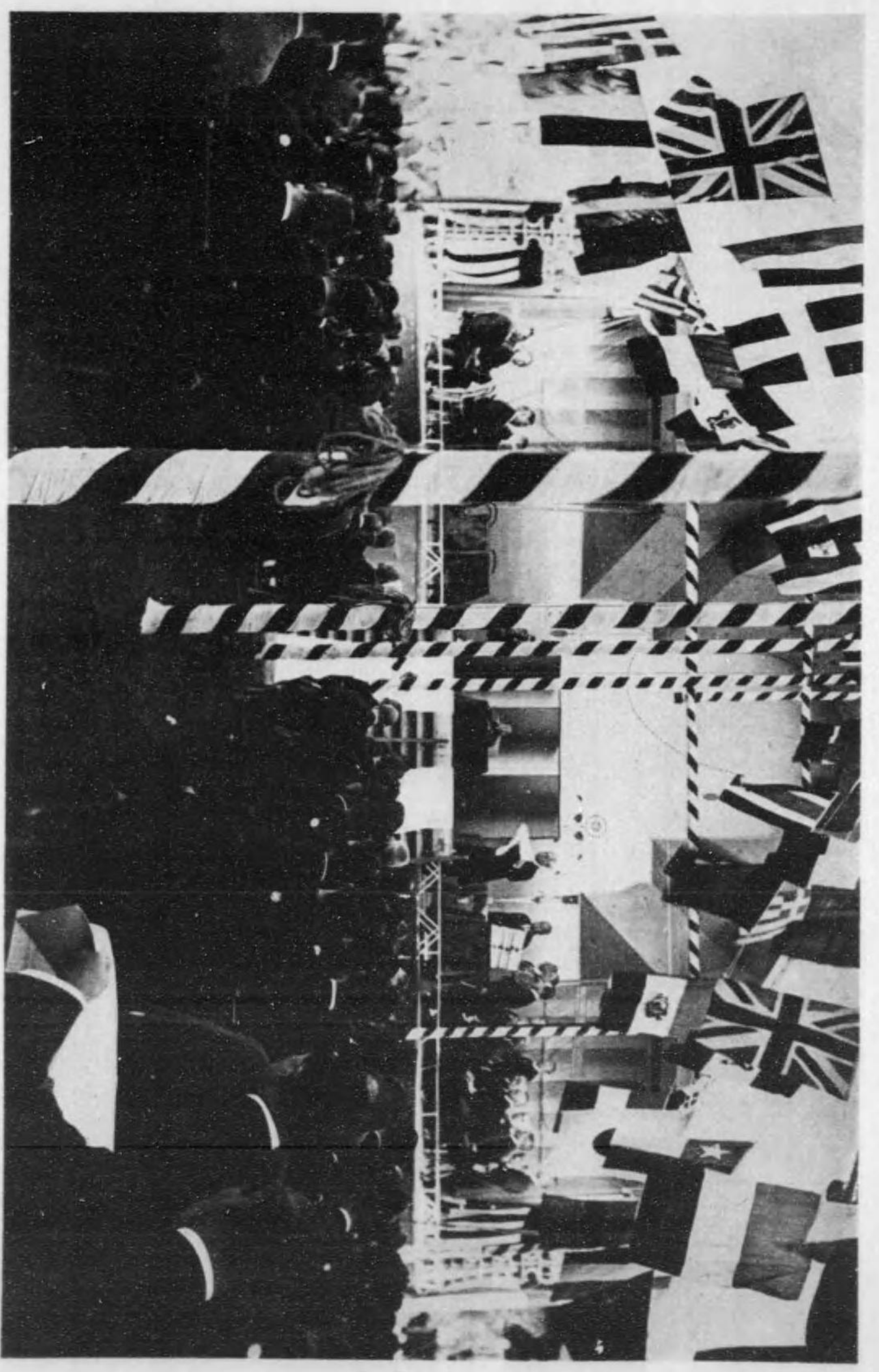
第二回化學工業博覽會
開會式次第書

- 第一振鈴 (午前九時四十分) 奏樂
- 來賓着席
- 第二振鈴 (午前十時) 諸員敬禮
- 總裁宮殿下台臨
- 一、奏樂 (君が代)
- 二、會長開會ヲ 總裁宮殿下ニ言上シ會場圖及出品目錄ヲ捧呈ス
- 三、總裁宮令旨
- 四、會長答辭
- 五、來賓祝辭
- 六、內閣總理大臣
- 農工大臣
- 農林大臣
- 文部大臣
- 東京府知事
- 東京市長
- 東京商業會議所會頭
- 東京實業組合聯合會會長
- 六、出品人總代答辭
- 七、會長閉會挨拶
- 八、奏樂 (君が代)
- 九、總裁宮殿下御退場 諸員敬禮
- 會長御先導 總裁宮殿下場内御巡覽
- 第三振鈴
- 一、來賓場内巡覽
- 二、隨意退散

肅啓春陽之候愈々御清穆被爲互
候段奉恭賀候
陳者總裁 久邇宮殿下ノ台臨ヲ
仰キ來三月十九日(金曜日)午前十
時上野公園不忍池畔本會々場ニ
於テ開會式舉行候ニ付萬障御繰
合御責臨ノ榮ヲ賜リ度此段御案
内申上候 敬具

大正十五年三月
第二回化學工業博覽會々長 高松豊吉
第二回化學工業博覽會副總裁 子爵清浦奎吾
殿

退テ當日御責臨ノ有無三月十六日迄ニ御回示被下度相願
候



式與授賞褒

當日來賓各位に左記の八種を贈呈したり

總裁宮殿下御眞筆式紙

第二回化學工業博覽會場圖

同 案内書

同 記念繪葉書

菓子折詰

「化學の必要」

宣傳用繪本

宣傳用燐寸

第四節 褒賞授與式

五月十三日(木曜日)本會褒賞授與式を舉行す、式場は前例に依り本館前庭の餘興場を中心として之に充てたり、午前九時前後より出品人、來賓等陸續參着、若槻内閣總理大臣(代理)以下貴紳の臨場者無慮壹千有餘名あり午前九時五十分 總裁官殿下の御台臨あり迎賓館にて御少憩遊さる。第一振鈴により來賓着席し午前十時第二振鈴により奏樂(君が代)諸員敬禮中に會長の御先導にて 總裁宮殿下式場に成らせらるるや本會長恭しく 總裁宮殿下の御前に進み褒賞授與の式典を舉行せられんことを稟請し受賞人名簿を捧呈す次で平山審査總長は審査の概況を言上し終りて 總裁宮殿下には一同最敬禮の中に左の優渥なる令旨を下し給ふ

令 旨

第二回化學工業博覽會の審査全く完了して茲に褒賞授與の式を舉ぐ抑々本會は産業の隆興と文化の進歩とに貢獻せんが爲め本邦の代表的化學工業製品を蒐集したるものにして其量に於て前回に優るのみならず質に於ては遙に之れを凌駕するの成績を收め得たるは一に本邦斯業の發達に依るものにして欣快に堪へず

希くは諸氏今後益々力を化學工業の發達に致し世界人類の福利を増進すべく一層の奮勵あらんことを次で式場係は順次受賞者を呼出し受賞者は聲に應じ式壇を上りて 總裁宮殿下に最敬禮をなし會長前に進

み係員に於て褒賞等級及受賞者人名を讀上るに隨ひ會長より賞状を受けて退けり當日參列の來賓には受付にて宴會券を交付し上野精養軒に於て粗餐を呈したり

種別及員數左の如し

- 一、名譽大賞牌 二十九名
- 右受賞者各自に授與す
- 一、名譽賞牌 六十六名
- 右は一括して總代に授與す
- 一、金牌 百三十三名
- 右前同斷
- 一、銀牌 百八十一名
- 右前同斷
- 一、銅牌 二百十八名
- 右前同斷
- 一、褒狀 二百十三名
- 右前同斷

右了りて若槻内閣總理大臣、片岡商工大臣、岡田文部大臣、平塚東京府知事、中村東京市長、中野東京府會議長、鳩山東京市會議長、指田東京商業會議所會頭、星野東京實業組合聯合會會長等の祝辭及受賞者總代として大日本麥酒株式會社々長馬越恭平氏の答辭あり次に本會長閉式を言上し竝に挨拶する所あり奏樂裡に 總裁宮殿下御退場次に參列者一同退場茲に全く褒賞授與式を了りたる時は午前十一時半なりき

當日の審査概況報告、祝辭及答辭左の如し、

審査概況報告

第二回化學工業博覽會出品の審査終了を告げ本日 總裁宮殿下の台臨を仰ぎて褒賞授與式を舉行せらるるに方り審査概況を言上するは成信の光榮とする所なり

本會の出品は全國に於ける斯業の各方面に及び包含する所極めて廣く全部四十一類に亘れる出品點數は三萬五千九百十點にして出品人員は一千八百三十七名なり今之に對する審査の概況を述べれば各類出品一般に進歩の状態顯著なるは最も欣ぶべく殊に發烟硫酸、合成鹽酸、曹達灰、蓄電池、電解曹達、窓硝子、衛生陶器、各種護謨製品、人造染料、リソリウム、人造絹糸、セルロイド製品、理化學器械等の如き去る大正六年第一回開會の際には未だ存立せざりし事業又は當時尙ほ盛大ならざりしものにして今回其の出品の見るべきもの多く就中調革、窓硝子、陶磁器、セルロイド、新聞用紙其他既に自給自足の域に達し更に輸出を見るに至れるもの尠からざるは邦家のため慶賀措く能はざる所なり

茲に審査の成績に依り褒賞を授與せらるるもの名譽大賞牌二十九名、名譽賞牌六十六名、金牌百三十三名、銀牌百八十一名、銅牌二百十八名及褒狀二百十三名合計八百四十名の多きに達せり惟ふに此盛況は亦以て我が化學工業の大勢を示すに足らんか然りと雖も出品中尙ほ改良を要すべきもの亦決して尠からず冀くは當業者各位今後一層學術的研究を経とし、實地的練熟を緯として以て斯業の改進延いて國産の振興を期せられんことを以上謹みて審査の概況を報告す

大正十五年五月十三日

第二回化學工業博覽會審査總長從二位勳一等男爵 平 山 成 信

祝 辭

第二回化學工業博覽會開會以來豫期の成果を擧げ茲に 總裁宮殿下台臨の下に褒賞授與式の舉行せらるるに會するは洵に欣幸とする所なり

惟ふに化學工業發達の喫緊なるは世の齊しく認むる所なりと雖も本博覽會の如く一方廣く之れに關する知識と趣味とを普及せしむると共に他方當業者を指導し獎勵するの企あるにあらざれば能く其目的を達成

すること能はざるなり
各位が本日茲に授賞の光榮に浴せらるるは從來斯業の發達に努力貢獻せられたるの賜ものにして我國の化學工業をして本博覽會に示されたるが如き状態に進歩せしめたるもの亦各位の功與りて力ありたるを思へば各位は欣然此殊遇を受けらるるに相當なるを信す
希くは各位が本日の光榮に感奮して更に層一層斯業の爲に精進せられんことを茲に褒賞授與式に當り一言を寄せて祝辭とす

大正十五年五月十三日

内閣總理大臣 若 槻 禮 次 郎

祝 辭

茲に 總裁宮殿下の台臨を辱うし第二回化學工業博覽會褒賞授與の式典を擧げらるるに方り聊か祝意を陳ぶることを得るは予の欣幸とする所なり
惟ふに人口夥多なる我邦に於て國力の増進を圖らむとせば一に工業の發達に俟たざるべからず我邦に於ける工業は近時異常なる發達を遂げたりと雖概ね戰時需要に伴ひ難然勃興したるものにして其の基礎必しも鞏固なりと謂ふべからず然れども化學工業の如きは實に我國情に適し將來大に發達を期待し得べき工業にして須らく官民一致協力して極力之が改善振興を圖りて今後の國際競争に備ふる所なかるべからず此の秋に方り化學工業協會は第二回化學工業博覽會を開設し汎く化學工業品を一堂に展示し當業者に比較研究の機會を與へ又一般の指導啓發に資せむとす洵に時宜に適せる舉にして我邦文化の發達、産業の進歩に裨益する所極めて甚大なるべきを信す今其の審査成績に依るに幾多優秀なる化學工業製品の出陳を見、本邦斯業の改善進歩の跡極めて顯著にして之を前回の成績に比すれば實に隔世の進展を示せるものと謂ふべし之れ偏に當業者諸氏多年研鑽努力の賜にして我産業界の爲洵に慶賀に堪へざる所なり然れども各國に於ける化學工業界は日に月に新にして今後歐米先進國に伍して遺憾なきを期せむとせば尙一層不斷の努力

を致さざるべからず冀くは諸氏本會審査の成績に鑑み益々研究工夫を重ね奮勵努力以て我邦化學工業の振興を圖り國運の隆昌に貢獻せられむことを一言以て祝辭とす

大正十五年五月十三日

商工大臣 片 岡 直 温

祝 辭

本日第二回化學工業博覽會褒賞授與式を舉行せらるるに際し一言祝詞を述ぶることを得るは余の欣幸とする所なり

本會は辱くも 久邇宮邦彦王殿下總裁の下に本年三月十九日を以て化學工業協會の開催せる所にして其出品數千點に達し開會以來今日に至るまで五十餘日能く所期の成績を擧げ得たるは關係者各位の努力に依る優秀なる製品の展覧に負ふ所蓋し少しとせず特に本日名譽ある褒賞を得られたる出品者は何れも其の技術卓越し進歩の證跡歴然たるものあり我が國産業發展上に寄與する所頗る大なるものあるを信す而して我國の化學工業は今後之が改善考究を要すべきもの尠からざるものあるべきを以て各位は益々研鑽努力せられ更に優良なる製品を出し大に我が國産業伸暢の爲め今後一層盡瘁せられむことを望む

大正十五年五月十三日

文部大臣 岡 田 良 平

祝 辭

第二回化學工業博覽會審査終了を告げ 總裁宮殿下親しく台臨あらせられ茲に褒賞授與の式典を舉行せらる

惟ふに本會は國力伸長の要諦たる我國化學工業の大觀を成し出品點數三萬六千、人員一千八百餘名の多數に上り學理の應用技術の進歩共に見るべきものあり當業者に對し裨益する所大なりしは言を俟たず一般

民衆の覺醒と理解とを促進せしむるの功蓋し顯著なるものあるを信す今や嚴正なる審査批判に依り當業者苦心經營の成果を闡明せられたるは獨り受賞者の榮譽たるのみならず斯業の爲め慶賀に堪へざる所なり望むらくは出品者諸氏審査の成績に鑑みて更に一層の研鑽考究に努められ以て本邦斯業の進展と國運の興隆とに寄與せられむことを

大正十五年五月十三日

東京府知事 平塚 廣義

祝辭

第二回化學工業博覽會出品審査成り 總裁宮殿下の台臨を辱ふし茲に本日を以て褒賞授與の式典を舉行せらる洵に慶賀に堪へず

惟ふに文運の進展に伴ひ斯業の發達亦著しく是を第一回の當時に比すれば進歩の跡歴然たるものあり是偏に當業者各位の能く日新の學術に著眼し銳意改善に盡瘁せられし賜にして其の國民の福祉邦家の隆昌に貢獻せし所甚だ尠からざるべし然りと雖時勢不斷の變遷は此の停滯を許さず庶幾くは各位相互に長短を考覈し彼此相補ひて斯業の發達を圖り以て本會開催の目的を貫徹し次回に於て更に優秀の成果を挙げられんことを

本日の盛儀に列し一言所感を陳べて祝辭とす

大正十五年五月十三日

東京市長 中村 是公

祝辭

富源を開發し生活を向上せしめんと欲せば其の基礎を工業の上に確立するを要す工業の進歩を期し實質の改善を圖るは化學の研究に疎たざるを得ず

今や學術日進の趨勢に會し化學工業品の新面目を呈するの秋に當り之を一堂の上に展列して比較品評以て斯業の發展に資せむとする本會は畏くも 總裁宮殿下の台臨を仰ぎ茲に審査の結果を公表し褒賞授與式を舉行せらるるに至れり欣快何ぞ堪へむ是れ獨り出品者諸氏に對し一層の發奮努力を將來に庶幾すべきのみならず洽く好箇の指針を一般斯界に開示するものたるを信じ一言鄙懷を陳して祝辭とす

大正十五年五月十三日

東京府會議長 中野 勇治郎

祝辭

本日を卜し第二回化學工業博覽會褒賞授與式を舉行せらる抑も化學工業は一國産業の基本にして斯業の盛衰如何は繫りて國運の消長に至大の關係を有す此の故を以て歐洲大亂後列國競ふて之が發達助長に努むる所ありしは蓋し宜なりと謂ふべし

近時産業の進歩と共に我國に於ける化學工業の如きは實に異常の發達を告げ世界に誇るべきもの亦尠からざるは克く今回開催の本會が雄辯に其の事實を語るものと云ふべく洵に邦家の爲め慶賀に堪へざる所なり

惟ふに産業の進歩は科學知識の競争に存するを以て今後に於ける化學工業者の任務は重且つ大なりと言はざるべからず望むらくは宜しく天賦の才能と技工とを利して國産の増殖を計り國富の發展に寄與せられむことを

聊か蕪辭を述べて祝詞とす

大正十五年五月十三日

東京市會議長 鳩山 一郎

祝辭

茲に本日をして第二回化學工業博覽會が畏くも總裁 久邇宮殿下の台臨を仰ぎ褒賞授與式を舉行せらるるに當り一言祝辭を呈するの機會を得たるは予の最も欣幸とする所なり
惟ふに今回の博覽會は廣く各方面の出品を網羅し品質の優秀と技術の精巧とは意匠裝飾の斬新と相待て輒近に於ける本邦化學工業の精華を内外に顯彰したるのみならず更に進んで斯業竝に之に關聯せる事業の獎勵に或は又文化の發揚に遍く一般公衆の覺醒を促したる效果著大なるものあるは是れ吾人が關係各位の勞を多とすると共に衷心其の成功を祝福する所以なり

今や本博覽會が克く所期の目的を達成し會期將に終を告げんとする時に際し多數出品中特に品質の優良群を抜き其の考案に於ても將た又其の實益に於ても本邦產品の模範たるべきものを審査せられ茲に多數の諸君が受賞の榮譽を擔はるるは我國經濟發展の爲め寔に慶祝の至に堪へず冀くは今後一層奮勵努力し以て本邦産業の振興と國運の恢弘に寄與せられんことを聊か所懐を述べて祝辭とす

大正十五年五月十三日

東京商業會議所會頭 指 田 義 雄

祝 詞

第二回化學工業博覽會出品審査終了し 總裁宮殿下の台臨を仰ぎ茲に褒賞授與の式典を舉行せられ誠に慶賀の至に堪へず今審査の成績を觀るに出品の多數は孰れも優良にして學理の應用技術の進歩亦歴然たるものあるは余の最も欣幸とする所なり惟ふに一國産業の基本をなすものは實に化學工業にして其の振興を圖るは國運の隆昌を期する所以なるべく受賞者諸君の努力蓋し亦茲にあるを信す
冀くは今後益々製品の改善を怠らず吾が化學工業の伸暢に力を致されんことを聊か無辭を呈して祝辭とす

大正十五年五月十三日

社團東京實業組合聯合會會長 星 野 錫

答 辭

第二回化學工業博覽會審査終了し茲に 總裁宮殿下台臨親しく褒賞授與の式典を擧げられ且つ優渥なる令旨を賜はる吾等此光榮に浴し感激措く所を知らず
今や世界列國は産業の振興を圖ること頗る急に國產自給の聲益々切なり吾等謹で令旨を奉戴し奮勵努力以て大に國力の充實に貢獻せんことを期す受賞者一同に代り謹みて答辭を述ぶ

大正十五年五月十三日

第二回化學工業博覽會受賞者總代從五位勳四等 馬 越 恭 平

當日各地より電報を以て祝意を表せられたるもの左の如し

祝 電

- 一、遙かに第二回化學工業博覽會褒賞授與の盛典を祝す 朝鮮總督 齋 藤 實
- 一、御盛會を賀し御成功を祝す 松 尾 岐 阜 市 長
- 一、化學工業上重大なる効果を納め豫期以上の御成功を賀し併せて本日の盛典を祝す 福 岡 縣 知 事

當日の案内狀及式次第書は左の如し

第二回化學工業博覽會
褒賞授與式次第書

大正十五年五月十三日

第一振鈴 (午前九時四十分)

來賓着席

第二振鈴 (午前十時)

總裁宮殿下台臨

諸員敬禮

奏樂

- 一、奏樂 (君が代)
- 二、會長褒賞授與ノ式典ヲ舉行セラレントラ奏請シ
受賞人名簿ヲ捧呈ス
- 三、審査總長審査ノ概況ヲ言上ス
- 四、命令
- 五、褒賞授與
- 六、來賓祝辭
- 内閣總理大臣
- 農林大臣
- 文部大臣
- 東京府知事
- 東京市長
- 東京府會議長
- 東京市會議長
- 東京商業會議所會頭
- 東京實業組合聯合會會長
- 七、受賞者總代答辭
- 八、會長閉式言上并ニ挨拶
- 九、奏樂
- 十、總裁宮殿下御退場
- 十一、參列者退場

諸員敬禮

以上

謹啓

來ル十三日午前十時 總裁久邇

宮殿下ノ台臨を仰キ本會々場内

音樂堂ニ於テ褒賞授與式舉行致

候間御貴臨被成下度此段御案内

申上候 敬具

大正十五年五月六日

第二回化學工業博覽會會長 高松豐吉

第二回化學工業博覽會副總裁子爵 清浦奎吾

殿

追テ御貴臨ノ節ハ此狀受付係ヘ御示シ被下度候
尙御服裝ハ「フロックコート」「モーニングコート」若クハ
紋付羽織袴御着用相成度候
尙又御來否來ル十日迄ニ御回示相願度候

第五節 閉會式

五月十七日(月曜日)本會閉會式を舉行す式場は本館前庭の餘興場を中心として之に充ること前例の如し
午後五時振鈴を合圖とし出品人其他關係諸員等五百餘名着席高松會長の式辭朗讀に次で出品人總代朝鮮館
代表者松浦瑛哉氏の答辭ありて式を了れり從業員一同には慰勞の爲め福引を行ひたり
當日會長の式辭及答辭左の如し

式辭

第二回化學工業博覽會會期全く滿了し本日茲に閉會式を舉行するは予の最も光榮とする所なり抑も本會
は我邦化學工業の進展に資せんが爲め國民の覺醒と理解とを求めんとせしものにして幸に朝野一般の多大
なる贊襄と出品人各位の非常なる努力とに依り豫期以上の好成績を收め滞りなく本日の儀式を見るに至れ
るは誠に喜びに堪へず

本會は三月十九日 總裁宮殿下台臨の下に開會式を舉行してより茲に六十日其間晴天三十九日雨天七日
曇天十三日降雪一日にして比較的天候に恵まれたる如きも櫻花の候に於て寒氣容易に去らず殊に暴風屢々
襲來して心膽を寒からしめたることあり春季の氣候最も不順なりしに拘らず入場人員豫期以上多數に上り
たるは本會の爲めに大に祝すべき所なり

本會は又畏くも 皇太子殿下の行啓各宮殿下の台臨を辱ふし無上の光榮に浴したるは出品人は勿論役員
關係者一同深く感泣措く能はざる所なり

尙ほ本會は朝野の貴族縉紳學者實業家其他總ての階級を擧げて遠近を問はず來觀されたるは最も欣幸と
する所なり會期中の入場人員は總計五十萬人に達し一日の平均八千四百餘人其最高記録約二萬五千に及ぶ
の盛況を極め開設の趣旨を全ふし得たるは寔に本懐とす

出品は本邦化學工業の代表的製品三萬五千餘點人員一千八百餘名にして審査の結果は概ね優良にして褒

賞を受けたるもの八百四十名何れも漸次外國製品を驅逐して國産の増大を見るに至らんとす誠に慶賀に堪へざるなり望むらくは出品人各位益々奮勵以て一層の大成を期せられんことを

本會開會中化學工業大會を開催して本邦斯業の振興策を議し或は諸種の催しを計畫して一般の喝采を博し又は都下二十二萬の小學兒童に化學工業思想の宣傳をなし或は又各中等學校に開設の趣旨を闡明して學生の來觀を求め或は家庭と斯業の關係を明かにする爲め婦人小兒の來觀を歓迎するの設備計畫をなし大に便益を圖りたるが如きは以て聊か江湖に酬ゆるに足るを信す

本會は上述の如く豫期以上の盛況を呈し望外の効果を收めたる所以は一に官民多大の援助と新聞記者各位の深厚なる同情と其他直接間接本會に關係せる諸氏が尠ならず盡瘁せられたるに據るものにして今茲に本會を閉づるに當り是等各位に對し滿腔の謝意を表し併せて各位の健康を祈る

大正十五年五月十七日

第二回化學工業博覽會長 工學博士 高 松 豊 吉

答 辭

第二回化學工業博覽會は開會以來非常の盛況を極め豫想以上の好成績を收めて今日茲に閉會式を舉行せらる本會が我化學工業界の進展に資したること至大なるものあるは朝野一般の認識する所にして我等出品人も亦此盛舉に列して慶賀に堪へず蓋し 總裁宮殿下御裁攬の下に高松會長以下關係諸員各位の奮勵努力に依るものにして其勞誠に感謝に堪へず茲に出品人一同に代り謹で答辭を述べ

大正十五年五月十七日

第二回化學工業博覽會出品人總代

朝鮮館代表 松 浦 瑛 哉

祝 電

一、貴會目出度閉會式を舉行せられ欣賀に堪へず謹みて祝意を表す

南滿洲鐵道株式會社社長 安 廣 伴 一 郎

第六節 總裁宮、同妃兩殿下御招宴

博覽會の成功を非常にお喜び給ひたる 總裁宮、同妃兩殿下には諸員慰勞の爲め六月十七日誠に長多き晩餐會を催され給ひたり此日陸海軍兩大臣を初め商工、農林に加ふるに會期中農林大臣たりし早速藏相も加へ此五大臣に清浦副總裁以下役員、出品人にして特に盡力せられたるもの六十五名を下澁谷の御殿に召され給ふ 殿下には陸軍の通常軍服、妃殿下には純日本風にて別に儀式張りたる拜謁等もなく極めて御打解けたる御様子にて御挨拶あり直に兩殿下御案内にて廣間より直に御庭に降り給ふ此日參候者には特に御庭拜觀を差し許され御居間の前庭迄御開放のこととて御殿の廻廊、御居間の模様、御襖の繪畫まで拜見し誠に恐縮し居るに、兩殿下には松林幽邃のあたりに天幕を張り其中には博覽會の中庭にて評判なりし樂燒きの水野窯業所を招きて二基の竈を用意され花瓶に富士の墨繪、其下へ喜の字を祝ふと書かせられて之を七十七歳の清浦副總裁に下賜されたるを初めとして一同何れも記念の揮毫を爲し、此間兩殿下にはお椅子にも掛け給はす終始御機嫌よく人々に接し給ひ、約一時間も立ち續けられたるは誠に恐懼に堪へざりき午後六時兩殿下には一同を隨へられて食堂に成らせられ美事なる晩餐を賜はりたるがデザートコースに入りに静かに立たせられ左の御演説あり。

先般閉會せし第二回化學工業博覽會は諸君の御盡力に依り意外の好成績を以て終了を見、斯業の發達に相當の貢獻を爲せるものと信す。

元來此化學工業は我國産業の基礎を爲すものにして軍事上は勿論我々日常生活に最も必要なること論を俟たず希くば此好機會に乘じ益々御奮勵ありて一般の發達を期せられんことを御演説に對し高松會長病氣缺席の爲め清浦副總裁は起ちて

私は甚だ潜越ながら御許しを受け一言奉答仕ります

本日は 總裁宮殿下並に同妃殿下の厚きお思召によりまして第二回化學工業博覽會の關係者多數を召させられ御鄭重なる賜餐を辱ふし且つ 總裁宮殿下より優渥なる御訓示を賜はりたるは一同の最も光榮と致す所でありまして感激に堪えない次第で御座います

今回の博覽會は幸に頭初より盛況を呈しまして會期中何等の故障もなく無事圓滿に終了致しましたことは偏へに總裁宮殿下の厚き御指導と御庇護に據る事と存じ一同深く感佩仕ります尙今後に於ける本邦化學工業發展策等に就きましては當事者は一層奮勵努力しまして殿下の厚き御思召に副ひ奉らんことを期する覺悟で御座います

茲に一同に代り謹で奉答し併せて御禮を言上仕ります

宴後別席に於て大亦觀風畫伯の席畫あり兩殿下は御椅子に掛けさせられて熱心に御覽ありたり

斯くて興盡きす途に午後八時に及び事務官より隨意散會然るべしとのことに、兩殿下に一々御挨拶申上げ何れも無上の光榮に喜びのかぐやきを顔に浮べ結構なる御紋章入御菓子折を頂戴して夫々散會せり、翌十八日には殿下再び博覽會關係者役員四百三十餘名を帝國ホテルに召され午後三時左の令旨を下し給へり

令旨

第二回化學工業博覽會は諸氏の協力に依り豫期以上の成績を以て閉會し本邦化學工業の振興上裨益したる所尠からざるを信ず

惟ふに化學工業博覽會は各種の化學製品を一堂に陳列して其の優劣を比較考究し以て將來に於ける斯業の啓發を圖るに在りと雖化學工業の範圍は頗る廣く軍事上並に各人日常の生活上極めて必要なる事業にして即ち一般産業の基礎たるべきものなれば當局者は更に一般の努力を盡し以て本邦斯業の振興に寄與する所あらんことを望む

令旨を拜受するや高松會長病氣缺席のため副會長中松盛雄氏代りて左の答辭を奉れり

答辭

第二回化學工業博覽會開催に際し殿下親しく統裁の任に膺らせられ不肖豊吉等をして幸に大過なきを得せしむ其良績を收め斯業を補裨し文化に貢獻したる所以のもの一に殿下の餘光にして邦家の爲め慶賀に堪へざる所なり

然かも今亦た茲に關係諸員を召されて特に優渥なる令旨を賜はる吾等誠に感激措く能はず爾今愈々奮勵して斯業の振興を圖り以て令旨の厚きに副ひ奉らんことを期す

謹で奉答す

大正十五年六月十八日

第二回化學工業博覽會會長
從三位勳二等 高 松 豊 吉

斯くて殿下には一旦御休憩の後食堂に入らせられ一同之れに従ひ美事なる茶菓を賜はりたるが宴後特に御紋章入り菓子折を下し賜へり

第七章 行啓台臨

第一節 皇太子殿下行啓

皇太子殿下には五月十日午前九時御出門本會へ行啓可被爲在旨被仰出五月七日珍田東宮大夫より通達あり依て本會は直ちに左の通り重なる新聞紙を以て廣告せり

謹告

本月十日午前九時

皇太子殿下 本會へ行啓可被爲在旨被仰出候に付當日還啓迄一般觀覽を止む

當日御陪乘は入江東宮侍從長、供奉は侍從及び侍醫にして午前九時二十分御着あらせられたり。清浦副總裁、正副會長、平山審査總長、平塚東京府知事、四條商工次官、中村東京市長等御車寄に奉迎、其他關係役員、出品人等一同は正門内に整列奉迎す、海軍軍樂隊の奏樂中に高松會長階上へ御先導暫時御休憩次で清浦副總裁、平山審査總長、平塚東京府知事、四條商工次官、高松會長、中村東京市長、鴨居審査部長、中松、牧田兩副會長に拜謁仰付られ次で高松會長は左の通り具に會況を奏上せり、

第二回化學工業博覽會々場全圖

第二回化學工業博覽會出品類別點數表

第二回化學工業博覽會役員名簿

第二回化學工業博覽會出品人名簿

最近三ヶ年間本邦重要化學工業品輸出表

最近三ヶ年間本邦重要化學工業品輸入表

夫より高松會長御先導、清浦副總裁以下關係諸員扈從し奉り參考館、別館、南館、西館、北館、東館、新館及び歐訪飛行機等順次御巡覽出品に對し會長、審査總長、審査部長御説明申上げ又參考館に於ける陸軍

省出品に付ては緒方中將、海軍省出品に付ては藤田少將、臨時窒素研究所のメタノール合成法に付ては小寺同所長、北脇技師、其他山村、廣瀬技師は各擔當品につき尙東京朝日新聞社の緒方氏等の説明を聞召され午前十時二十五分玄關より諸員奉送の中に還啓あらせらる此日特に副總裁以下從業員に御紋章入口付巻煙草御下賜ありたり。

左の二表は本文中に記せる如く行啓の際本會會長より捧呈したるものの一なり依て之を茲に掲ぐ

最近三ヶ年間本邦重要化學工業品輸出表

品名	大正十四年(八月迄)	同十三年	同十二年
陶磁器	二一、七五四、二四六	二五、四三七、一八二	二三、四六〇、二九二
硝子製品	一〇、七七一、五二九	一二、七三五、七一五	一〇、一八七、七八六
砂糖及糖類	二、五〇〇、一六一	二、三六二、五〇五	二、〇〇九、九九二
紙及紙製品	一九、五三二、六二七	三〇、四七九、五九九	一五、四七四、四二〇
薄荷腦、薄荷油、薄荷玉	一五、五二一、四七八	二〇、八四三、二二七	二〇、四七八、六二七
樟腦及樟腦油	一〇、八四八、四三七	一〇、五〇二、七八一	四、六〇七、一一一
鱈油	四、九一〇、六五五	八、〇八五、八〇七	八、九〇七、九五二
魚油及鯨油	五、四三二、九八七	九、二一三、一七八	一〇、六四九、九一五
大豆油	二、五〇八、四四二	三、一七六、八〇八	一、三四一、三八六
大石	一、八四〇、〇八八	一、三九八、三〇二	一、三六二、四六九
麥酒	一、九五六、〇九〇	三、六六四、八三四	二、八六二、四六九
清酒	一、四二七、五二二	二、一九二、一〇二	二、三〇六、八八
漆器	一、一二七、八七三	三、〇一六、一八三	二、九九一、五四六
鐵器	一、一四三、〇三三	一、三四二、九九八	一、二九〇、〇九四
珐瑯	四、六七三、二三四	六、五四六、三三三	四、四〇八、三〇四
銅及黃銅	四、五三九、八八七	五、六二一、六六九	四、五三七、七五六
銀及銅	一、五九〇、三九七	二、四六六、五九一	一、七二三、二六〇
及鋼	三、〇九〇、七三四	二、三四九、四七〇	一、六三八、三五五

最近三ヶ年本邦重要化學工業品輸入表

品名	大正十四年(八月迄)	同十三年	同十二年
肥料(骨粉、油糟)	九三、四三九、八九一	一一〇、三〇二、四八二	一一六、九三〇、二六四
粗製硫酸アムモニウム	二〇、九五〇、四三三	二六、五四二、七六四	二四、九五〇、六〇九
硫油(原油、揮發油、燈油)	三三、六〇一、七九四	五〇、二二〇、三七七	三七、六六六、六七二
パラフィン	三、七八〇、七八〇	六、八五四、四六五	五、四七二、四五〇
生 護	一五、四四九、〇六一	二二、三四二、四七九	一九、三二五、五一三
松 脂	二、一八二、二五九	二、五三四、九二九	二、一〇〇、四九九
コールドター染料	四、四四六、四八一	一、二六五、二四三	九、九八二、〇三八
人造 藍	二、二六三、四七〇	三、八七七、一七〇	三、五五〇、五二〇
曹達灰及天然曹達	五、六〇九、六五三	五、九一一、九九二	四、四五八、四三七
粗製苛性曹達	二、三九八、六一〇	二、六〇四、七二二	三、一五二、三五九
粗製硝酸曹達	三、五一二、一五〇	五、二五九、九八八	八、一九六、一七一
粗製硫酸加里	一、五六六、九八五	一、四一二、四八七	五、四四〇、四九九
牛 脂	四、一三一、九七七	六、九九三、四八二	四、一一九、四七六
醋 酸	一、二三一、七三三	一、七〇二、二二四	一、三六九、四八八
グリステリン	一、四七七、一七八	一、八五五、七四二	一、二四三、七五六
植物性芳香揮發油	二、〇四三、八九〇	四、三〇九、八五四	二、八七八、〇三一
漆	二、〇〇一、二九二	二、八四一、二九三	二、四九二、二四七
タニニシ材料	一、〇五五、〇七九	一、二六六、〇九四	一、三九六、八九六
ダイナマイト	七五、一二三、六	一、一〇七、四五三	一、六二五、四〇九
鐵 及 鐵	七二、二六五、三八三	二〇、八九一、六一七	一、三一一、〇八三、三六一
鐵以外ノ金屬	三四、一〇五、八〇九	五二、三二四、二三七	四〇、八七七、三三六

第二節 皇族台臨

本會開會中左記の御日取を以て御台臨會場御巡覽あらせられたり

四月二十六日

四月二十九日

五月 十日

五月 十一日

第三節 皇后陛下御使御差遣

- 閑院宮華子女王殿下
- 北白川宮永久王殿下
- 朝香宮孚彦王殿下
- 久邇宮邦彦王殿下
- 久邇宮妃倪子女王殿下
- 東伏見宮妃周子女王殿下
- 閑院宮載仁親王殿下

皇后陛下には、畏くも五月十四日御使として大森皇后太夫を御差遣相成り當日午前九時五十分御着各館御巡視の午後三時御退館相成りたるが斯くも長時間に亘りて精細御調査相成りたるは全く陛下の思召によるものと承はる、大森皇后太夫は陛下に御報告申上ぐる爲め諸種の参考品を集め御持歸り相成りたるは誠に本會の光榮とする所なり

第八章 觀覽

第一節 入場料

本會一般の入場料は左の如し

大人	金五十錢
小兒	金二十五錢

又團體割引入場料は左の如し

區別	普通割引	學生團體
五十人以上	二割引	三割引
十人以上	三割引	四割引

小學校生徒の團體は一名に付金五錢
但教員引率の場合に限る

第二節 入場券

本會の入場券は左の數種に區別せり

區別	使用者
入場券	一般入場者
小兒入場券	小兒入場者
軍人入場券	軍人入場者

ポスター入場券

ポスター揭示者

優待券

特に優待する入場者(家族同伴隨意)

招待券

特に待遇する入場者(記名本人限り)

團體入場券

特に招待する入場者

割引入場券

團體入場者
回数券使用者

右の他官衛及法人の大會出席者の觀覽に便せむため特に五割引の入場料割引證を發行せり

第三節 各館觀覽順序

會場建物の位置は卷首に挿入せる配置圖の如くなれども其の觀覽に便なる順序を擧ぐれば先づ正門を入りて右側に並列せる特設館を觀覽し本館(普通出品)の正面玄關より入り右折し南館の東半より東、北、西館を経て南館の西半より玄關に戻り左折し新館に移り新館西口より中庭に出で館外出品を觀覽し中庭噴水池の附近に少憩し再び新館を東口へ出で東中庭を経て東館中央東口を出で海軍飛行機より特設館殘部を觀覽し參考館(陸海軍出品)次に別館(普通出品、官廳出品)を経て別館の西口に出で各館外出品を觀覽し便宜の場所に休憩するか又は餘興を見るなどするを至便とす、

第四節 入場人員

本會の開期は三月十九日より五月十七日までの六十日間にして開會以後豫想以上の好評を博し日に益々盛況を呈せり此の間に於ける天候は晴天四十三日に對し雨天七日曇天十日に及び例年の春季に比し雨日甚だしく其の觀覽者總計四十萬九千七百九十三人にして其の一日平均實に六千八百三十人に達せり此他尙特別招待員并に優待券携帶入場者等を算し來るときは優に七十萬人を超過せしならむ此の如く社會の各級を通じて非常の人氣を惹きたるは復以て本會の開設が極めて時宜に適切なりしを感せずむばあらざるなり今

しめ殊に出品物の陳列は成るべく製造工程順に原料、半製品及製品と比較し得るに便にし更に官廳出品の参考品を陳列し且つ諸般の有益なる實驗及製造實演をなし生徒の見學には生きたる教材として誠に恰當のものにして而かも本會は入場料の團體割引をなし只管各地學校生徒の團體參觀を熱望し文部大臣を通じて各學校の觀覽を勧誘せしに本會の趣旨は幸に各級學校の贊する所となり團體入場人員總數三萬一千三百十三人にして内二萬二千三百四十四人は實に學校生徒の團體入場なりき

第九章 出品人會

第一節 出品人會の事業

出品人會は第二回化學工業博覽會の目的を達成せんが爲め左記出品人會規定に基き出品人全部を一團となし、博覽會當事者と相提携して協力一致其股賑を計るの目的を以て生れたるものにして委員を擧げ更に別記の通り正副委員長及常任委員を設け着々事業の進捗を圖りたるに幸に多數各位の御贊助を蒙り尠ならず金品の寄贈あり爲めに博覽會の計畫、宣傳を援くるに多大の貢獻をなせり。

出品人會規定

- 第一條 本會ハ第二回化學工業博覽會出品人會ト稱ス
- 第二條 本會ハ同會ヲ勢援シ益々殷盛ヲ計ルヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ同會出品人及本會趣旨贊成者ヲ以テ組織ス
- 第四條 本會事務所ハ同會事務所内ニ置ク
- 第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置キ會務ヲ處理ス
 - 委員長 一名
 - 副委員長 一名
 - 委員 若干名

- 第六條 第二條ノ目的ヲ達スル爲メ同會ノ施設以外ノ計畫又ハ催シ物其他ノ事項ヲ行フ但其都度主催側ト協議ノ上之レヲ施行ス
- 第七條 前條ノ經費ハ寄附金ヲ以テ之ニ充ツ
- 第八條 本會ハ同會ノ閉會ト同時ニ收支計算ヲ報告シ之レヲ解散ス

委員長
副委員長
常任委員

東京瓦斯株式會社 社長 渡邊勝三
三共株式會社 平尾贊平
東京製藥同業組合 澁谷幸道
登内尚一 長谷川榮太郎
株式會社森永製品 春日直之助
第二販賣所 堀井新治郎
堀田休四郎 鈴木謙二

而して出品人會事業の主なるものを舉ぐれば

◎市内宣傳

- 一、樂隊旗持巡行
- 二、行燈背負ひ巡行
- 三、電車圖の引札
- 四、ゴム風船玉贈呈
- 五、ピラ及招待券撒布
- 六、新聞廣告

◎餘興

- 一、幫間の珍藝
- 二、落語家の演藝
- 三、藝者の手踊り
- 四、女優變裝探し
- 五、子供デパート福引
- 六、大福引

第二節 收支計算

入金 一金八千四百八拾參圓五拾七錢也

總收入

内譯

金八千壹百八拾圓五拾錢也
金參百〇參圓〇七錢也

寄附金
博覽會より補助金

支出 一金八千四百八拾參圓五拾七錢也

内譯

金四千〇六拾貳圓九拾四錢也
 金壹千七百五拾七圓六拾錢也
 金壹千六百九拾圓〇壹錢也
 金百七拾七圓五拾錢也
 金九拾參圓參拾五錢也
 金百七拾九圓貳拾七錢也
 金四百參拾七圓六拾錢也
 金八拾五圓參拾錢也

總支出
 宣傳費
 餘興費
 福引費
 印刷費
 集會費
 車馬費
 慰勞費
 雜費

第十章 記念品、慰勞金及感謝狀

第一節 記念品御下賜

總裁宮殿下には副總裁以下主事に至る迄重要な關係の各位に對し閉會後記念の爲「カウス釦」を御下賜相成りたり其の製作は御木本眞珠店に命せられしものにて中央は菊の御紋を白金にて其中に眞珠を嵌め菱形に金を以て菊の葉を組合せたるものにして此意匠は若宮殿下の御考案になりしものと洩れ承はる。尙ほ日々本會の事務に従事したる小林理事、鈴木主事兩名には右の外特に御紋章入ネクタイピンを御下賜相成りたり。

第二節 慰 勞

本會は豫期以上の成功を以て無事閉會式を終了したるにつき直接關係の役員、囑託員等に慰勞として夫々金品を贈與したり又五月二十日事務員、守衛、看守、給仕、小使等全員に對しても又夫々賞與せり。

第三節 感 謝 狀

本會の開設に方り率先此の舉に賛同し本會を援助し其盛況に寄與せられ又は化學工業の發展上參考品を出品せられ其資料に寄與せられたる所多大なるものに對しては夫々感謝狀を贈呈したり。

第十一章 收支計算

第一節 補助金及寄付金

本會開催の趣旨は前掲の如く本邦化學工業の振興を圖る爲め國民一般の理解と覺醒とを求め以て化學知識の普及と特に發明思想の増進とを促がし以て國産の増大を奨勵せんとするに在りて本邦の代表的化學製品を網羅し且つ參考品として極めて斬新有益なる研究品を陳列し是等は發明と密接の關係ありしにより商工大臣は發明奨勵費として四千圓を本會へ交付せられたり、又本會の施設を完備する爲め開設資金として寄付せられたる諸氏左の如し。

開設資金寄付人名 (一口金壹百圓)

一〇口	三共株式會社	鹽原 又 策殿	三口	日本ベイント株式會社	小畑源之助殿
三口	小野英二郎殿	一口	株式會社	中井商 店殿	
三口	梶原 仲 治殿	一〇口	株式會社	川崎造船所殿	
一口	淺野 知 定殿	一口	オリエンタル眞工業株式會社	植村澄三郎殿	
一口	久保田 四 郎殿	五口	大正製糖株式會社	濱口儀兵衛殿	
一〇口	松永安左衛門殿	一口	大日本麥酒株式會社	中 出 久 藏殿	
一口	有 島 健 助殿	二五口	神戶瓦斯株式會社	馬 越 恭 平殿	
一口	田中 奎 次 郎殿	五口	糖業聯合會	旭硝子株式會社殿	
一〇口	淺野 總 一 郎殿	一〇口	糖業聯合會	松方幸次郎殿	
一口	保々 誠 次 郎殿	五〇口	糖業聯合會	山本悌二郎殿	
一口	日本皮革株式會社殿	一口	糖業聯合會	横 河 民 輔殿	
一口	秩父セメント株式會社	二口	糖業聯合會	田澤又右衛門殿	

一〇口	藤澤友吉殿	株式會社	平尾贊平商店殿
一口	鹽野吉兵衛殿	株式會社鹽野義商店	鹽野義三郎殿
一口	藤原銀次郎殿	日本製鍊株式會社	日本化學工業株式會社
一口	渡邊勝三郎殿	日本化學工業株式會社	大橋新太郎殿
一口	住友合資會社	旭絹織株式會社	喜多又藏殿
一口	野々村政也殿	大日本セルロイド株式會社	東洋拓殖株式會社
一口	鴻池善右衛門殿	鐘淵新績株式會社	武藤山治殿
一口	鈴木三郎助殿	南滿洲鐵道株式會社	安廣伴一郎殿
一口	加藤晴比古殿	伊東胡蝶園	伊東榮殿
一口	長瀬祐三郎殿	伊東榮殿	新田長次郎殿
一口	旭電工業株式會社	伊東榮殿	兒玉謙次殿
一口	日本石油株式會社	合資會社新田帶革製造所	三井合資會社
一口	森村開作殿	日本毛織株式會社	川西清兵衛殿
一口	株式會社岩井商店	三井合名會社	三井八郎右衛門殿
一口	大日本人造肥料株式會社	高島屋飯田合名會社	澤全雄殿
一口	人造肥料聯合會	電氣化學工業株式會社	服部金太郎殿
一口	曹達晒粉同業會	飯田新七殿	古河合名會社
一口	品川白煉瓦株式會社	古河合名會社	中山太一殿
一口	日本電池株式會社	貝島合名會社	貝島太市殿
一口	株式會社西松商店		
一口	株式會社小林商店		
一口	東京毛織株式會社		
一口	三田土ゴム製造株式會社		

一一四

一〇口	日本麥酒釀泉株式會社	御木本眞珠店殿
三〇口	合資會社清水組	菊池恭三殿
一口	安田保全社	岡本櫻殿
一口	村井貞之助殿	堀啓次郎殿
二〇口	大日本製鍊株式會社	佐々木勇之助殿
五〇口	津村重舍殿	大倉和親殿
一口	明治屋殿	廣瀬實光殿
一〇口	富士製紙株式會社	小倉常吉殿
五〇口	森下博殿	中村房次郎殿
五〇口	三輪善兵衛殿	原邦造殿
一口	山本留次殿	長部文治郎殿
五〇口	田原豐殿	山岡順太郎殿
一口	河西善兵衛殿	加茂増五郎殿
三〇口	南洋興發株式會社	
三〇口	合計	六七一口

第二節 收支決算報告

本會の收支は財務理事に於て審議の上實行せるものなれば閉會後直に理事會を開きて收支を検し更に理事青木菊雄氏の監査を経て主催者たる協會の理事會に報告し是認せられしものにして收支決算左の如し。

第二編 審査報告

科 目		收入之部		支出之部	
會場所用料		會場所用料		會場所用料	
陳列物使用料		陳列物使用料		陳列物使用料	
及建物費用		及建物費用		及建物費用	
裝飾費用		裝飾費用		裝飾費用	
諸給與費		諸給與費		諸給與費	
審查費		審查費		審查費	
計	額	計	額	計	額
一七七、二〇八、九五〇	一七七、二〇八、九五〇	四〇〇、二八四、四九	四〇〇、二八四、四九	一〇九、六八二、三九九	一〇九、六八二、三九九
八、六八九、五〇〇	八、六八九、五〇〇	六、七一〇、〇〇〇	六、七一〇、〇〇〇	三、四四八、五〇〇	三、四四八、五〇〇
一〇七、四八六、二〇〇	一〇七、四八六、二〇〇	八、四七七、五〇〇	八、四七七、五〇〇	六〇、六〇〇、〇〇〇	六〇、六〇〇、〇〇〇
二六、八二九、五〇〇	二六、八二九、五〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	九、九七三、一三〇	九、九七三、一三〇
四、九二七、八〇〇	四、九二七、八〇〇	六、七一〇、〇〇〇	六、七一〇、〇〇〇		
四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇				
六、七一〇、〇〇〇	六、七一〇、〇〇〇				
八、四七七、五〇〇	八、四七七、五〇〇				
四〇〇、二八四、四九	四〇〇、二八四、四九				
儀式及接待費	一四、五五四、七二〇	雜費	四、八八三、八六〇	合 計	三二〇、五五一、二七
會費	一、七九九、一〇〇	請願費	一、四九四、〇〇〇	殘 計	七九、七三三、二二
廣告費	三〇、九七七、六四	被服費	一、九〇六、一〇〇	合 計	四〇〇、二八四、四九
餘興費	七、四三一、一一	備品及消耗品費	五、〇三九、七二		
圖書及印刷費	八、五一九、五九	水道瓦斯電氣料	二、一三七、〇五		
通信及運搬費	四、八四六、六二	舟車馬備賃	六、三六二、〇五		
出品勸誘費	四、二一一、二一	旅費	一、四九四、五二		
旅費	一、四九四、五二	舟車馬備賃	六、三六二、〇五		
舟車馬備賃	六、三六二、〇五	水道瓦斯電氣料	二、一三七、〇五		
水道瓦斯電氣料	二、一三七、〇五	備品及消耗品費	五、〇三九、七二		
備品及消耗品費	五、〇三九、七二	被服費	一、九〇六、一〇〇		
被服費	一、九〇六、一〇〇	請願費	一、四九四、〇〇〇		
請願費	一、四九四、〇〇〇	雜費	四、八八三、八六〇		
雜費	四、八八三、八六〇				

第二編 審査報告

收入之部		支出之部	
科目	金額	科目	金額
入場料	一七七、二〇八九五	會場使用料	四〇、二〇二七六
會場費	八、六八九五〇	陳列棚設備料	一〇九、六八二三九
場所費	一〇七、四八六二〇	及建物使用料	三、四四八五〇
陳列棚賃料	二六、八二九五〇	裝飾費	六〇、六〇〇四〇
販賣手数料	四九、二七八	諸給與費	九、九七三一三
補助金	四、〇〇〇〇〇	審査費	九、九七三一三
寄附金	六七、一〇〇〇〇		
雜收	八、四七七五六		
計	四〇〇、二八四四九		
		儀式及接待費	一四、五五四七二
		會費	一、七九九一〇
		廣告費	三〇、九七七六四
		餘興費	七、四三一五一
		圖書及印刷費	八、五一九五九
		通信及運搬費	四、八四六六二
		出品勸誘費	四、二一一二一
		旅車馬賃	一、四九四五二
		舟車馬賃	六、三六二〇五
		水道瓦斯電氣料	二、一三七〇五
		備品及消耗品費	五、〇三九七二
		被服費	一、九〇六一〇
		請願巡査費	一、四九四〇〇
		消防費	九、八六八〇〇
		雜費	四、八八三八六
		合計	三二〇、五五二二七
		殘計	七九、七三三二二
		合計	四〇〇、二八四四九

第二編 審査報告

緒言

(一)

審査部長 工學博士 小寺 房 治 郎

歐洲大戰勃發以來我邦に於て發達したる化學工業の種類頗る多しと雖、戰亂の終熄と共に衰退に歸したるもの亦一にして足らず、加之大震災の餘殃と財界の不況とは益々斯業界をして不振ならしめたりき。

今や我邦の現狀は化學工業の發達振興に依りて國運の伸張を期せざるべからざる秋に當り、第二回化學工業博覽會の開設によりて斯業の獎勵と改良進歩とに資する所蓋し多大なるものあらん、而して當部に於て審査せる出品物は第一類乃至第二十六類（内第六、七、十三、十四、十五、二十二、二十三類を除く）に屬するものにして其點數五、〇五〇、出品人員六八〇名に達し、之を前回に比するときは何れも其進歩の蹟著しきものあるを認む、今出品中特に注目し値すべきものを擧ぐれば左の如し。

化學工業の基礎工業たる酸「アルカリ」工業出品中、其發達の顯著なるは無水硫酸及發煙硫酸と「アムモニア」曹達法に依る曹達灰工業に如くものなかるべし、前者は有機合成工業の成立上、後者は一般化學工業獨立上共に缺く可からざるものにして特に後者は原料其他の關係上容易に成立し難き工業なりしが、當業者は其技術上に於ける幾多の苦心と其經營上に於ける多大の犠牲とを拂ひ遂に今日あるを得たるは國家産業發達上看過す可からざる事項とす。

電氣化學工業は財界不況の影響を蒙り萎靡振はざるにも拘らず獨り電解曹達工業は當業者の協力一致努力の結果、能く其現狀を維持して輸入額の半を防遏するに至りたるは特に推賞に値す可く、今回の出品亦概ね優良にして外國品に比し毫も遜色なきは當業者の誇とす可し特に副産物たる鹽素及水素の利用竝に其

製品の應用等に關する努力の跡は銘記す可き事實とす、本邦に於ける蓄電池並に電極の製造は當業者苦心の結果空しからず外國品に比して遜色なきものを見るに至りたるは斯業關係諸工業の發達上實に忘る可からざる功績なりと云ふべし、本邦に於ては難工業として久しく外品の跳梁跋扈に委せし亞鉛製造工業は一たび本邦に開始せられてより以來此種事業の沈衰せる今日、能く其現狀を維持し本邦産礦石の消化と輸入原料とに依りて、我需要を充し其製品の優秀外品に比して遜色なきのみならず、燒鑛に依り硫酸製造を行ひ副産物の利用により製品の價格の低廉を圖れる如き當業者の苦心努力又味ふに足るものあり、尙一層其産額を大にして輸入品の防遏を期せざる可からず。

特殊鋼製造工業は研究に研究を重ね各種の優秀なる諸材料を製出するに至り、本邦機械工業上一段の貢獻をなせるは特に牢記すべきこととして尙一層努力して列國に於ける進歩に後れざらんことを期せざる可からず。

窯業品中特記に値すべきものは衛生陶器と板硝子とす、板硝子は其産額百三十萬箱（大正十三年）に達し本邦市場に於ける外國輸入品は僅に其三分の一に達せざるが如き吾人の意を強うするに足るべく、高山耕山の坩器は外國品に比して遜色なきに至りたるは推賞に値すべき所にして將來一層努力して價格の低廉に依り其需要の擴大を期せざる可からず、這回の博覽會に於て本邦固有工業として一大工業たる漆器製品の出品の寥々たるは頗る遺憾とする所にして、此等の狀態に依りて直に該工業の衰退を云爲するは其當を得たるものにあらざるべきも、當業者は本邦特有の位置と其傳來の經歷とに鑑み、最新學術の應用に依り此光輝ある工業を辱しむることなく奮勵努力能く其隆盛を策せざるべからず。

乾溜生成物中「タール」蒸溜工業及松根油工業の進歩は近來著しきものあり、特に「コールタール」蒸溜工業は染料醫藥等の工業に寄與する所甚大なり、染料は其出品點數未だ多しと云ふ可からざるも品質優良にして獨逸品に比して遜色なきもの少からず其進歩の跡大に見るべきものあり、之に依りて本邦染料工業の基礎を確立し得たるは稱讚に値すべし。

本邦油脂工業は硬化油工業の發達によりて一生面を開きたるの感あり、低廉なる大豆油又は魚油より得

たる硬化油或は食用に或は蠟燭、石鹼及「グリスリン」の原料として外國輸入牛脂の代用とならんとするに至りたるは今回の出品に依りて之を知了するを得べく、殊に該工業は國防上重大なる意義あるに鑑み其製品の改善並に産額の増大に一層の努力を捧げざるべからず。

本邦「ベイント」業は建築界の需要旺盛を極めたる結果、其産額著しく増加するに至りたるも其品質未だ完全なりと謂ふべからず、殊に「ワニス」類の如きは外國品に比するときは尙學ぶべき點尠からず將來一層の奮勵を望まざるを得ず。

擬革「リノリウム」の如きは其原料の精選と化學的知識及經驗等により其製品をして單に外觀のみならず其實質に於ても充分其價值を發揮せしむることに努めざるべからず、幸に這回の出品に依り斯く至難なる該工業も本邦に於て獨立し殆ど自給の域に達し相當優秀なる製品を見るに至りたることは誠に喜ぶべきこととす。

本邦に於ける石鹼の需要益々増加すると共に之が自給を完うし、其製造技術又一段の進歩を呈し良好にして安價なる出品を見るに至りたるは、誠に慶賀すべきこととして尙一層價格の低廉に努め輸出の途を講せざる可からず。

文化の進運に伴ひ人造香料、白粉、洗粉、香油等化粧品の需要の増加するは止むを得ざる所にして既に其大部分の自給を見るに至り、今回の出品中其品質外國品に比し遜色なきものを見るに至りたるも、當業者は單純なる品質の改良に満足せず化學的研究に其全力を傾注し價格に比して内容の充實せる化粧品製出を考慮せざるべからず、本邦特産品たる樟腦及薄荷は共に順調の發達を遂げ品質優良・産額増加し共に重要輸出品として海外市場獨占の形勢を馴致せるは特に銘記すべき所にして今回の出品亦製造技術研究の跡歴然たるものあり、希くは益々其聲價の發揚に努め輸出額の増大を期せざる可からず。

現時の進歩せる纖維工業界に於て特に活躍せる人造絹絲を忘る可からず、近時に於ける該工業の發達顯著にして其出現は日尙淺きものあるに拘らず大正九年に於て世界に於ける産額は既に天然絹絲の産額を凌駕し、昨大正十四年に於ては殆ど天然絹絲の倍額を製産するに至れり、本邦の如き天然絹絲の産出國とし

て輸出額八億二千萬圓を算する邦國にありては輕々に看過すべからず、本邦に於ける人造絹絲輸入年額既に三百萬圓に達せるの状況なるを以て之に關する研究と相俟つて天然絹絲の改善發達の途を講せざる可からず、今回人造絹絲の出品三會社中其製品の外國品に比し遜色あるもの無きにあらざるを以て、一層奮勵努力して駁々として止まざる世界各國に於ける該工業に後れざらんことを期せざる可からず、若し夫れ天然絹絲に至りては人智の及び難き所を盡して益々之を發達せしむると共に、其製造費の低減に努め以て人造絹絲の追隨を容さざる域に進め益々其眞價の發揚に努めざる可からず。

「セルロイド」は主として本邦特産品たる樟腦を原料とするものなるを以て、之が製造に關しては他の企及し難き利便を有せるも近時獨逸に於て人造樟腦の出現を唱ふる者あり、將來必しも樂觀を容さざる可しと雖幸に樟樹の培養と樟腦の製造法に最善の努力を拂ひ其研究を重ぬるに於ては斯業の前途俄に悲觀するを要せざる可し、又「セルロイド」製品工業としては既に列國に比して優勝の地位にあること當然なるも該工業は技術及其經營上頗る困難なるものありて近時漸く其確立を見るに至り、這回の出品の如きも多種多様な製品を出したるは其苦心尋常ならざるものあるも尙一層の努力を重ね其産額を増大し以て世界を風靡するの覺悟無かる可からず。

紙は文化の進歩と比例して増加し本邦に於ける需要亦逐年大なる増加あるは慶賀す可きことにして、殆ど其消費額の自給を見るに至りたるは當業者に負ふ所尠からず、殊に這回出品の新開用紙の如きは其生産規模と品質に於て外國品に優れり、各種加工紙に至りては苦心の跡著しく其製品亦優良にして其發達期して俟つ可きものあらん、將來尙一層の奮闘により海外の輸出を増加し以て國富の増進に努めざる可からず。

最後に「アムモニア」合成に依る硫安の出品を見たるは實に欣快とする所にして、設令外國方法の輸入なりとするも本邦の如く多額の窒素肥料を要する國に於て「クルード」式「アムモニア」合成工業の成立と其出品を見たるは、特に當業者に對し賞讃の辭を惜むものにあらざるなり。

(二)

審査部長 工學博士 鴨 居 武

本博覽會に於て審査に附せられたる各類出品中余の擔當に屬せるものは第六類、第七類、第十三類乃至第十五類、第二十二類、第二十三類、第二十七類乃至第三十二類にして合計十三類なり、但し第十四類は出品皆無なりしを以て實際は十二類となれり、今回の出品を第一回化學工業博覽會のものに比較するに工業界の事情も自から一様ならず製品の狀態亦著しく異なるものあり、第一回の際に於ては輸入杜絶に基く應急的製品頗る多く業務輕佻の狀顯然たるものありしが、爾來時代の淘汰を受けて一時的計畫のものは悉く滅絶し基礎確固なるもの、み存続せしを以て製品何れも堅實となり其種類は減少せるも品質は優良のものとなれり、此外第一回當時未だ存在せざりし事業の既に製品を提供するものあり又學術的研究を重んずるの風漸く普及し既に其成績の現はれたるものあり、第一回の際に比して進歩顯著なることを認むるを得るなり、然し或る事業は依然として舊態を存し大に改善を要するものあり、今左に各類に關して梗概を述べし。

護謨及護謨製品にては護謨靴最も多くエポナイト製品、タイヤ類、護謨ベルト等之に次げり、此外護謨球、護謨管、護謨ロール、護謨敷物、玩具、薄護謨製品、防水布、齒科用護謨等あり其數極めて多し、製品の品位に關しては大體に多少の進歩を認めたるも其比較的顯著なるは護謨球、エポナイト製品、護謨靴、タイヤ、飛行機用護謨製品、護謨ベルト、薄護謨布、防水布等なり、以上の外製品極めて不良にして改良を要する點多きもの亦決して少なからず、但し工場規模漸く大にして製品の輸出亦多額なるに至りしは喜ぶべき所なり。

皮革及皮革製品は出品人多からず全國の斯業を網羅せざるの憾あれども、皮革類にては多脂牛革、靴底等の厚物近年著しく進歩せるを認む、ボックス、キッド等の薄物は其仕上、染色作業に於て研究改善の餘地あり、皮革製品中調革は一般に技術向上し大幅物、厚物並に特殊ベルトに於て内地製品完全に自給自足

の域に達せるは喜ぶべし、機械製靴の進歩は近時漸く著しく堅牢優秀なるものを廉價に供給するに至れり
 爆發物に關し黑色火藥、無煙火藥、ダイナマイト類は陸海軍工廠より參考品として出品せるもののみ
 して民間よりの出品なし、故に審査に關係を有せるものはカーリットあるのみ、此者は過鹽素酸安母と珪
 素鐵とを主とするものにして爆力大に吸濕性なし、爆發後多少の臭氣あり密閉所には使用し難きも露天作
 業には便宜に使用せらる、且此爆藥は鹽素に結合せる酸素を利用せるものにして戦時の際窒素化合物に關
 係なく爆藥を得るの點に於て主要なるものなり、燐寸は現今本邦燐寸工場の大半が國際燐寸會社に買收せ
 られし際東洋燐寸會社のみ獨立し其出品は吸濕性なく又過銳或は過鈍ならず品質均一優良なり且本邦製品
 中約三割を占む推賞に値ひするものあり。

礦油及礦油製品は本邦の最大礦油工場たる日本石油會社の製品最も優良にして多數の礦油製品を出した
 ーピン油、モビール油、變壓器油、人造アスファルト等を完成せり、猶は同社の徳用ガソリンは熱分解法
 に依りて新に製造せられたるものにして是が爲めガソリン供給を増加するに至りしは多とすべし其品位亦
 頗る優良なるを見る。

醫藥品は世界大戰と共に歐洲殊に獨逸よりの輸入全く杜絶し窮餘自給自足の止むなきこと、なり遂に斯
 業獨立の端緒を得るに至れり、斯くて各種醫藥品の製造創業さる、と共に新藥新製劑の發明、アルカロイ
 ド、サリチル酸鹽の研究等起り大正八年には邦内の需要殆んど他の供給を仰ぐの要なきに至りしが大戰終
 局と共に漸く衰へ且東京地方は大震災に依りて非常なる打撃を受け再起し能はざるもの少なからざるこ
 と、なれり、是等の事情に依り今回の出品は第一回に比し甚大なる進歩發達を認め得ざる憾あれども然か
 もアルカロイド類、サリチル酸及其鹽類、新藥、新製劑、藥局方製劑、衛生材料等最も注目し値するもの
 あり。

染織物に關しては輸出向綿布染の如き近來綿布の輸出激増せるに中り愈々其技術の改良を遂げ仕上染色
 等に於て外國製品に劣らざるものあり、絹染に於ても富士絹、絹紬、羽二重等の染色亦見るべきものなき
 にあらず、其他内地向染織物も意匠染織等に漸次向上の痕あるは多とすべし、然し又全然舊套を脱せず意

匠仕上等に於て一段の革新を要するものなきにあらず。

砂糖及澱粉の品質は化學的及び嗜好的兩方面より極めて優良にして指摘すべき缺點を見ず、就中甜菜糖
 の純度高きは推賞に値せり、甘蔗糖の製造法は固定し最近特別の變化を示さずと雖も工場管理法として水
 素イオン濃度測定法を採用し機械裝置の設計運轉に改良を行ひ着々進歩發達して今や本邦の斯業は世界糖
 業の模範となるに至れり慶すべき所なりとす、然れども糖蜜中の糖分回收、搾汁率向上等猶ほ研究の餘地
 あるべし、甜菜糖工業は歴史尙ほ淺きに拘らず著しく進歩發達の實を示し純度高き製品を産出せり、然れ
 ども甜菜耕作に關しては猶ほ考究すべき事項甚だ多きが如し、耕作製造共に一層進歩し甘蔗糖のみにては
 供給不足を示せる本邦糖業の充實を期せんことを望む。

酒類及釀造品は第一回化學工業博覽會當時に比すれば釀造方法の改善竝に機械の應用に依り品質著しく
 向上せるを認む、麥酒は其發達驚くべく産額の如き第一回當時に比すれば數倍に上れり品質亦改善せられ
 外國産品に對して遜色なし、酒精及び燒酎は近時競ふて優良なる機械を使用し且大量生産となり品質向上
 製品統一を見るに至れり、醬油及び味噌も亦釀造の規模漸次擴大せられ品質漸く上進整齊せり、抑も酒類
 及び釀造品は從來所謂本場地方に制限せられしが近時他の各地方竝に臺灣鮮滿地方にも優良なる製品を出
 すに至れり實に特筆注目すべき事項なりとす。

飲食品及嗜好品は種類頗る多く今回の出品も二十一種に上るに至れり、故に本類を一括して概評を下す
 は全く不可能なり然かも其一種に就ては茶及び菓子等の外出品點數甚だ多からず同種類内に於て比較評論す
 ること亦困難なるを遺憾とす。

寫眞及寫眞用品中寫眞機械は携帶用暗箱の如き殆んど外國品と伯仲するものあり、然れども高級寫眞鏡
 玉が全部外國製なるは遺憾とする所なり、寫眞材料中オリエンタル寫眞工業會社のガストライト印畫紙あり
 品質優良にして漸次輸入品を驅逐しつつ、あるは喜ぶべし、寫眞藥品中没食子酸は品質良好現像力亦優秀な
 り價格能く低廉なるを得ば外品を防遏するに足らん、要するに本類出品は第一回當時に比較すれば著しく
 進歩せるも諸機械に乾板に印畫紙其他諸材料に輸入に俟つもの極めて多く前途猶ほ遠遠なるものといふべ

印刷及印刷用品中印刷インキは製品概して良好にして能く其目的に副へるもの多し、就中グラビヤ版インキは此版式將來發達すべきものなるを以て更に研鑽して外品驅逐に努むべきなり、チコープ印刷は藥品化粧用品として用途多大なり新式の機械を設備し廉價且多量に之を製作するに至れるは賞すべき所なり、謄寫機は漸次改良せられ使用に便ならしめたる功績著明なるを見る、要するに第一回並に平和博當時に比し改良せられたる形跡明瞭なるを認むるに足れり。

雜種化學製品は多種多様なるが主要のものは殺蟲劑、インキ、繪具、墨、鉛筆、膠、靴クリーム、鏡、釘、織機用品、ベニヤ板等なり、殺蟲劑中硫酸ニコチンは米國製品に遜らず、砒酸鉛亦殆んど外品を驅逐せり、デリス劑は海外に於ても近年漸く認められたる所なるが本邦に於て既に其製出を見たるは喜ぶべし除虫菊は栽培漸次盛大となり殺蟲粉の品質亦向上して決して壞太利品に劣らず殊に蚊取線香は本邦獨得の製品にして輸出向として好個の商品たり、インキは萬年筆用及び筆記用は概して流出良好にして變色せず證券インキ及び製圖用インキは更に工風を要するを見る、墨は分子細密塊質堅硬墨汁漆黒にして良好なるもの少なからず、鉛筆は一般に品質優良にして其心も敢て獨逸製品に譲らざるものあるは慶すべし、釘類には貝釘とアイボリーナット釘との二種あり貝釘は其製法殆んど間然する所なく殊に漂白法に於て著しく良好なるを認む、アイボリーナット釘は染色最も改善せられ今や外品を防遏し得たるのみならず進んで各國に輸出するに至れり、ベニヤ板は其技術著しく進歩し諸種の木材を應用し殊に雜木の利用を圖り、或は飛行機材或は諸工藝品等に使用して其用途も益々擴大せられつゝあり、本邦森林經濟に貢獻する所亦決して少なからざるなり、出品何れも膠着強固均一にして耐水耐熱性に富み變形の患少なきを見る。

(三)

審査部長 工學博士 加 茂 正 雄

本部は第三十三類乃至第四十一類の九類を包容するを以て、化學工業の實施と進歩とに關聯して必要缺

くべからざる機械器具類の一般を網羅する故に其出品多額に上るべきを豫期したるに出品者僅に百三十餘名、出品種類八百七十餘種に止り、特に斯工業の立場より見て、直接最も密接の關係を有する出品數量充分ならざりしは聊か遺憾とする所なり。第三十三類第三十四類第三十七類第三十九類の四種に屬する出品は他類に比較して相當の出品を見たるも其他に屬する出品は其數量遙かに少なり。

本部の類目に包含せられざる出品にして併も本部に於て審査をなすを最も適當なりと信じたる出品二十餘種に對し類外二項目を設け慎重に之を審査したり。

第三十三類の各種模型、醫療用及教育用器械、體溫計及其他硝子製器具、衛生裝置は出品者十五名出品種類百四十一種に上り其出品者中研究と改良とを行ひ進歩著しきもの少なからず。就中標本類の工作法、體溫計の硝子の材質等成績見るべきものあり。

第三十四類の出品は理化學實驗器具機械類にして出品人十七名出品種類百九十種を算す。

概して各出品孰れも構造に或は製作に苦心の跡を認めざるなく、或出品者の製品の如きは品質優秀にして先進國の此種製品に比し遜色なきものあり。然れども尙多少の缺點を有し更に研究、改良の餘地ある出品も尠なからず、當業者の奮勵を望む。

第三十五類に就て見れば其出品者三十一名點數七十二種を算す。

製糖機械及ビ「ロール」機等は考案及製作上に就て大に見るべきものあり。研磨砥石車は比較的多數の出品を有し、其品質に於て相當認むべき點あり、然れども大部分は其原料を外國に仰ぐは大に遺憾とする所なり。

化學工業上最も必要なる耐酸品の出陳ありたるは大に意を強ふするに足る。錠劑製造機械に於て其所要條件に適應したる特殊考案を見たるは悦ぶべき事なり。

要するに本類出品は考案、製作に進歩の跡あるも機械の用材の撰定に就て尙一層の研究を要す。第三十六類は出品者五名品種十四なり。出品化學工業用天秤、瑛瑛製樹、曲尺、及び流速計並に時計等にして概して品質良好なり。就中天秤は用材撰擇の研究と工作に努力したる跡顯著にして進歩歴然たり。

第三十七類の出品者十四名にして品種二百五種に達す。
 電燈及「アセチリン」燈の出品を見るに其進歩顯著にして又考案を凝らせる點に於て推賞に値するものあり。電燈に於ては近時邦人の優秀なる發明考案をなすもの稍多きに至れるは注目すべき事に屬す。「インナー、フロスト」電球及「カナリア」電球等即是なり。近時需用の増加に伴ひ技術又進歩し製品の標準化を畫り交換性製品を見るに至りたるは慶賀すべき事なり。
 第三十八類の出品に係るは冷却及冷蔵装置にして出品者四名、十二種品なり。温濕度調製装置は考案構造共に出色の出品たり。其他の出品も概して設計構造等に相當の改良進歩せる點を認めたるは喜ぶべき事なり。

第三十九類に屬するものは出品者三十七、出品種類二百十六を算す。就中數に於て優たるは「セメント」防水劑、消火器、「アスファルト、ルーフィング」等にして、其品質に就ては保熱材として保温石綿の如きは研究改良の跡著しく「セメント」防水劑の如きは進歩の跡を認む。便利瓦は其販路近年頻に増加したるを見る。概して出品は孰れも新規の發明考案を施したるもの多く一般に多少の進歩を呈せるは欣ぶべき事なり。

第四十類の出品者四、出品種類四にして僅少の出品なり。製袋機及防水紙は稍注目に價す。
 製袋機は幾多の特許及實用新案を應用し、其能率大に糊付も從來のものに比すれば進歩の點あるも封緘部の糊付を手工に待つは一の缺點たるを免れず。強靱性防水紙も特許の方法により製造するものにして屈撓自在なると防水、防蟲の効果あるは良し。荷造用紙として産額多きに及べるは欣くべく、勉むる所あらば將來海外に販路を擴くを得べし。

類外として内燃機及「ポンプ」の二項目を算す。
 内燃機の出品は四種にして出品人三名なり。當會としては此種の原動機の出陳少なきは又當然の事とす。之を以て本邦内燃機製造業の趨勢を卜する事難しと雖も、出品に就て見るに當業者が小規模の設備を以て併も其根本原理を討究し機械の構造或は効率の向上改良に努力を惜まざる傾向あるは斯業の爲め贊すべき

事に屬す。
 「ポンプ」の出品者七名、出品數十八種なりとす。出品中消火用「ガソリン」唧筒は設計構造共に佳良なり。其他の出品に就ても夫々多少の工夫と研究を加へたるものあり。小規模の工場を以てして各自特色を發揮するに勉むるは邦家の爲め喜ぶべし。

第一類 工業藥品及化學用藥品

- 主任審査官 山村 銳吉
- 審査官 松井 元太郎
- 審査官 柴田 勝太郎
- 審査官 増野 實

本類の出品人員は四三、出品點數は三五二にして二府四縣朝鮮及關東州に互り東京府最も多く大阪府之に次ぎ其他よりの出品は其數甚だ少し今出品人員點數及受賞人員を示せば次表の如し。

第壹類 出品人員及授賞表 (出品點數ハ一品一點トス)

府縣名	出品人員	出品點數	名譽賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員ニ對スル百分比
東京府	二八	二三〇	一	一	一	二	二	九	三二、一
大阪府	七	九四	一	一	一	一	一	六	二八、六
神奈川縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇、〇
愛知縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇、〇
靜岡縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇、〇
高知縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇、〇
朝鮮總督府	三	三	一	一	一	一	一	一	一〇〇、〇
滿鐵會計社	四	三五二	一	一	一	一	一	一	三四、九

本類の出品は之を第一回化學工業博覽會に於ける出品人員一三七點數一、一〇三なりしに比すれば、其數著しく減少したるは遺憾とする所なり、是前回に於ては歐洲大戰亂の影響を受け業界の隆盛を見たれども今や戦前の状態に復歸し輸入多く業界の不振に因る所多しと認めらる、然れども其量に於ては劣るとも質に於ては益々進歩し且つ「アンモニア」曹灰法に依る曹達灰、接觸法に依る硫酸等の新事業は經濟的確立をなし事業擴張と生産増大を計畫しつ、あるは眞に欣ぶ可し以下其内容につき概説せん。

硫酸は大日本人造肥料株式會社、東京硫酸株式會社の出品其重なるものなり、全國硫酸工場の數は四九にして鉛室法九五組、塔式一七組、接觸式一五組の設備を有し其總産額二、四〇五、一〇〇噸中約三四%は大日本人造肥料株式會社にて製造す、接觸式硫酸は東京硫酸株式會社にて發烟硫酸一萬噸の産額ありて其品質殊に優良なり而して接觸式の設備は各工場に於て新設或は増設をなしつ、ある狀況にあり、斯く裝置の改良と最新設備とに依り健全なる發達を遂げ優良なる製品を多量に市場に供給するに至れるは一般化學工業の爲め眞に喜ぶ可し。

電氣「アルカリ」工業の發達に伴ひ其副産物たる鹽素の利用に關しては學者並に當業者の研究を怠らざる所なるが、其利用の法として合成鹽酸の製造も益々健全なる發達をなし旭電化工業株式會社、保土谷曹達株式會社、大日本人造肥料株式會社等の出品あり、旭電化工業株式會社にては年産約百二十五萬封度保土谷曹達株式會社にては約七十萬封度の産額あり其製品を見るに比重は一・一九五—一・一八八にして硝酸硫酸等の不純分は殆んど現存せず其品質頗る優良なり、又日本曹達株式會社より鹽化錫、五鹽化磷等の出品あり何れも鹽素利用製品として注目に値するものなり、鹽素利用の途、多方面に開拓せられ製品の種目と生産量の益々増加せんとは電氣苛性曹達工業の發達と共に之を當業者の努力に待たざる可からず。

旭硝子株式會社より曹達灰の出品あり、同社は我が國に於て至難とせられたる「アンモニア」曹達工業につき率先して數年來多大の犠牲を拂ひ研究を重ねたる結果、工業的に之を成立せしめ最初は同社に自給を爲せるのみなりしも漸次其規模を増大し日産額四〇噸能力に擴大するに至り、今や工業的に確立し益々斯業の發達を見るに至りたるは「アルカリ」工業界の爲洵に欣幸とする所にして同社の努力大に賞讃に値すべし。

すべし。

重クロム酸鹽類及クロム酸鹽類は日本製鍊株式會社及び和多利勇作等の出品其重なるものにして前者は年産額四百萬封度なり珪酸曹達も亦日本製鍊株式會社の出品に係り年産額八百萬封度價格六十五萬圓に達す何れも其品質優良にして需要の途益々擴く産額逐次増加しつ、あり、小西安兵衛出品明礬、硫酸礬土並に「アルミナ」及名古屋明礬製造株式會社出品の硫酸礬土明礬は特に進歩したりとも認めざるも大成化學工業株式會社より出品せる硫酸礬土及「アルミナ」は原料を磷酸礬土礦に採り製出せるものにして目下試験研究中に屬し其製品未だ優良なりと云ふを得ず尙研究の餘地を存するも、其製法益々改良せらるゝに至らば豊富なる原料を以て優良なる「アルミナ」を多量に生産し得らるべく「アルミニウム」工業の爲め極めて有望なる事業なりと信す。

小西宗七出品の化學純藥品六十點は純良なるもの多く殊に日本純藥研究所と協力し責任證明を附して之を市場に供給しつ、あり品質益々向上し化學純藥品として漸く世に認めらるゝに至れるは大に賞す可く、大日本製藥株式會社より出品せる酒精、過酸化水素、沒食子酸等亦品質優良なり、又和多利勇作、林亦吉等純藥品の製造に努力しつ、あるは喜ぶ可く將來純度益々向上し種類亦多數に上り、「カールバウム」若くは「メルク」純藥品を凌駕し此等藥品の輸入を防遏し得んことを切に祈る所にして當業者一層の努力を望む。

其他無機化學藥品として日本化學工業株式會社の硝酸加里各種、バリウム鹽類、黃磷、赤磷、鹽素酸加里、沃度加里等の出品あり、橋本與八郎の二酸化「チタン」、四鹽化「チタン」、大日本人造肥料株式會社の液體「アンモニア」、硫化曹達、高度晒粉、眞壁製藥所の鹽化「アンモニア」、伊藤硫曹製造場の精製硫麻、純良舍利鹽、下里製藥株式會社の鹽化亞鉛各種、入交太藏の生石灰、細井製藥所の硫黃華、丹礬、鳥居商店の亞砒酸等の出品あり就中大日本人造肥料株式會社の液體「アンモニア」の如き新製品ありて何れも品質優良見る可きもの多し。

有機化學藥品として本類に出品せるものは其數甚だ少なきも日本醋酸株式會社の醋酸、氷醋酸、「アセト

ン」等皆定評あるものにして品質優良なり北河豊次郎ノ「アセトン」、無水醋酸亦優良なる製品なり。
 醋酸「エステル」類は日本醋酸株式會社、北河豊次郎、堀部喜商店等の出品あり、其他有機化學藥品として特に記す可き製品を見ず蓋し木材乾溜工業は目下不振の状況にありて専ら意を溶劑「エステル」類の製造に注ぎつゝあるを以て此方面に益々進歩發達するものと認めらる。
 要するに本類の出品點數は餘り多からざるも在來の事業は進歩改良の跡を認められ、新事業は確乎たる基礎を作り優良の製品尠からず、尙研究中に屬するものも漸く完成の途にありて益々斯業の進展を期待し得べし。

第二類 電氣化學製品及用品

主任審査官 龜山直人
 審査官 北脇市太郎
 審査官 井上春成

本類に屬する製品の出品人員及出品點數及受賞者數は左の如し。

第一貳類 出品人員及授賞表 (出品點數ハ一品一點トス)

府縣名	出品人員	出品點數	大賞	名譽賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員ニ對スル百分比
東京府	七	八〇							五	七一、四
京都府	一	三							一	〇〇、〇
大阪府	一	二							一	〇〇、〇
神奈川縣	二	三一							一	〇〇、〇
長野縣	一	一							一	〇〇、〇
計	一二	一三七	四	一	一	一	一	一	九	七五、〇

重要なる出品の種類は苛性曹達及其の副産物金屬「ナトリウム」、過酸化曹達、鹽素酸曹達の如き電解製

品、電極「カーバイト」、カーボランダム、アランダムの如き電氣化學製品及び蓄電池、乾電池なり、此等の出品者及出品種類に就きて見るに其の數少く之を以て本邦の電氣化學工業の全般を代表すと稱し難きは化學工業博覽會として誠に遺憾とする所なり、然れども出品せられたるものに於ては優秀なるもの少からず就中最も注目に値すべきは日本電池、湯淺蓄電池兩會社製の鉛蓄電池及び日本カーボン會社の電氣化學用品、電解用の電極なり。

前記兩社製の蓄電池は本邦に於ける斯界の雙壁にして既に定評あり、就中其の潛航艇用蓄電池は我が海軍に於て廣く實用せられ其の成績亦優秀なるを認められたり、潛航艇が國防上重要なこと従つて之が原動力なる電池の自給が極めて國防上重要なこと敢て言ふを俟たず此の點に於て兩社の功績少なからずと云ふべし、尙一層研究し製産費をも減じ廣く斯界の市場に競争し得る日あらむことを望む。
 電爐用電極は電熱化學工業の鍵と稱すべく、優秀なる電極を相當の價格にて供給することは該工業の繁榮に極めて重要なことなり。

日本カーボン會社は本邦最大の電極製造業者にして本邦各地に於ける「カーバイト」製造工場及官立製鐵所を始めとし官民の製鋼工場にして此の社に電極の供給を受くるもの多し、其製品の品位も多年の経験と研究とによりて良好なり、電解用の人造黒鉛電極は電爐電極に比して經驗短く従つて未だ廣く用ひられざるが如きも、既に實用せる處の成績は見るべきものあり、一層努力して「アチエソン」黒鉛を要せざるに到るを望む。

近年政府より實業研究獎勵費を得て「アルミニウム」製造用電極の製造を試み其の製品も一、二、工場に於て試用せられ大體満足の成績を得たりと云ふ、此の種の電極に於ては其の純度の大きると傳導度よきこと及破損消耗の少なきことが極めて重要なが此の出品を見るに灰分約〇・九九%なり。

旭電化工業會社及大日本人造肥料會社は共に本邦に於ける最大電解曹達供給者にして又良く其の副産物なる鹽素及水素を利用せり。

信濃電氣株式會社は本邦に於ける「カーバイト」會社中最も産額の大なるものの一にして其の製品も亦

比較的良好なり、三井鑛山會社は「カーボランダム」及「アランダム」を製造し之を耐火材料及砥石の原料に供すれども其の産額未だ大ならざるを遺憾とす、日本曹達會社は金屬「ナトリウム」及其の製品を出品せり此の工業の確立につき此の會社の努力を多とせざる可からず、當會社に於ては尙食鹽の直接電解による「ナトリウム」の試験を行ひつつあり、其の成績未だ充分ならずと雖も刮目にして待つべきなり、其の他出品に對しては多く言ふを要せず又審査を要せざる出品には理化學研究所の電解鐵、滿鐵中央試験所の「マグネシウム」、沖電氣株式會社の乾電池あり

第三類 金屬及金屬製品

主任審査官 中山 岩藏
 審査官 後藤 正治
 審査官 山村 銳吉
 審査官 吉田 永助

第三類金屬及其製品として出品せられたるものは出品人員五六名、出品點數五六二點にして人員の六割點數の七割四分は東京府に於て之を占む今其出品人員點數及受賞者等を地方別にすれば左の如し

第三類 出品人員及授賞表 (出品點數ハ一品一點トス)

府縣名	出品人員	出品點數	大賞牌	名譽賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員ニ對スル百分比
東京府	二九	四一三	一	一	三	五	五	一	一五	五一、七
大阪府	三	四六	一	一	一	二	一	一	三	一〇〇、〇
神奈川縣	四	二六	一	一	一	一	一	一	一	二五、〇
埼玉縣	七	三六	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇、〇
奈良縣	二	一六	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇、〇
三重縣	二	三	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇、〇
愛知縣	三	六	一	一	一	一	一	一	一	三三、三
朝鮮總督府	五一	一一四	一	一	一	一	一	一	一	二〇、〇
計	五六	五六二	三	一	五	七	五	三	二二	四一、〇

本類に屬するものは大別して金屬材料及金屬製品とに分つ事を得るも其間明瞭に區別し難きものあり、材料として出品せるものは約十名他は凡て製品と認むべきものなり次に主なるものに就きて記述すべし。
 鉄鐵及び特殊鋼 鉄鐵は數點出品ありたるも特に記すべきことなく其陳列亦遺憾の點ある如し、炭素鋼、特殊鋼及び鋼合金の出品中耐酸鐵及其製品大部を占め益々此種事業の進歩を認む、大同電氣製鋼所より耐酸鑄物の試作品の出品せられたるものあり未だ博覽會に於て此種の出品を見ざりし所なり、可鍛鑄物に關しては只一、二會社の出品を見たるのみ。

被覆金屬 被覆金屬としては亞鉛鍍板等の外銅被覆板等の出品ありたり、銅の被覆板は今回始めて博覽會に出品せられたるものにして尙ほ將來研究の餘地多きものと認む、其他「クローム」鍍金の出品せられたるものあり。

軸承合金類 製品多少の進歩を認む而して今回出品せられたるものは從來に比し錫基合金比較的少く中間基鉛基のもの多し、是一面工業界不況を示すものに非ざるなき然れども由來軸承としては中間基及び鉛基合金にて足る事多ければ此點に關しては此現象は寧ろ喜ぶべきことなり、又亞鉛基軸承の出品あり此物は特殊の性質を有し使用に堪へ得るものなれども未だ其利用充分ならざるが如し、又鉛及び「アルカリ」土類金屬より成る軸承金の參考品として出品せられたるものあり、此物は歐洲大戰の際獨逸にて錫基軸承金の代用として創製せられたるものなり此合金の博覽會に出品せられたるは今回が始めてなるべし。
 輕金屬及び其合金 營業會社としての出品は只一會社の「アルミニウム」合金鑄物のみなりしか、官廳の出品は多數に上り「アルミニウム」及び「マグネシウム」合金を見たり。
 參考品中日本輕銀製造株式會社が東京工業試験所試験の「アルミナ」を使用して製出せる「アルミニウム」及び其合金は粘土より製出したる純本邦産のものにして其品質相當に優良、用途により充分使用に耐

ふることを示せり此種純本邦産「アルミニウム」及び其合金の博覽會に出品せられたるは未だ聞かざる所にして將來其製造工業の發達せんことを希望して止まず。

其他の金屬に關しては其出品少く只銅合金製品及亞鉛板等の出品ありたるに止り特に記すべきことなし
凡物類 東京特殊鋼器製作所の出品に係る「ダイヤモンド」印「サビナイ」鋼製凡物類は其價格低廉なりとは云ひ難きも品質、仕上、焼入の程度良好なり、試に薄刃、出刃等に就き其品質を分析せるに炭素〇・一九「パーセント」クロム一三・三二「パーセント」を含有せり此種材質ならば使用中永久光澤を失ふこと無かるべし、硬度は「ショアー」硬度數にて薄刃刃先八二、峯六六乃至七二、出刃は刃先七〇、峯五〇乃至六五なり、此種材質の凡物は全面に焼入れたるを以て往々刃部又は柄部の破損せらるゝ恐れあるにより其數種を取り屈曲試験を行ひたるに相當抵抗力あり使用に差支へ無きものと認めたり。奈良縣出品の薄刃は刃先硬度九〇にして稍焼入れ過ぎたる感あり又同縣出品の「ナイフ」類は其意匠體裁等に今一層の注意を加へられんことを望む。

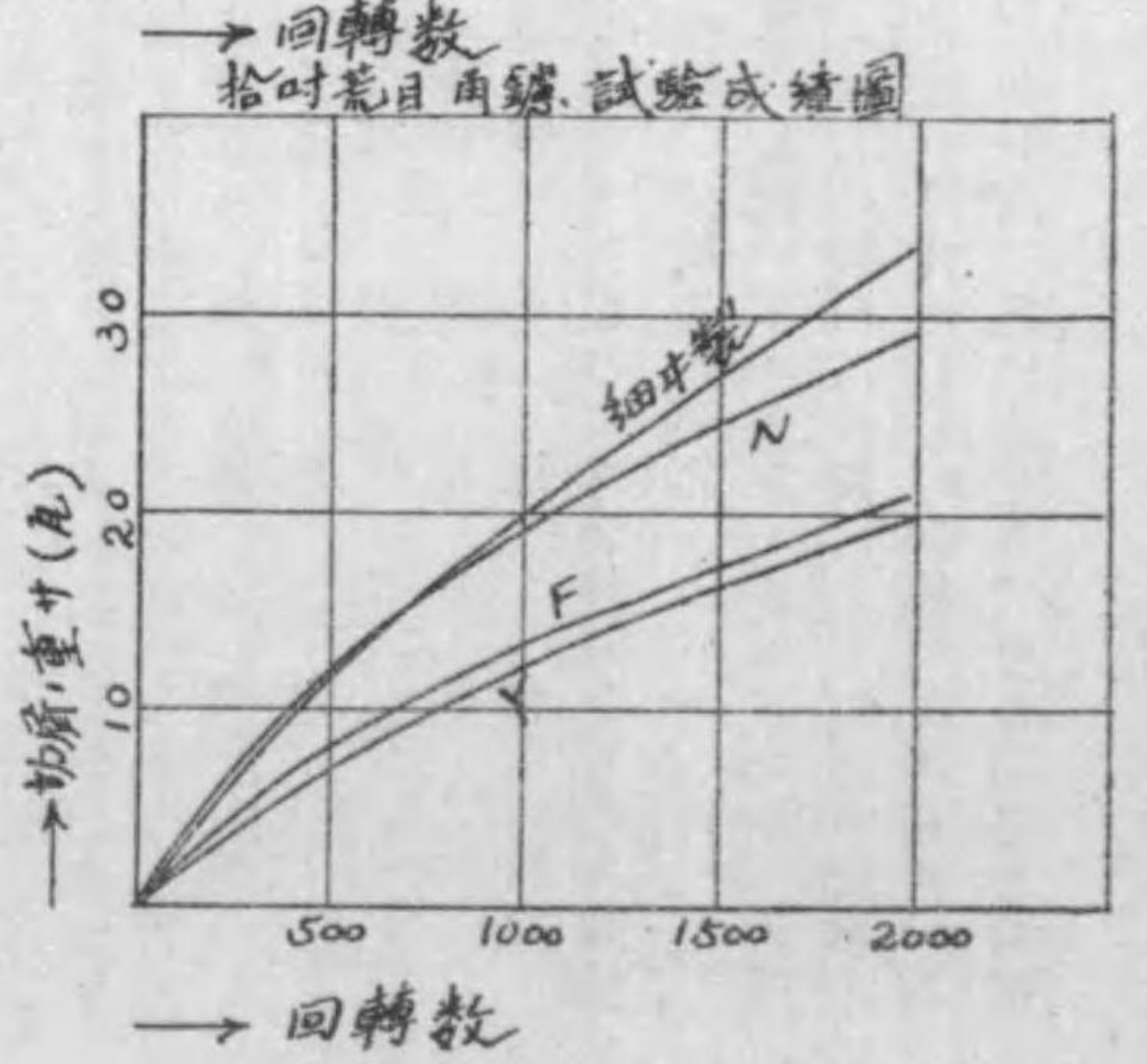
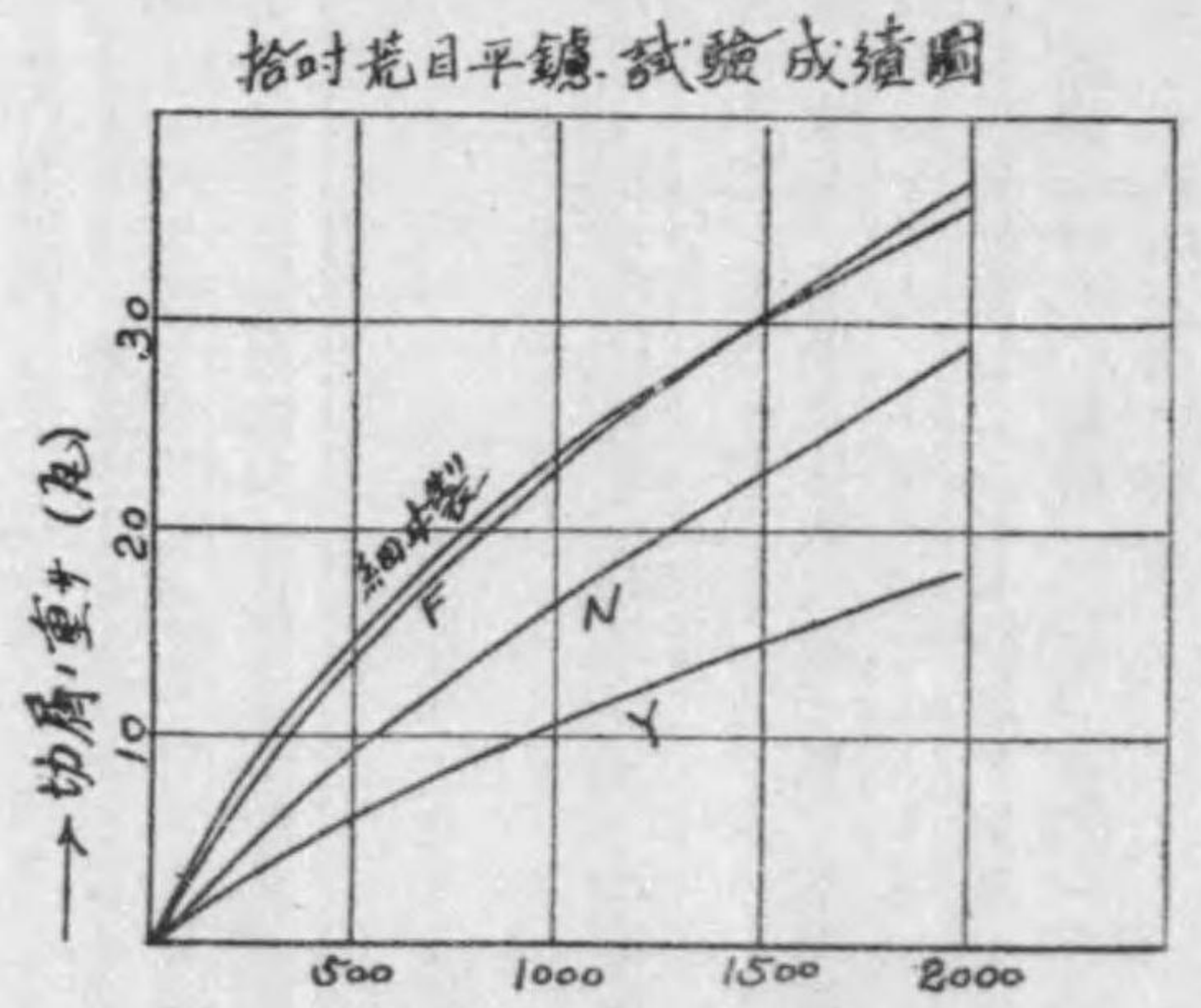
發條及び「ボールベアリング」發條製作工程の主要部は焼入れ作業にして最近金相學の發達につれ、焼入に關する理論も明となり本會出品者帝國發條製作所に於ても焼入に關し常に研究を怠らざるが如きも、未だ焼入と焼戻しの二作業を別々に行ひつゝありて之を同時に行ふこと能はざるが如し尙研究の餘地ありと認め、日本精工株式會社出品の「ボールベアリング」亦其主要工程に焼入作業を含むものにして前者は設計通りの撓度を得るため、後者は使用せる鋼球と同一の硬度を得るためにして兩者共使用中高度の内力を受くるを以て充分なる抵抗力を必要とす、今NSK「ベアリング」を見るに其仕上精密にして硬度宜しきを得たり。

鋸 鋸は一般製造工業に缺く可らざる必要工具にして其需要甚大なり、本會に出品せる細井鋸工場に於ては多量生産に由り輸入防遏に努むる一方廣大なる販路を遠く支那南洋に求め努力しつゝあり國家經濟上慶賀すべき事にして着々發展せむ事を望みて止まざる所なり、同工場出品に係る平拾吋荒目並に角拾吋荒目の二種を取り之を内地に於ける著名の他工場製品並に輸入品と比較試験を行ひたるに左の如き好成績を得たり。

得たり、切削に使用せる材料は外径三吋八分の五、内径二吋八分の七の圓筒形軟鋼管にして「ブリネル」硬度數一八〇のものなり、管の回轉數毎分四〇回にして鋸面に加へたる壓力二五封度管の一端より順次切削する装置とす、靜止せる鋸に加はりたる抵抗力を測定せるに新しき間は大にして順次減少す。

回轉數	500	1000	1500	2000
細井製	11.73	20.23	27.20	33.54
F工場製	8.10	13.11	17.63	21.50
Y工場製	6.93	12.08	17.60	22.66
N外國品	12.23	19.23	24.68	29.68

回轉數	500	1000	1500	2000
細井製	15.30	23.90	30.62	36.13
F工場製	14.06	23.71	31.56	38.16
Y工場製	6.02	9.77	14.34	18.67
N外國品	9.26	16.86	23.66	29.91



右試験は時日に餘裕無きを以て只一回の試験に止まり之を以て全體を測ること能は敢て外國品に劣らず寧ろ好成績を示したるは甚だ以て意を強うする所なり、詳細なる試験結果は他日適當の機會に發表することあるへし。

尙之を詳細に説明するときは獨り素地及釉の改良のみに止らずして或は機械的に進歩し、又は燃料節約に注意して尙且良品を出す如き、及着畫法も勞力を省き然も肉筆と殆ど異らざる様に見せしむるが如き、或は従來の松材窯に代るに石炭窯を以てし然も年毎に良果を收むるに至れるが如き、又は學術の應用に注意するの結果比較的熟練ならざる職工と雖割合に良品を製出するに至れるが如き、又は前回に於て全く出品なかりし水金類の製出創始せられ之が出品を見たるが如き等是なり。

又販路上より論ずれば不景氣時代の比較的永かりしに拘らず陶磁器の貿易は甚だ順調にして年々其金額を増し、大正八年には二、二六〇萬圓なりしものが一躍して大正十四年には三、五〇〇餘萬圓となり六ヶ年間に於て實に五割六分の増加を示すを見るに至れるものあり。

然るに前述の如く主要産地よりは何れも出品せざるの故を以て特に縣別に審査の報告をなす能はざるは先例を破るものにして甚だ遺憾とする所なるも亦止むを得ざることをし出品せし主要品種のみに就ての批評を試むるときは左の如し。

硬質磁器 今回出品せられたるものは日本陶器及東洋陶器の兩社のみ此兩社は共に資本豊富にして技術上の方面には能ふ限りの力を盡して良品の製出に努力しつゝあり、而して一は其販路を主として米國に求め其意匠圖案の如き常に彼の地に人を派して研究するに努めつゝあり、一は又内地用を主とし全國至る所に供給しつゝあり品質何れも優良にして殆ど泰西品と異なる所なし、在米の日本人が外國品と信じ買求め來れる磁器にして往々本邦品を手にするが如き有様であり是東西各國の製品の差の小なるを證するものならんか。

硬質陶器 之に屬する今回の出品物は東洋陶器、日本硬質陶器及松村硬質陶器の三會社品を主とせり其品質は何れも年と共に改良せられつゝあり就中東洋陶器會社は純英國式の製造方法により諸機械は殆ど同國より輸入せり而して同社以外には英國式の機械を使用する所なし、日本硬質陶器及び松村硬質陶器の兩社は共に在來の方法に據れるが如きも何れも進歩の跡を認め得べし、仄聞する所によれば其販路に就て近頃まで各社互に無益なる競争をなしつゝありしが各大に悟る所あり近く之が組合を組織して販賣法を統一

せんとし畫策中なりとは喜ぶべし。

衛生陶器 今回出品せられたるものは東洋陶器及名古屋製陶所の兩社品のみなり東洋陶器は其創立も古く且經驗も多かるべく加ふるに其設備中隧道窯の完成によりて著しく燃料の節約をなし得べく從て今日の有様にては品質に於ても將又價格の點に就ても同社に及ぶものあるを見ず、尙更に同社は其品質研究に餘念なきは喜ぶべし、又名古屋製陶所の製品は元來他社のものを買収し其改良に着手せしものにして其日尙淺きに拘らず製品可なりと雖更に研究の餘地ありと認む。

化學磁器 此部に出品せられたるものは松風工業、西村及石川の三製造所品なりとす、就中松風工業の製品は其創立も古く其品質も佳良なりしが爲内地の需要を充たすのみならず歐洲戰亂中米國へ輸出して高評を得たることあり、爾來引續き輸出の有無を審にせずと雖品質は年毎に研究せられつゝあるを認め得べし、又西村及石川兩所共規模は大なりといひ難きも品質は何れも佳良にして此三社は能く内地の需要に應じ輸入品を防止しつゝあり然れども尙詳細に調査するときは更に研究を重ねるの要あるを認む。

耐酸磁器 此部に屬するものは高山耕山化學陶器會社の出品のみなり同品は其技工頗る優秀なりと認むるも價格稍高きに失するの感なしとせず、尙此部に入るべきものは二、三ヶ所ありと雖今回出品なきを遺憾とす。

磚子 今回出品せられたるものは僅に大阪陶業及品川白煉瓦兩社品を見たるのみ、前者は毎年設備完成に努め最近良品を出すに至れるは喜ぶべし、後者は近時の創設に拘らず品質稍可なりと雖共に更に改良の餘地ありと認む。

元來本邦に於ける磚子業は數年前までは盛に輸入を仰ぎしが近時比較的長足の發達をなし昨今に至りては殆ど輸入杜絶に近づきたるは喜ぶべし、就中其製造に改良を加へられたる日本磚子及松風工業兩社の出品なきは特に遺憾とする所なり。

水金及「ラスター」 其出品者は名古屋市の「センクバイル」商會のみなり其製品は優良にして外國品に比し遜色なく既に斯界に定評あり、本工業は未だ獨立の域に達せざるを以て昨今關稅を改正して之を保

護奨勵せられんとする状態に在り、故に此際尙一層の研究を進め將來は本邦に於て獨立自營の地位に立たしめ輸入を要せざるに至らしめんことを期せざるべからず。

内地向の日用品 本邦が陶磁器國なることは自他共に認容する所にして従て各國にて製作せらるゝものは殆ど如何なる種類のものにても製作せられざるものなく、内地人の常用する日用品の如き亦凡て製作せられざるものなし、其生産額亦甚多きに拘らず今回は此種日用品の出陳の殆ど皆無なるは頗る遺憾とする所なり。

建築用陶磁器及耐火製品 建築用陶磁器の種類は「タイル」、「テラカタ」、瓦、洋瓦及土管にして普通煉瓦及空洞煉瓦の出品を見ざりしは遺憾なり、煉瓦は過般の震災に依りて著しく其聲價を損し需要の激減を來したりと雖尙は少くとも建築及土木工業の補助材料として必要缺く可からざるものなるを以て益々其品質の改良と製造費の低減とに努力するを要す。

貼附煉瓦、壁瓦、敷瓦等の「タイル」類は近年需要の増加に伴ひ其品質に著しき進歩の跡を認む、即ち貼附煉瓦には種々の方法に依りて其表面を粗鬆ならしめたるもの、特殊の考案を以て新規の模様を施したるもの等の出品あり、壁瓦は數年前に於ては不二見燒合資會社、淡陶株式會社等の製造に係るもの他工場等の製品に比し格段の差異ありしも現今にては外觀上甚しき優劣を認めざるに至れり、然れども前記二會社及佐治マイル合資會社の壁瓦は其の品質及意匠に於て尙ほ他の追隨を許さざるものあるが如し、其他壁瓦には無艶釉を施したる優良品を見たるは喜ぶべし、然りと雖本邦産陶器質壁瓦には往々にして年所を経るに従ひ龜裂を生ずるものあり、尙ほ一層の研究を望まざるを得ず、小森陶器研究所の浮彫「タイル」は新陶磁器工藝品中の上乘に屬するものなり、此種の壁瓦は吾邦文化の進歩に連れ漸次其需要を増加すべきものと信ず、或は之を多量に製造して其價格を低廉ならしむるを得ば直に工業として成立するを得べし。敷瓦は品川白煉瓦株式會社の製品特に優良なり、而して此等「タイル」類は近時各種「セメント」製品の發達著しきものあるを以て常に製造法の改良に努めざるに於ては漸次其販路を蠶食せらるゝの憂なしとせず。

現時本邦に於て使用せらるゝ米國風「テラカタ」の製造は茲數年間の發達に係り未だ試製の域を脱せざるものあり、本品の需要は未だ大なりと云ふを得ざるも今後大建築の發達に伴ひ益々増進すべきものなるを以て當業者は先づ工場を完備して製品の改良は勿論其燒成品の均一並に安價に供給し得る點に注意するを要す。

瓦は埼玉縣より多數の出品ありたるも其他の地方殊に愛知縣京都府等の燻燒瓦並に島根縣石川縣等の釉瓦を見ざりしは遺憾なりとす、埼玉縣の瓦は原料の關係上一般に優良なりと稱するを得ず、然れども兒玉瓦業組合の出品は外觀燒度共に良好なり、近年埼玉、愛知、静岡等に於て無釉の赤瓦を産し一部の建築家及需要者の間に好評を博せりと聞く、蓋し在來の黒瓦は重きを外觀に置き燒成の溫度低くして破損し易きに反し、赤瓦は素地燒縮りて強度大なるを以て實用上の價値に富めると一は洋風建築の流行とに因るならん、近時嗜好の變化著しきものあるを以て當業者は在來の銀光澤瓦の外赤色、赤褐色其他の新規なる瓦を工夫して之に應せざる可からず、一方に於て「セメント」瓦は近年大に其品質を改め強度、耐寒性、吸水性等に於ては在來の上等瓦に匹敵し外觀に於ても日進月歩の觀あるのみならず價格は著しく低廉なり、瓦業者は此際大に發奮するを要す。

洋瓦は日本洋瓦株式會社より出品あり、品質は概して優良なるも價格は低廉なりと云ふを得ず、本品は向後益々需要の増加すべきものなるを以て當業者は其工場規模を大にし生産費を低下し以て同業者の簇出に因る無益の競争を豫防し同時に需要者の利益を謀らざる可からず。

陶管の出品は本邦在來の製造法に依れるものにして特に記載すべきものなし、本品は都市下水計畫の進捗に伴ひ其需要の増すべきものなるも現今本邦に於て製造せらるゝものは概して品質粗惡にして「コンクリート」管に其用途を奪はれんとしつゝあるは遺憾なり、獨り株式會社伊奈製陶所が強力なる成形機を備へ且つ食鹽釉を施せる優良品の製造に成功したるは賞すべしと雖其出品なきを遺憾とす。

耐火製品の出品には各種耐火煉瓦、坩堝、管等あり、此等の中耐火粘土、蠟石、珪石、「クロム」鐵鑛又は黒鉛を原料とせる製品に付きては特記すべきものなし、但し近年耐火製品の用途に應じて夫れ／＼製造

法を異にするに至りたるは喜ぶべし、「ダイヤモンド」又は之に類似の原料を主体とせる高級礬土質耐火製品は最近十ヶ年の發達に係り「セメント」廻轉窯用、實驗室用等に供せらる、「マグネシア」耐火製品は滿洲に於て菱苦土礬の發見せられたる以來製造者の簇出を見たるも製鐵事業の頓挫によりて多くは廢業し今や製鐵所を除きては著量の生産なきが如し、マグネシア工業株式會社が此間に於て本事業を繼續したるは賞すべし、今後益々研究に努めて本邦製鋼業の發展に貢獻せむことを望む、次に「アラシダム」或は「カーボラシダム」を原料とする耐火製品は従前海外に其供給を仰ぎたりしが最近三井礦山株式會社が自製「アラシダム」及「カーボラシダム」を以て各種耐火製品を製造せり、殊に其「カーボラシダム」煉瓦が「セメント」廻轉窯に使用せらるるに至りたるは賞すべし、高級礬土質並に「アラシダム」質耐火製品は原料の關係上之を廉價に供給すること困難なるべし、吾人は滿洲に於て一層豊富なる原料の發見せられんことを翹望して止まざるものなり、尙電熱器用及電爐用耐火物の製造は最近顯著なる發達を遂げたり。

硝子及珪瑯鐵器 板硝子は旭硝子及昌光硝子の兩社より「ラバー」式圓筒法機械製の出品ありたり、旭硝子は多年の經驗を積み其技漸次熟練し遂に斯の如き精良品を出すに至りたる其勞苦察すべし、昌光硝子は前年南滿洲鐵道株式會社に於て板硝子の製造を計畫し旁々工場を完成せんとするに當り旭硝子會社と合併成立せられたるものにして同社の製品に就ては吾人心を安じて可ならん、今回平板法機械製の板硝子が日米板硝子株式會社より出品なかりしは遺憾なり。

大日本麥酒株式會社の出品に係る硝子壺は「オーウエン」式自動製壺機械を以て製したるものにして同社製壺工場の當事者が刻苦精勵機械吹に成功し我壺硝子界を誘導したる功績大なりといふべし、徳永硝子製造所出品の硝子壺亦賞するに足るものなり。

島田硝子製造所は夙に空洞硝子器の製造に従事し斯業に盡したる功勞尠からず、同所出品の硝子器は品質に於て又價格に於て大に賞揚すべし。

大連窯業株式會社は元南滿洲鐵道株式會社經營の窯業試驗工場を繼承したるものにして其製品は既に世人の賞讃する所なり、今回出品せる各種硝子器就中薄肉彫刻物は感嘆に値す。

三好硝子製造所は多種多様な押型硝子器を出陳せり其成績甚だ佳なり、其他小西光澤堂の時計硝子、岩城硝子製造所の切り硝子等見るべきものあり。

珪瑯鐵器は一般に技術大に進歩し素地の造形法改良工夫せられたるは喜ぶべし、又其用途益々擴まり家庭用以外建築用とし或は化學用として珪瑯の效能を認めらるるもの多し、尙輸出額に於ても近年頓に増加し大に吾人の意を強うせり、日本エナメル株式會社並に三重珪瑯株式會社は優秀なる製品を出陳せり前者が従來困難とせられたる鑄鐵珪瑯を陳列したるは誇とする所ならん、唯前記珪瑯鐵器出品中に美術工藝に屬する陶磁器品模倣を企てたるが如きものあり、是は珪瑯鐵器の實用品たる本來の性能を没却せるものにして本器には陶磁器若くは硝子を以て代ふべからざる特性あり將來益々其特性を發揮する様努むべきなり「セメント」、石膏及同製品 セメント出品人員一〇名其出品點數一三八點其他の出品人員二二名出品點數四九〇點合計三十二名點數は六二八點なり。

本邦に於ける「セメント」業の現状は一道廳、二府、一六縣の外朝鮮、臺灣、滿洲に及び其會社數二一にして工場數三五を算し其拂込資本額約八、〇〇〇萬圓に達せり。

本邦に於ける「セメント」工業は品質漸次改善せられ従來一平方糎に付九〇〇孔の篩を以て粉末度を檢定し來りたるものも近時四、九〇〇孔の篩に改むるに至れり、此粉末程度は直に其強度に影響するものにして各國共競ふて斯く進みつゝある今日、本邦に於ても同程度のものを製出するに至れるは喜ぶべし、又品質も各社一般に接近し近來は甚しき劣等のものを發見せざるは其設備と技術の進歩とを證するものなり尙「セメント」界に於ける進歩の著しきものとして推賞すべきは燃料の漸減と廢熱利用の完成に在り、斯業に費さるゝ燃料は一樽當り大約一〇〇斤前後なりしものも漸次節約せられ近頃在りては八〇斤乃至九〇斤を以て足り、又従來一樽當り一七乃至二〇「キロ」時を要したる動力を廢熱利用によりて自給し得るに至れることなり、即ち此方法によりて發生したる動力は償却費を合せて尙一「キロ」時當り僅に壹錢前後に相當せり。

次に同品の印度及南洋方面に輸出せらるるもの大正十四年度に於て四〇〇餘萬圓に達せしこと當業者の

努力を多とするに足る。
 更に茲に最も注目すべき現象は斯業が急足の發達を告げつゝあるの一事にして、之が爲舊設工場が未だ充分なる償却を行ふ能はざる間に新設工場は前者の長所のみを採用し、之に經驗に富める技術者を配し低廉なる生産費を以て比較的優秀なる製品を供給し以て舊設工場に對するの有様に在り、而して不健全なる發達又は經營をなしたる工場は徒らに資本を固定し之を一新するの資力と英斷に乏しく、其結果は生産費の點に於て新設工場に一步を遜るの實情にあるもの少からざるが如し此等は斯業者の特に注意考慮すべき事なりとす。

尙博覽會に就ては各社進んで出品せらるべきに今回の如き小數の出品者なるは甚だ遺憾とする所なり。今回の出品は淺野、小野田、日本及磐城等の如き古參者が競ふて出品せられたるは多とすべきも比較的新設の各製造者の出品を見ざるは遺憾なり、唯僅に秩父セメント會社が創業日尙淺きに拘らず最新設計の下に品質良好なる製品を産出し得るに至れるは其努力を賞すべし、一時「セメント」界の注目を惹起せし「ソリデチット、セメント」が未だ所期の發展を遂げ得ざるは一般新製品の受くる種々の障害に依る事ならん、其他特種「セメント」として「マグネシアセメント」の出品を見たり。

近來「セメント」及石膏を膠着劑とする製品は漸次發達し來り今回出品せしものは「セメント」瓦を主とし其他石綿「セメントタイル」、鐵筋「コンクリート」管、「マグネシアセメント」製品及石膏製品あり、而して「セメント」製品中近來世人の注目を惹くに至れるものは「セメント」製瓦なり、本品は其成形方法簡單にして然も其材料の比較的低廉なるが爲粘土製瓦と競争するの餘裕あるに在り、然るに出品物何れも其製法は大同小異にして品質堅牢ならず特に茲に記すべきものに乏し尙一層の研究を要するものと認むるも其他の工場に在りては未だ充分發達を期する能はざるが如し。

最近工業的に製造を開始せる「ヒューム、コンクリート」管は其品質優良にして鐵管代用として上水道並に排水管に應用し得べきものなり、既に濠洲は勿論其他歐洲地方に於ては相當實用化せられしが如きも本邦に在りては未だ試驗時代に屬す、將來一層研究を重ね生産費の節約に努め以て普く應用せらるゝに至らば蓋し其貢獻する處尠からざるべし。

洋風建築の流行に従ひ「マグネシアセメント」製の「タイル」、柱、階段、床、人造石等應用の途多し、然るに又缺點とする所もあり又美點とする所もあり技術者たるもの能く其特性を利用し其缺點を補ふの方法を研究するに至らば蓋し將來有益なる材料の一ならんか。

石膏製品として「タイガーボード」及米穀石膏板の二種あり、前者は石膏の薄板の両面に紙を張りたるものにして普通壁の代用品として震災直後の建築物には特に費用せられたるが如し、品質は比較的堅く將來の見込あるもの、如し後者は石膏粉末に靱殻を混じて製したるものにして内部各所に空所を有し保温の用にも供し得るものとす、併し創始日尙淺く未だ實用化に至らざるが如し共に尙一層の研究を要するものと認む。

第五類 漆液及漆器

主任審査官 平野 茂
 審査官 野間 譽雄
 審査官 小林 正藏

本類に屬する出品點數は四二六點にして出品人員八六人あり其地方別は東京、京都、神奈川、新潟、奈良、三重、愛知、岐阜、山形、石川、富山、香川、福岡の二府一縣及朝鮮に互れり今其出品點數、出品人員及受賞者數を示せば左の如し。

第五類 出品人員及授賞表

(出品點數は一品一點とす)

府縣名	出品人員	出品點數	名譽牌	名譽賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員に對する百分比
東京府	三二	一八〇	一	一	一	三	五	三	一二	三七、五
京都府	一〇	一九							一	一〇、〇

の感あるは惜むべし、朝鮮産螺鈿漆器は模様は特色を有すれども漆法は未だ改良の餘地充分に存するを認む。

輸出漆器に屬する横濱市の出品は芝山細工、外國向小箱及び飲食器類等にして、芝山細工を應用せる塗素地は漆法に改良を要すべく、消金地製品は廉價なるのみならず外國人の嗜好に適すべきを應用の品種は常に一定せるの感あり、小箱類は素地の構造不十分にして又金具は脆弱の嫌ひあれば共に堅牢ならしむる要あり、殊に箱類の内部及び盆類の底部等に於て漆の工程を餘りに省略したるものあるは外觀は勿論實用上より見るも改良を緊要とす、從來輸出漆器は外觀の華麗を期するに急にして内容の改良を閑却したることは一般輸出漆器の通弊なりと雖、今回の出品にも其例少からず之は輸出漆器の信用上大に戒めざる可からず。

要するに本類の出品は化學工業なる名稱を誤解して漆工業者の出品多數ならざりしは遺憾なしとせず、尙漆器は古き歴史を有するに拘らず進歩遅々として他の工業に比し著しく遜色あるは科學を應用すること少きも其一原因にして、又生産額の増進せざるは海外に販路を有する輸出漆器の研究に熱心ならざること及び新用途に付き考究を怠ること其原因なるべし、故に本業の發展を欲せば先づ須く科學を應用して工業的改良を施し、實質を堅牢となし又生産率を増進して工費を低減し次に意匠及び技巧を熟練して其用途に適合せしめ、而して趣味ある製品として各其特色を發揮せしめ以て内外の需要を喚起するに在り、而して輸出漆器の發展に關しては更に當業者の奮勵を望んで已まざる所なり。

第六類 護謨及護謨製品

主任審査官 田中芳雄
審査官 水野範之助
永井雄三郎
護謨及護謨製品の出品人員は四一名にして東京府の二八名を首位とし大阪府、兵庫縣等之れに亞ぐ。其

の出品點數合計三九五點の多數に上れり。今其の出品人員及受賞數を示せば次の如し。

第六類 出品人員及授賞表 (出品點數ハ一品一點トス)

府縣名	出品人員	出品點數	大賞牌	名譽賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員ニ對スル百分比
東京府	二八	三三七	一	一	一	四	七	三	一六	五七、〇
大阪府	四	三九		二				一	二	五〇、〇
兵庫縣	三	三三							三	一〇〇、〇
奈良縣	二	二五								
愛知縣	一	二								
臺灣總督府	四一	三九五	一	三	一	五	七	四	二一	五一、〇

而して出品の種類は依然として護謨靴最も多數を占めたれども猶「エポナイト」製品、タイヤ類及護謨「ベルト」の出品多きを加へたり。此の外に護謨球、護謨管、護謨ホース、護謨ロール、護謨敷物、護謨海綿製品、人形類、玩具、護謨風船、薄護謨製品、防水布、齒科用護謨、護謨製洗濯器、ゴム絆創膏、パンクドメ液等の出品ありたり、製品の品位に關しては凡てに於て多少の進歩を認めたるも其の比較的進歩の顯著なるものは三田土護謨製造株式會社の護謨球、「エポナイト」製品、内外護謨合資會社の自動車タイヤ、人力車タイヤ及自轉車タイヤ、明治護謨合資會社の飛行機用の護謨製品及び「エポナイト」製品、阪東式調帶合資會社及新田帶革製造所の護謨「ベルト」及「バラタベルト」更らに亞いて大和護謨製作所の薄ゴム布製品並に防水布類等なりとす、而して以上の外に製品の極めて不良にして改善を要す可き點多きもの亦決して尠からざるものあるを認めたり而して工場の規模に就ては相當に大規模にして年産百萬圓を超えるもの數工場あり。又製品の多額の輸出を見るに到れるは喜ぶ可し。護謨工業は單なる熟練に依て完成し得可きものにあらず、宜しく最新學理の應用を完全ならしめざる可らず。然るに數工場を除きては根柢ある研究の下に作業するもの尠く從て製品に關する確實なる知識を有せざるもの多きは遺憾とす。猶解説書

に徒らに誇張の記載を爲したるものあり慎む可きことなりとす。要するに本邦に於ける護謨工業は近年著しく進歩の跡を認め輸入を防遏し或は輸出に貢献しつゝあるものなれども概して進歩改良の餘地は頗る大なり。而して地の利を得たる本邦は將來一層の努力に依て益々斯業を發達せしむることを得可し。

第七類 皮革及皮革製品

主任審査官 正 田 桂 太 郎
審査官 植 村 東 彦
審査官 野 口 寅 之 助

本類の出品點數僅に二百十八點出品人員二十八名なり而して是が地方別は東京、大阪、神奈川、愛知、山梨の二府三縣と朝鮮總督府なりとす今其出品點數出品人員及受賞者數とを示せば左の如し。

第七類 出品人員及授賞表 (出品點數ハ一品一點トス)

府 縣 名	出品人員	出品點數	大賞牌	名譽賞牌	金 牌	銀 牌	銅 牌	褒 狀	計	出品人員ニ對スル百分比
東 京 府	七	一四一							七	一〇〇、〇
大 阪 府	二	二七							二	一〇〇、〇
神 奈 川 縣	二	五							二	一七、〇
愛 知 縣	六	二							一	一七、〇
山 梨 縣	三	一五							三	三八、〇
朝 鮮 總 督 府	八	一八							八	四六、五
計	二八	二一八	二	一	一	一	一	一	一三	

本類の出品は前表の如く全國に分布せる皮革工業及皮革製品工業に對比して誠に僅少なり従つて全國の本業を總括的に概評するは稍當を失するの嫌ありと雖も一般に本邦製革業は第一回化學工業博覽會當時に比して大に進歩發達せるは疑を容れざるなり。

日本皮革株式會社の出品は多脂牛革、靴底革、クロム底革、ローラーレザー、ボックス革及調革等なりとす多脂牛革、靴底革の如きは當社特獨の妙味を有し他の製品に比し一頭地を抽んずローラーレザー、ボックス革の如き薄物に在りては未だ樂觀を許さず製革作業に將又仕上染色作業に就て更に研究を要す、調革は近年其製造作業に力を集中せるものと見え其品質一段の向上を示せるは大に喜ぶべし、新田帶革製造所の出品はベルト類、バッキングなり何れも優秀の製品にして自他共に本邦第一と稱する所以のもの蓋し故あるなり、一般に調帶は大幅物、厚物及特殊ベルト等凡て内地製品を以て完全に自給自足の域に達したるは本邦工業界に投じたる福音なりとす。

朝鮮皮革株式會社の出品は靴底革、多脂牛革、クロムボックス革、ウイロー革等なりとす本社の製革技術は近年著しく進歩せるものと認むるを得べし殊に厚物に對する鞣皮、仕上作業に於て其然るを見る然れども一般に之を見れば何れも其仕上作業の十分ならざる憾みを存し且つ運搬中其取扱の不完全なりし爲め其外觀の美を著しく毀損せるは惜むべし將來の注意を要す。

優良製品を得んが爲には優良原皮を撰定せざるべからざるは勿論なるも今回の出品に就て之を見るに稍遺憾の點なき能はず其原皮の供給を支那産のものより收得せんとする場合に於ては單に原料業者よりの取引に委せず更に進んで原産地に入り優良品を獲得せんことを希望して已まざるなり。

皮革製品中第一回化學工業博覽會出品に比し大變發達を示せるものは機械製靴なりとす靴の實用的方面より考ふれば價格の低廉にして耐久性の優秀なるべきは勿論なるも之を從來の手工業に求むるは至難なりとす機械によりて靴を製せんには其原料革は強靱にして優良品たるを要し而して多數を一時に製造し得るを以て自然此目的に合致し靴の需要を普遍ならしむべき可能性を有するものなり而して國民常用の下駄に代ふるに靴を以てせんか國民の活動力を助長し生産能力を増加するものにして將來本業の益々發達すべきは最も明なり今回此種の靴出品者は日本製靴株式會社、櫻組工業株式會社、千代田製靴株式會社、スタンダード靴株式會社、亞細亞製靴株式會社にして此等會社の製品は何れも實用に重きを置き價格亦廉なり機械製靴の使命を發揮せるものと云ふべし然るに櫻組工業株式會社、亞細亞製靴株式會社の製品は何れも非

賣品として價格を表示せず機械製靴半面の特點を没却せるものにして博覽會出品としては徹底せざるの憾みあり。

機械製靴に就て概論せんに我國に於ける靴は其大小區分の表示様式區々多岐に互り加ふるに同一型と稱するものに在りても製造家の異なるに従ひ其大小敢て一定せず需要者の不便此上もなし故に製靴業者は須く共同して靴の寸法、大小の表示方を斷然メートル法に改め全國統一するを要す。

足と木型との關係最も密接なるべきは勿論なるも機械製靴の如く一時に多量製産せんとするものは個々の需要者に對する手工法の如く足の實測に依り木型の修正をなし然る後靴の製作に従事するの迂を採る能はず宜しく當業者は協力して我國民の男女の別及年齢に應じたる標準木型の作成に勤めざるべからず而して是と同時に意匠を用ひ時代の變移に順應するを要す。

今回出品の靴に就て之を見るに出品點數極めて僅少なりしが價格低廉に努力するの餘り實用上の價值竝に品質の點に於て推賞すべきものなかりしは遺憾なりとす一般に工作に精神の籠らざるもの即ち親切ならざるものあり特に金具の粗惡不良なるもの多く隅角部及紐革の取付等全く感心せざるものあり宜しく製品の實質を具備せしむるを以て本領となさざるべからず。

甲府市出品の甲州印傳革製品は何れも價格の廉なるは喜ぶべきも其意匠更に舊套を脱するものあるを見ず其鞣皮法に於ても亦進歩の跡を見出すこと能はざりしは遺憾なり當業者の反省を乞ふや切なり

大阪市株式會社藤森商店の豚革製品は其形狀意匠等に於て大に努力せるものと認むるを得べし由來豚皮革製品は雅致に富み強靱にして耐久力あるが故に歐米人は大に之を愛用す宜しく海外に販路を求め輸出に努力せられんことを希望す。

第八類 壓縮瓦斯

主任審査官 大島 義清
審査官 北脇 市太郎

審査を辭退せるを以て報告せず。
審査官 龜山 直人

第九類 石炭及加工燃料

主任審査官 大島 義清
審査官 伴 義定
審査官 賀田 立二

本類に屬する出品人員は一七名出品點數三〇點なり、今其地方別出品人員、點數及受賞者數を示せば左の如し。

第九類 出品人員及授賞表 (出品點數ハ一品一點トス)

府縣名	出品人員	出品點數	大賞牌	名譽賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員ニ對スル百分比
東京府	四	一二	一						一	二五、〇
大阪府	二	二							二	一〇〇、〇
朝鮮總督府	一一	一六							五	四五、四
計	一七	三〇	一						八	四七、〇

石炭は主として朝鮮の出品なり其の鑛業の規模未だ大ならざるも朝鮮に於ける鐵道、工業、家庭用として使用せられ殊に無煙炭は炭化石灰及煉炭用原料として内地各所に輸入せられつゝあり、炭化石灰用無煙炭は従來南支那、佛領印度支那地方より輸入せられしが近時朝鮮産出の無煙炭を使用するもの多く本邦化學工業に貢獻する所尠からず、又無煙炭を原料とする煉炭は單に家庭用のみならず朝鮮に於ける鐵道等に試用せられ好果を示しつゝあり。

加工燃料は煉炭にして工業用及家庭用の二種あり、原料として無煙炭又は骸炭を使用するもの多く家庭用煉炭に就ては各出品進歩の跡著しきものあり、従來煉炭の家庭に於ける缺點と稱せられたる火附の難き

こと、硫黄臭を有すること及爆跳し易きこと等は漸次改良せられ殊に硫黄臭の如きは著しく改良せられ近
來養蠶用等の燃料として賞用せらるゝに至れるものあり。

煉炭の出品中大阪乾溜工業株式會社及三菱製鐵株式會社兼二浦製鐵所の製品は特に進歩工夫の認むべき
ものあり、前者は文化炭と稱し主として家庭用に供せられ石炭の低溫乾溜によりて得たる半成炭を原料
とす、石炭の低溫乾溜が石炭加工上重要な意義を有する説明を要せず然れども其の工業化に際しては經
済上考慮すべき點の存するものあり、大阪乾溜工業株式會社は本邦に於ける低溫乾溜工業の創始者の位置
にあり半成炭の利用、加工の二方面に就きて年來研究を怠らず今回出品せる文化炭は無煙無臭にして家
庭に於ける新燃料として既に世の定評を有するものなり、尙改良の餘地存するも低溫乾溜を主體として其
の今日に至れるは推賞に値すべし。

兼二浦製鐵所出品の煉炭は同所に於ける骸炭爐産出に係る粉骸炭を利用し之を朝鮮産無煙炭を配合して
造れるものにして工業用を目的とせり、既に滿鮮に於ける鐵道に試用せられつゝあるものにして其の今日
に至る迄の研究は苦心の跡著しきものあり、原料配合の割合、形状、重量等に就て幾多の試験を経たるも
のにして平壤無煙炭の利用と粉骸炭の活用とは一見自家の經濟上より來れるが如きも、滿鮮に於ける工業
燃料上貢獻する所頗る大にして一面に於ては一般に粉骸炭の利用上確實なる一步を劃せるものと稱し得べ
し。

家庭用及家庭的工業用煉炭として數點の出品あり、川澄煉炭株式會社製出のものは豆炭と稱し平壤無煙
炭を主原料とし之に糖蜜を加へて加工せるものなり、家庭用煉炭として完全に近く關西方面に於ける使用
量の莫大なるは其聲價如何を窺ふに足るべし。

第十類 乾溜生成物

主任審査官 大島 義清
審査官 伴 義定

本類に屬する出品人員は一〇名出品點數は七三點なり今其の地方別出品人員、點數及受賞者數を示せば
左の如し。

第十類 出品人員及授賞表 (出品點數ハ一品一點トス)

府 縣 名	出品人員	出品點數	名譽賞牌	金 牌	銀 牌	銅 牌	褒 狀	計	出品人員ニ對 スル百分比
東 京 府	六	四一						一	一六、六
栃 木 縣	一	二						一	一〇、〇
福 岡 縣	一	五						一	一〇、〇
朝鮮總督府	一	四						一	一〇、〇
滿鐵會社	一〇	二一						二	二〇、〇
計		七三							

本類出品物は石炭の乾溜生成物を主とし之に松根油工業並に「メタン」瓦斯發生裝置を含む。
石炭乾溜生成物は骸炭「コールタール」及其の加工品にして品質優良なるもの多く殊に「コールタール」
の分溜及精製品は之を第一回の出品物に比し其の進歩著しきもの多し、「コールタール」の蒸溜及其の成品
は染料、醫藥等の工業上必要缺く可からざるものにして國防並に産業上基礎工業の一なり、本工業は其の
規模の大なること、豊富なる資本とを有するにあらざれば成立することを得ざるは勿論なれども事業の性
質を考へ國家の産業上に及ぼす影響を觀、稍利害の外に超越して之が成立の基礎に努力して始めて成果を
擧げ得べきものなり、三井鑛山株式會社及東京瓦斯株式會社は本邦に於て民間に於ける「コールタール」
蒸溜工業者の第一位に在り且製品の質、量共に斯業者間に於て定評あり、兩社共に創業の日遠くして事業
進展の跡著しく前者は骸炭製造を主業とし後者は瓦斯製造を主體としたるも何れも「コールタール」蒸溜
に就て犠牲的努力を以て今日に至り既に本邦に於ける染料、醫藥、爆藥等の工業に貢獻する所頗る大なる
のみならず今回の出品は品種の増加、品質の改善、新品の試製等何れも見べきもの多く平素の努力の推

こと、硫黄臭を有すること及爆跳し易きこと等は漸次改良せられ殊に硫黄臭の如きは著しく改良せられ近
來養蠶用等の燃料として賞用せらるゝに至れるものあり。

煉炭の出品中大阪乾溜工業株式會社及三菱製鐵株式會社兼二浦製鐵所の製品は特に進歩工夫の認むべき
ものあり、前者は文化炭と稱し主として家庭用に供せられ石炭の低溫乾溜によりて得たる半成炭を原料
とす、石炭の低溫乾溜が石炭加工上重要な意義を有する説明を要せず然れども其の工業化に際しては經
済上考慮すべき點の存するものあり、大阪乾溜工業株式會社は本邦に於ける低溫乾溜工業の創始者の位置
にあり半成炭の利用、加工の二方面に就きて年來研究を怠らず今回出品せる文化炭は無煙無臭にして家
庭に於ける新燃料として既に世の定評を有するものなり、尙改良の餘地存するも低溫乾溜を主體として其
の今日に至れるは推賞に値すべし。

兼二浦製鐵所出品の煉炭は同所に於ける散炭爐産出に係る粉散炭を利用し之を朝鮮産無煙炭を配合して
造れるものにして工業用を目的とせり、既に滿鮮に於ける鐵道に試用せられつゝあるものにして其の今日
に至る迄の研究は苦心の跡著しきものあり、原料配合の割合、形状、重量等に就て幾多の試験を経たるも
のにして平壤無煙炭の利用と粉散炭の活用とは一見自家の經濟上より來れるが如きも、滿鮮に於ける工業
燃料上貢獻する所頗る大にして一面に於ては一般に粉散炭の利用上確實なる一步を劃せるものと稱し得べ
し。

家庭用及家庭的工業用煉炭として數點の出品あり、川澄煉炭株式會社製出のものは豆炭と稱し平壤無煙
炭を主原料とし之に糖蜜を加へて加工せるものなり、家庭用煉炭として完全に近く關西方面に於ける使用
量の莫大なるは其聲價如何を窺ふに足るべし。

第十類 乾溜生成物

主任審査官 大島 義清
審査官 伴 義定

本類に屬する出品人員は一〇名出品點數は七三點なり今其の地方別出品人員、點數及受賞者數を示せば
左の如し。

第十類 出品人員及授賞表 (出品點數ハ一品一點トス)

府 縣 名	出品人員	出品點數	名譽賞牌	金 牌	銀 牌	銅 牌	褒 狀	計	出品人員ニ對スル百分比
東 京 府	六	四一	—	—	—	—	—	—	一六、六
栃 木 縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福 岡 縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—
朝鮮總督府	—	—	—	—	—	—	—	—	—
滿鐵會社	一〇	七三	—	—	—	—	—	—	二〇、〇
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—

本類出品物は石炭の乾溜生成物を主とし之に松根油工業並に「メタン」瓦斯發生裝置を含む。
石炭乾溜生成物は「コールタール」及其の加工品にして品質優良なるもの多く殊に「コールタール」
の分溜及精製品は之を第一回の出品物に比し其の進歩著しきもの多し、「コールタール」の蒸溜及其の成品
は染料、醫藥等の工業上必要欠く可からざるものにして國防並に産業上基礎工業の一なり、本工業は其の
規模の大なること、豊富なる資本とを有するにあらざれば成立することを得ざるは勿論なれども事業の性
質を考へ國家の産業上に及ぼす影響を觀、稍利害の外に超越して之が成立の基礎に努力して始めて成果を
擧げ得べきものなり、三井礦山株式會社及東京瓦斯株式會社は本邦に於て民間に於ける「コールタール」
蒸溜工業者の第一位に在り且製品の質、量共に斯業者間に於て定評あり、兩社共に創業の日遠くして事業
進展の跡著しく前者は散炭製造を主業とし後者は瓦斯製造を主體としたるも何れも「コールタール」蒸溜
に就て犠牲的努力を以て今日に至り既に本邦に於ける染料、醫藥、爆藥等の工業に貢獻する所頗る大なる
のみならず今回の出品は品種の増加、品質の改善、新品の試製等何れも見らるべきもの多く平素の努力の推

獎すべきもの多し。

九州化學工業株式會社の出品は「コールタール」成品中殊に防腐、殺蟲、防臭等に關するものなり、原料を他に仰ぎ之が加工をなすものは本邦に於て其の數多からず同社の如きは其の先をなすものにして將來「コールタール」の少量を産出する瓦斯會社等の成品を集めて之が蒸溜を爲すの期到來すべく、同社が今日に至る努力は遠からずして報いらるゝの日あるべし。

松根油工業製品は多年本事業に従事せる北川多助の出品にして製品の品質良好、進歩の跡見るべきもの多し、殊に「バインタール」は其の品位佳良にして外國製品に比し遜色を見ず惜むらくは其の規模小にして量に於て今後の努力を俟つべきもの多き點あり。

「メタン」瓦斯發生裝置は其の率先者たる佐藤元三郎の出品に係り場内に於て「メタン」瓦斯を發生し之が使用の實況を示せり、元來本裝置は農家等に好適し又晝間多數の人の執務する所等に於て食事の廢物等を利用して「メタン」瓦斯を發生し温湯の供給等をなすに理想的なるも、斯業の多くは其の利點のみを推擧して實際の經費に及ばず庖厨の廢物を以て無償に多量の瓦斯を得らるゝが如く説明し夏冬に於ける瓦斯發生量等に就ては言及すること少し、廢物利用の點に於ては利する所大なるが故に之が使用は推奨すべきも其の範圍に自ら限度あるべく又發生裝置に就ても尙學理上攻究すべき所僅少ならず、又危害豫防裝置等に就ても意を用ひざるは功を急ぐに因すべく本品の如きは既に多年の研究を経たるものなるべきも、今後更に改良を加へ其の應用の範圍に就ても熟考を要すべきものあり。

第十一類 染料

主任審査官	野口寅之助
審査官	平野久保
審査官	富岡惟中
審査官	藤木經明

本類に屬する出品點數は一六三點、出品人員一三名にして其地方別は東京府、大阪府、神奈川縣及び朝鮮總督府に互れり、今其出品點數出品人員及び受賞者數を示せば左の如し。

第十一類 出品人員及授賞表 (出品點數ハ一品一點トス)

府縣名	出品人員	出品點數	大賞牌	名譽賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員ニ對スル百分比
東京府	七	七三		一	一				四	五七、一
大阪府	三	八二		一				一	二	六六、六
神奈川縣	一	三							一	
朝鮮總督府	二	五		二					一	
計	一三	一六三		二	二			一	六	四六、一

而して其出品を通過するに第一回化學工業博覽會より其出品點數及び人員は減少したるも其品質に於ては獨逸品に比較するも毫も遜色なきもの少からずして其進歩の蹟大に見るべきものあるは喜ぶべし、尙は第一回化學工業博覽會當時に於ては其出品多くは試製品にして將來に期待すべきもの少かりしが、今回の出品は兎に角本邦染料製造工業の基礎を確立したるものと認め得べし。

今各種屬につき詳論すれば左の如し。
硫化染料 は大阪日本染料製造株式會社、東京三井鑛山株式會社及び大阪帝國染料製造株式會社の出品に係り黑色青色紺色及褐色のものにして孰れも其純度、濃度及び染着力等優秀なり其製造の進歩顯著なるは稱讚に値すべし。

直接木綿染料 は日本染料製造株式會社及び三井鑛山株式會社の出品に係り本邦多量消費染料の數種は漸く自給し得たるものと認め得べし、日本染料製造株式會社の黑色染料は多大の犠牲を拂ひ研究成功したるものと稱せらる、而して之を獨逸染料「ダイレクト・ディー・ブ・ラック」に比較するときは濃度稍低く染め足につき多少の批難せらるゝ所あるも其品位良好なりと認め得べし、更に將來の研究により其完璧を期すべし。

酸性染料 は日本染料製造株式會社及び三井礦山株式會社の出品に係り比較的品種の少きを遺憾とするも一、二のものは品質良好なり。

鹽基性染料 は主として日本染料製造株式會社の出品にして孰れも品質良好なり、就中「ローダミン」Bは同社が多量の犠牲を拂ひ成功したるものにして尙微量の暗色物を含むも獨逸「バイエル」會社製の「ローダミン」Bに比較し遜色なきもの、如し、此B種に亞で各種の方面に需要多きG種の製造につき努力せられんことを希望して止まず。

酸性媒染染料 は三井礦山株式會社及び日本染料製造株式會社の出品に係り三井礦山株式會社のもの多數を占む、同會社のものは多くは新規製造法に依り其品位亦良好にして毛及び絹に應用し得べし。

媒染染料 は三井礦山株式會社の出品に係り「アリザリン」以下七種なりとす、抑も同會社は正三年本邦に於て頗る難事業と目せられたる染料製造工業を卒先工業的に實施し此「アリザリン」を市場に出し以來、研鑽を進め今日に於ては獨逸馬獅子會社製「アリザリン」と比較し畧同一色相を染出し得べきものに到達せしめ尙其他各色の品種を製造せるは稱讚に値すべし、特に本邦に於て該染料は同會社の特色とも稱すべきものなるが將來其品位を向上せしめ價格を低廉ならしむべく研鑽を進むることを得ば本邦色染工業に對しても多大の効果を寄與し得べきものと信ず。

建築染料 は三井礦山株式會社の出品に係り「インデゴ」、「艶インデゴ」及び「ウシオブリック」の三種なりとす、現今獨逸が此種染料の製造に關しては非常なる決心と努力とを以て猛進しつゝあり、本邦に於ても亦此等染料に對しては特に甚大なる注意を拂はざるべからざるものと信ず。

酸化染料 中「アニリン」油及び「アニリン」鹽は日本染料製造株式會社及び三井礦山株式會社の出品にして共に品位良好なりとす、然れども近時此等のものは輸入制限によりて外國品の杜絶せらるるや内國製品は其以前のものに比し品位劣等となり使用に支障を來すやの風評を耳にするに至れり、果して然らば將來由々敷大事を惹起するに至るべく本邦染料製造工業の前途に對して暗影を投ずるものにして寒心に堪へざるものあり、目下染料假置場設置問題の如きは一面此等の事項に基因するにあらざるなきか大に慎ま

ざるべからざる事なりとす。

油解染料 は東京池田元太郎及び河野學一兩氏の出品にして其品位良好なり、此等の特種染料は其消費量は多量ならざるも各種の方面に應用せらるゝものにして將來益々有望なるものと信ず

「ザリチル酸」は染料中間物として使用せらるゝ、以外本邦に於ては日本酒の防腐劑として使用せらるゝもの多量を含む、而して目下東京三共株式會社に於て製造しつゝあり本品は我國産業獎勵上輸入制限を實施せられつゝあるものにして今回の同會社の出品は其品位良好なり。

其他の中間物の多くは品位良好と認め得べきものあれども其出品點數各一點づゝなるを以て茲に詳論を省略す。

尙其他「レーキ」色素、示指藥、顯色色素及び天然染料等の出品ありたるも少數なるを以て其批評を省略す。

終に臨み染料を商品として取扱ふに當りては其品位の一定不變且つ染色見本に處方書を添附し使用を簡易ならしむること最も緊要なる事項なりとす、從來獨逸染料が本邦色染業者間に於て比較的平易に使用せられたるは、獨逸染料製造會社は孰れも以上の諸點に留意して消費者に對し其使用法に關し何等考慮を煩はさしめざりしによるものにして其用意の周到なること驚嘆に値すべきものあり、本邦染料製造業者も亦如斯準備を整へ國內色染業者の内地製品使用を盛ならしむるは染料製造工業發展上頗る緊要なる事項なりとす。

尙一般に品種の少きを遺憾とす將來益々品種の増加を計ることにつき一層の奮勵を希望して止まず。

第十二類 肥料

主任審査官 北 脇 市 太 郎

審査官 鹽 入 松 三 郎

審査官 增 野 實